

# 令和4年度 横浜市立橘中学校



## 学校教育説明会 資料

令和4年5月25日（水）

- ① 本校の教育課程について
- ② 各学年 評価の流れについて
- ③ 各教科 評価の観点とねらい
- ④ 各教科 年間指導計画（資料 ホームページ）

※プリントで配布したものはホームページにも掲載しています。

学校教育目標	た 互いを認め合い	公・徳				
	ち 着実に心や体を鍛え	徳・体				
	ば 万化に応じて自ら学び	開・知				
	な 何事にも根気強く自ら未来を切り開く	徳・開				
学校概要	創立 46 周年	学校長 兼田 宗明	副校長 大石 敏寛	2 学期制	一般学級: 18	個別支援学級: 4
	児童生徒数: 683 人	主な関係校: 藤塚小学校、今井小学校、初音が丘小学校、仏向小学校				

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	橋中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<自分づくり>	橋中学校 藤塚小学校 今井小学校 初音が丘小学校 仏向小学校	○ 自己肯定感をもち、豊かに表現し、他者と学びあう子ども ・職員の小中学校交流会を年2回実施し、公開授業や教科別討議等を設定する。 ・ブロック教務主任会を年数回実施し年間計画やカリキュラムマネジメント等を協議する。また、ブロック児童支援・生徒指導専任教諭協議会を実施し情報共有や児童生徒指導にかかわる共通理解等を図る。 ・児童が中学校を訪問し、小中学生の交流を深める。

中期取組目標	<p>○だれもが安心して豊かに生活できる温かい学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・互いを認め、学びあい支えあう集団づくりを推進します。</li> <li>・「想像する力」「自ら考える力」「表現する力」「やりとげる力」の育成を、全教育活動を通して推進します。</li> <li>・小中交流を推進し、「学力観」「指導観」の共有化を図り、9年間の一貫カリキュラムの実践と改善を推進します。</li> <li>・個に応じた教育を通して課題解決の達成感を実感させ、自ら進んで学びあう姿勢、粘り強く取り組む意欲の育成を図ります。</li> <li>・全教育活動を通して職員と生徒との関係性を深め、信頼関係を構築し、生徒理解を基にした指導を実践します。</li> </ul>
--------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

重点取組分野	具体的取組
知 生きてはたらく知	①各学年で読書をする時間を設け、読むことに慣れ、その内容を文章で表現する取り組みを行う。 ②各教科において、それぞれの個に応じた学びを引き出し、基礎学力の定着を図る。 ③各教科でICT(Chromebook)を活用した授業を行う。
担当 学習研究部	
徳 豊かな心	①道徳の授業の充実を目指し、他者の考えを認め、物事を深く考える力を育む。 ②人との触れ合いを大切に、他者を思いやる心の成長と人権感覚を高める。 ③体験活動を充実させ、生き方や進路を積極的に考える力を育む。
担当 学習研究部	
体 健やかな体	①保健体育科の授業において、多様な関わり方を大切にしながら生徒が運動に参加できるように授業改善を図る。 ②体育祭や球技大会を生徒が主体となって運営できるようにする。
担当 保健体育科・保健安全部	
公開 コミュニケーション	①自分のよさを生かしながらルールを守って積極的に活動へ参加する態度を育てるために、話し合い活動を大切にする。 ②よりよい人間関係を築くためのコミュニケーション能力を育てるために、ソーシャルスキルトレーニング(SST)を行う。 ③よりよい学校生活を築くための集団への所属感や連帯感を高めるために、学校行事を通じて生徒が協働できるようにする。
担当 特活指導部	
いじめへの対応	① 計画的に「横浜プログラム」の研修を行い、学校全体で未然防止の意識を高める。 ② 年3回以上いじめアンケートや教育相談を実施し、いじめの早期発見を目指す。 ③ 月1回以上定例のいじめ防止対策委員会を開催し、認知された事案の経過確認を確実にを行うことで再発防止に努める。
担当 いじめ防止対策委員会	
人材育成・組織運営(働き方)	① メンターチームを組織し、ミドルリーダーを中心としながら少人数グループで月1回程度の自主研修を行い、経験の浅い職員の育成を図る。 ② 働き方改革の視点から、持続可能な部活動についての検討や組織の役割分担や意義の見直しを行い、生徒の適切な活動時間や職員の心理的安全性の高い環境での働き方について考える。
担当 教務部・メンターチーム	
教育課程学習指導	①基礎的な学力の定着を目指し、各教科等で授業力向上を目指す。 ②研究授業を通じ、各教科等で育てたい資質・能力の三つの柱を踏まえて授業改善を行う。 ③スクールモットーを作成する。
担当 教育課程委員会	
生徒指導	①教員と生徒が共に活動する中で、「自ら気づき、考え、行動できる」ことを目指し、自他を大切にする生徒をより多く育てる。 ②生徒、保護者の心情に寄り添い、情報共有をしながら、より密な連携を図り組織的に取り組む。
担当 生徒支援部	
特別支援教育	①アセスメントを丁寧に行い、個別最適な支援の展開を目指す。 ②ICT機器等を活用して、生徒の学習保障のさらなる充実を目指す。 ③特定非営利活動法人 居場所 そら との連携を図り、生徒・保護者のニーズに寄り添った教育活動を目指す。
担当 特別支援教育委員会	

# 新しい学習指導要領



政府広報オンラインより抜粋

## 〈中学校〉観点別学習状況の評価

- 十分満足できると判断されるもののうち、特に程度の高いもの：A°
- 十分満足できると判断されるもの：A
- おおむね満足できると判断されるもの：B
- 努力を要すると判断されるもの：C°
- 一層努力を要すると判断されるもの：C

各観点の評価を A° =5点、 A =4点、 B =3点、 C° =2点、 C =1点として  
 評定を次のようにします。

組み合わせの代表例	評定と規準
A° A° A° (1 5)	<b>5</b>
A° A° A (1 4)	十分満足できると判断されるもののうち、特に程度の高いもの [15～14点]
A° A° B (1 3)	<b>4</b> 十分満足できると判断されるもの [13～11点]
A A A (1 2)	
A° B B (1 1)	
A B B (1 0)	<b>3</b> おおむね満足できると判断されるもの [10～8点]
B B B (9)	
B B C° (8)	
B C° C° (7)	<b>2</b> 努力を要すると判断されるもの [7～5点]
C° C° C° (6)	
C° C° C (5)	
C° C C (4)	<b>1</b> 一層努力を要すると判断されるもの [4～3点]
C C C (3)	

【1, 2年生の評価の流れ】

令和4年度		内容
日々の授業		授業内での取り組みや小テスト、課題などの評価資料をもとに評価をします。
前期	6月 8日(水) ～9日(木)	第1回 定期試験
	7月 11日(月) ～15日(金)	三者面談 担任より学校生活の様子、学習状況の確認を行います。
	9月 8日(木) ～9日(金)	第2回 定期試験
	10月 11日(火) ～15日(金)	二者面談 【前期】 <評価・評定配付> 【前期<評価・評定>を生徒と担任との面談で渡し、学習面、生活面での今後の課題を整理します。
後期	11月 16日(水) ～17日(木)	第3回 定期試験
	12月 1日(木) ～7日(水)	三者面談 担任より学校生活の様子、学習状況の確認を行います。
	2月 15日(水) ～17日(金)	第4回 定期試験
	3月 13日(月) ～17日(金) <u>(予定)</u>	二者面談 【学年末】 <連絡票配付> 担任と生徒との面談を通して、次年度に向けた課題を整理します。ご希望があれば保護者も交えた三者面談に変更できます。

【3年生の評価の流れ】

令和3年度		内容
日々の授業		授業内での取り組みや小テスト、課題などの評価資料をもとに評価をします。
前期	6月	8日(水) ～9日(木) <b>第1回 定期試験</b>
	7月	11日(月) ～15日(金) <b>三者面談</b> 担任より学校生活の様子、学習状況の確認と、志望校選択に向けて今後の課題の整理を行います。
	9月	7日(水) ～9日(金) <b>第2回 定期試験</b>
	10月	7日(金) <b>進路資料配布</b> 三者面談に向けて、事前に成績を配付します。
		11日(月) ～14日(金) <b>三者面談</b> 志望校選択へ向けての相談を行います。
後期	11月	15日(火) ～17日(木) <b>第3回 定期試験</b>
		25日(金) <b>進路用成績 配付</b>
	12月	1日(水) ～7日(火) <b>進路面談 【志望校決定】</b> 進路用成績をもとに、志望校決定(私立は確定)にむけての三者面談を行います。
	2月	1日(水) <u>(予定)</u> <b>第4回 定期試験</b>
	3月	卒業式の日程が決まり次第決定 <b>【学年末】 &lt;連絡票配付&gt;</b>

※ 進路指導に関しましては、進路説明会、進路だより、学年だよりなどで詳しくお伝えします。

## 3年間でつきたい力

学習の基盤となる資質・能力 ＜言語能力＞	現実的な諸問題に対応し求められる資質・能力 ＜自分づくり＞
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 感じたことを言葉にする力</li> <li>○ 身近な語彙の豊かさ</li> <li>○ 相手の思いを受け止めて聞く力</li> <li>○ 感情語彙の豊かさ</li> <li>○ 伝え合うことで自分の考えを深化させる力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 伝え合うことで自分の考えを深化させる力</li> <li>○ 自分らしさを発揮しようとする姿勢</li> <li>○ 他者を理解する態度・自己を理解する姿勢</li> <li>○ 主体性・積極性</li> </ul>



観点	目標
<b>知識・技能</b>	〈1～3学年〉 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
<b>思考・判断・表現</b>	〈1学年〉 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものすることができるようにする。 〈2学年〉 論理的に考える力や共感したり想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 〈3学年〉 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
<b>主体的に学習に取り組む態度</b>	〈1学年〉 言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。 〈2学年〉 言葉がもつ価値に認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。 〈3学年〉 言葉がもつ価値に認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

評価資料について

観点	指導する事項	主な評価の方法
<p>知識・技能</p>	<p>(1) 言葉の特徴や使い方に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉の働き ・話し言葉と書き言葉</li> <li>・漢字 ・語彙 ・文や文章 ・言葉遣い</li> <li>・表現の技法 ・音読、朗読</li> </ul> <p>(2) 情報の扱い方に関する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報と情報との関係 ・情報の整理</li> </ul> <p>(3) 我が国の言語文化に関する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伝統的な言語文化</li> <li>・言葉の由来や変化</li> <li>・書写 ・読書</li> </ul> <p>上記について、国語の特質を理解し、適切に使う力を身に付けているかを評価します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○定期テスト</li> <li>○小テスト</li> <li>○学習プリント・ワーク・ノート</li> <li>○授業での言語活動</li> <li>○書写</li> </ul> <p>など</p>
<p>思考・判断・表現</p>	<p>A 話すこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話題の設定、情報の収集、内容の検討</li> <li>・構成の検討、考えの形成、表現、共有（話す）</li> <li>・構造と内容の把握、精査、解釈、考えの形成、共有（聞く）</li> <li>・話し合いの進め方の検討、考えの形成、共有（話し合い）</li> </ul> <p>B 書くこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・題材の設定、情報の収集、内容の検討</li> <li>・構成の検討・考えの形成、記述・推敲</li> <li>・共有</li> </ul> <p>C 読むこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・構造と内容の把握・精査・解釈</li> <li>・考えの形成・共有</li> </ul> <p>上記について、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力や思考力、想像力を身に付けているかを評価します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○表現活動（スピーチなど）</li> <li>○定期テスト</li> <li>○小テスト</li> <li>○学習プリント・ワーク・ノート</li> <li>○授業での言語活動</li> </ul> <p>など</p>
<p>主体的に学習に取り組む態度</p>	<p>言葉がもつ価値を認識するとともに、言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を評価します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業での言語活動</li> <li>○学習プリント・ワーク・ノート</li> <li>○学習の振り返り</li> <li>○「知識・技能」や「思考力・判断力・表現力」の学習に対する取り組み</li> <li>○読書カード</li> </ul> <p>など</p>



## 3年間でつきたい力

学習の基盤となる資質・能力 ＜言語能力＞	現実的な諸問題に対応し求められる資質・能力 ＜自分づくり＞
<p>＜知識及び技能＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 事実を解釈し自分の考えを形成する力</li> <li>○ 事実を大まかに捉える力</li> <li>○ 事実等を正確に理解する力</li> </ul> <p>＜思考力,判断力,表現力等＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 伝え合うことで集団を発展させる力</li> <li>○ 考えの妥当性や信頼性を吟味する力</li> <li>○ 他者に的確にわかりやすく伝える力</li> <li>○ 伝え合うことで自分の考えを深化させる力</li> <li>○ 伝える内容を明確にする力</li> </ul> <p>＜学びに向かう力,人間性等＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 互いの考えの違いへの気づき</li> <li>○ 相手の思いを受け止めて聞く力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ よりよい社会を創る態度</li> <li>○ 主体的に社会に参画する姿勢</li> <li>○ 地域貢献する姿勢</li> <li>○ 地域を愛する気持ち</li> <li>○ 共生社会を形成しようとする意識</li> <li>○ 課題に対応する力</li> <li>○ 主体性・積極性</li> </ul>



3観点	目標
<b>知識・技能</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 世界と日本の地域構成,地域の規模に応じてとらえた地域的特色,世界と比べてみた日本の地域的特色などを理解し,その知識を身につけている。</li> <li>○ 我が国の歴史の大きな流れと各時代の特色などを我が国の歴史と関連のある世界の歴史を背景に理解し,その知識を身につけている。</li> <li>○ 現代の社会生活及び政治や経済の基本的な考え方,社会的事象の意義や役割,相互の関連などを理解し,その知識を身につけている。</li> <li>○ 地図や統計,映像など地域に関する様々な資料を収集し,有用な情報を適切に選択して活用する。</li> <li>○ 年表や歴史地図,映像など歴史に関する様々な資料を収集し,有用な情報を適切に選択して活用する。</li> <li>○ 統計や新聞,映像など現代の社会的事象に関する様々な資料を収集し,有用な情報を適切に選択して活用する。</li> </ul>
<b>思考・判断・表現</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地理的事象から課題を見だし,日本や世界の地域的特色を地域の規模に応じて環境条件や人々の営みなどと関連づけて多面的・多角的に考察し,公正に判断する。追求し考察した過程や結果を地図化したり報告書などにまとめたり,発表や討論などを行ったりする。</li> <li>○ 歴史的事象から課題を見だし,我が国の歴史の大きな流れと各時代の特色などを多面的・多角的に考察し,公正に判断する。追求し考察した過程や結果を年表や報告書などにまとめたり,発表や討論などを行ったりする。</li> <li>○ 現代の社会的事象から課題を見だし,社会的事象の意義や役割,相互の関連などを多面的・多角的に考察し,公正に判断する。追求し考察した過程や結果を年表や報告書などにまとめたり,発表や討論などを行ったりする。</li> </ul>



3観点	目標
<b>主体的に学習に取り組む態度</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地理的事象に対する関心を高め、それを意欲的に追求し、広い視野に立って我が国の国土の特色について認識を養おうとする。</li> <li>○ 歴史的事象に対する関心を高め、それを意欲的に追求し、広い視野に立って我が国の文化と伝統について考え国民としての自覚をもとうとする。</li> <li>○ 現代の社会的事象に対する関心を高め、それを意欲的に追求し、広い視野に立ってよりよい社会を考え公民としての自覚をもって責任を果たそうとする。</li> </ul>

### 評価資料について

評価資料	説明	資料とする観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<b>授業での活動</b>	さまざまな事象についての関心を高め、その内容に対してどのように考えているかを評価します。	○	○	○
<b>ノート 各種プリント</b>	授業の内容を、自分なりに整理できているかを評価します。	○	○	○
<b>問題集</b>	基本的な内容を理解するための教材として、授業や家庭学習で活用します。	○		○
<b>レポート</b>	自分が関心をもった事象から課題を見だし、その内容を多面的・多角的に考察し、まとめられたかを評価します。	○	○	○
<b>小テスト</b>	必要に応じて、基本的な知識や思考、技能の定着をはかるために活用します。	○	○	○
<b>定期試験</b>	それぞれの観点での理解度を評価するために活用します。	○	○	○

## 3年間でつきたい力

学習の基盤となる資質・能力 ＜言語能力＞	現実的な諸問題に対応し求められる資質・能力 ＜自分づくり＞
<p>＜知識及び技能＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 事実等を正確に理解する力</li> <li>○ 数学の語彙の豊かさ</li> </ul> <p>＜思考力、判断力、表現力等＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 伝える内容を明確にする力</li> <li>○ 事実等を解釈し自分の考えを形成する力</li> <li>○ 伝え合うことで自分の考えを深化させる力</li> <li>○ 他者に的確に分かりやすく伝える力</li> </ul> <p>＜学びに向かう力、人間性等＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 数学の楽しさやよさに気づき、学習を振り返ってよりよく問題解決しようとする態度</li> <li>○ 学んだことを生活や学習に活用しようとする態度</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 好奇心をもち、物事を追求する姿勢</li> <li>○ 伝える内容を明確にする力</li> <li>○ 他者の考えや思いに対する受容性</li> <li>○ 伝え合うことで自分の考えを深化させる力</li> </ul>



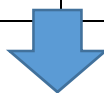
3観点	目標
<b>知識・技能</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 数について、基本的な概念や原理・法則を理解している。また、簡単な整式の加法や減法、整式に数をかける計算、乗法・除法ができる。</li> <li>○ 図形について、基本的な概念や原理・法則を理解している。また、平面図形、空間図形の概念を理解し、面積等を計算によって求めることができる。</li> <li>○ 関数について、基本的な概念や原理・法則を理解している。また、関数についての理解(表、式、グラフを相互に関連付け)を深める。</li> <li>○ 資料の活用について、基本的な概念や原理・法則を理解している。</li> </ul>
<b>思考・判断・表現</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 与えられた情報を分類し整理することができる。</li> <li>○ 課題解決のため、構想をたて、筋道を立て考えたりすることができる。</li> <li>○ 数学的に解釈し表現をしようとしている。</li> <li>○ 他者に的確に分かりやすく伝えることができる。</li> </ul>
<b>主体的に学習に取り組む態度</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えることができる。</li> <li>○ 数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用することができる。</li> </ul>

評価資料について

評価資料	説明	資料とする観点		
		知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に 取り組む態度
小テスト	必要に応じて基本的な知識や考え方、技能の定着をはかるために活用します。	△	△	△
章末テスト	単元ごとの習熟の理解度を評価するために活用します。	○	○	○
解き直し	テストの解き直しを行い、技能や考察を評価します。	△	△	△
定期試験	思考、技能、知識・理解をはかる問題を作成し、それぞれの観点での理解度を評価するために活用します。	◎	◎	◎
解き直し	テストの解き直しを行い、技能や考察を評価します。	△	△	△
授業での 言語活動	授業への取り組みや姿勢などを評価します。	○	○	○
振返りカード	授業の振返りを評価します。本時の学習を通してわかったこと、疑問に思ったこと、質問などを書きます。	△	△	△
ノート	主に板書や問題への取り組みを評価します。	△	△	△
ワーク	問題への取り組みを評価します。	△	△	△

## 3年間でつきたい力

学習の基盤となる資質・能力 ＜言語能力＞	現実的な諸問題に対応し求められる資質・能力 ＜自分づくり＞
<p>＜知識及び技能＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 事実等を正確に理解する力</li> <li>○ 身近な語彙の豊かさ</li> <li>○ 目的や意図に応じて伝えるべきことを整理する力</li> <li>○ 事実を大まかに捉える力</li> </ul> <p>＜思考力, 判断力, 表現力等＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 伝える内容を明確にする力</li> <li>○ 事実等を解釈し自分の考えを形成する力</li> <li>○ 伝え合うことで自分の考えを深化させる力</li> <li>○ 他者に的確に分かりやすく伝える力</li> </ul> <p>＜学びに向かう力, 人間性等＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 互いの考えの違いへの気づき</li> <li>○ 相手の思いを受け止めて聞く力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基本的な生活習慣をつくる態度</li> <li>○ 主体性・積極性</li> <li>○ 課題に対応する力</li> <li>○ 伝え合うことで自分の考えを深化させる力</li> <li>○ メタ認知する力</li> </ul>



3観点	目標
<b>知識・技能</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解する。</li> <li>○ 科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付ける。</li> </ul>
<b>思考・判断・表現</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自然の事物・現象から問題を見いだす。</li> <li>○ 見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究できるようになる。</li> </ul>
<b>主体的に学習に取り組む態度</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究できるようになる。</li> </ul>

評価資料について

観点	説明	主な評価の方法
<p><b>知識・技能</b></p>	<p>自然の事物・現象について、理科の見方・考え方を働かせ、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けているかを評価します。</p> <p>また、観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けているかを評価します。</p>	<p><b>【知識】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○定期テスト</li> <li>○小テスト</li> <li>○プリントやワークシート</li> <li>○説明や話し合いにおける発言・行動の記録 など</li> </ul> <hr/> <p><b>【技能】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○観察・実験等のレポートやノートの記述</li> <li>○観察・実験中の行動観察の分析</li> <li>○実験器具の実技テスト</li> <li>○定期テスト</li> <li>○説明や話し合いにおける発言・行動の記録 など</li> </ul>
<p><b>思考・判断・表現</b></p>	<p>自然の事物・現象の中に問題を見だし、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験などを行い、結果を分析して解釈し、表現しているかを評価します。</p> <p>また、自然環境の保全と科学技術の在り方について、科学的に考察して判断しているかを評価します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○定期テスト</li> <li>○小テスト</li> <li>○観察・実験等のレポート・ワークシート・ノートの記述（考察）</li> <li>○説明や話し合いにおける発言・行動の観察</li> <li>○問題解決にむけて表出した行動・記述 など</li> </ul>
<p><b>主体的に学習に取り組む態度</b></p>	<p>自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度や、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与しようとする態度を評価します。</p> <p><u>「知識・技能」や「思考・判断・表現」の観点の状況を踏まえた上で評価します。</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○説明や話し合いにおける行動・発言の分析</li> <li>○観察・実験のレポートやノートに記述された新たな課題の分析</li> <li>○「知識・技能」や「思考・判断・表現」の主な評価方法に対する取り組み など</li> </ul>

## 3年間でつきたい力

学習の基盤となる資質・能力 ＜言語能力＞	現実的な諸問題に対応し求められる資質・能力 ＜自分づくり＞
<p>＜知識及び技能＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 感情語彙の豊かさ</li> <li>○ 豊かな表現を工夫する力</li> </ul> <p>＜思考力, 判断力, 表現力等＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 感じたことを言葉にする力</li> <li>○ 他者に的確にわかりやすく伝える力</li> <li>○ 伝え合うことで自分の考えを深化させる力</li> </ul> <p>＜学びに向かう力, 人間性等＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 相手の思いを受け止めて聞く力</li> <li>○ 伝え合うことで集団を発展させる力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 主体性・積極性</li> <li>○ 自分らしさを発揮しようとする姿勢</li> <li>○ 伝え合うことで自分の考えを深化させる力</li> <li>○ 他者の考えや思いに対する受容性</li> <li>○ 自己肯定感</li> </ul>



3観点	目標
<p><b>知識・技能</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 音楽を形づくる要素を理解しようとしている。</li> <li>○ 表現するための基礎的な技能を身につけている。</li> <li>○ 曲想に合わせて創造的に表現しようとしている。</li> </ul>
<p><b>思考・判断・表現</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分で感じとったことを音や言葉で表現することができる。</li> <li>○ 音楽表現を工夫し、どのように表すかについて思いや意図をもっている。</li> <li>○ 他とのかかわりを意識しながら音や言葉で表現することができる。</li> </ul>
<p><b>主体的に学習に取り組む態度</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 音楽に関心を持ち、学習活動に積極的に取り組もうとしている。</li> <li>○ 集中して鑑賞し、音楽の特徴を音や言葉で表現しようとしている。</li> <li>○ 感じ取ったことを音や言葉で伝え、周囲の意見を受け入れようとしている。</li> </ul>

評価資料について

評価資料	説明	資料とする観点		
		知識・技能	思・判・表	主体的
授業での 学習活動	毎回の授業で行う、歌唱や器楽などの表現活動において教師とのやり取りや練習の状況から、表現しようとしている姿勢や表現の工夫、技能などを評価します。	○	○	◎
学習記録カード	毎回の授業の学習内容を理解し、毎回自分ができたことや次への課題を記録することで、学びをつないでいけるようにしている姿勢を評価します。			◎
実技試験 (歌・リコーダー)	表現活動で学習してきたことを生かして歌唱テストやリコーダーテストを実施し、自分らしく表現しようとしている姿勢や表現の工夫、技能などを評価します。	◎	○	
音楽の ハーモニー (記録)	学習内容を記録したり、鑑賞した音楽についてまとめたりするなど、鑑賞の記録や技能向上のためのメモとして活用し、その状況を評価します。		○	○
音楽の ハーモニー (ワーク)	定期試験前に学習内容のまとめとして活用し、定期試験後に提出してその状況を評価します。	○	○	○
定期試験 (放送および 筆記テスト)	学習内容のまとめとして、授業で扱った曲をもとに表現するための知識や思考について評価します。 また、放送テストでは簡単な聴音や、学習内容の復習となる放送テストを通して、音楽を聴き取る力や鑑賞した曲の知識について評価します。	◎	◎	



## 3年間でつきたい力

学習の基盤となる資質・能力 ＜言語能力＞	現実的な諸問題に対応し求められる資質・能力 ＜自分づくり＞
<p>＜知識及び技能＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 感情語彙の豊かさ</li> <li>○ 感じたことを言葉にする力</li> <li>○ 伝える内容を明確にする力</li> <li>○ 豊かな表現を工夫する力</li> </ul> <p>＜思考力,判断力,表現力等＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 目的や意図に応じ伝えるべきことを整理する力</li> <li>○ 考えの妥当性や信頼性を吟味する力</li> </ul> <p>＜学びに向かう力,人間性等＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 表現の面白さへの気づき</li> <li>○ 表現の豊かさへの気づき</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 夢や目標をもち、生き方を追求する姿勢</li> <li>○ 自己肯定感</li> <li>○ 他者の考えや思いに対する受容性</li> <li>○ 自分らしさを発揮しようとする姿勢</li> </ul>



3観点	目標
<b>知識・技能</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 美術に関心をもち、主体的に表現や鑑賞の学習に取り組もうとしている</li> <li>○ 様々な工夫をすることで、創作活動を続けようとしている。</li> <li>○ 意図に応じて表現するための基本的な表現技能を身につけている。</li> <li>○ 意図に応じて、表現方法などを創意工夫できる。</li> </ul>
<b>思考・判断・表現</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 表現したいことを、簡単なスケッチで描くことができる。</li> <li>○ キーワードや心に残った絵などをもとに、イメージを膨らませることができる。</li> <li>○ 組み合わせを工夫したり、視点を変えるなどしたりしてアイデアを深めることができる。</li> <li>○ 意図に応じて、感性や造形感覚などを働かせ、表現方法などを創意工夫できる。</li> </ul>
<b>主体的に学習に取り組む態度</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 美術作品などを味わい、基礎的な理解や見方を広げる。</li> <li>○ 美術作品などを味わい、心豊かに生きることと美術のかかわりへの関心を高め、理解や見方を深める。</li> <li>○ 美術が果たす社会的役割について考え、理解や見方を深める。</li> </ul>

評価資料について

評価資料	説明	資料とする観点		
		知識 技能	思考 判断 表現	主体的 に学習 に取り組む 態度
作品	テーマが明確で、自分の表したい内容に応じた画面構成、表現方法を工夫しているかなど評価します。	◎	◎	◎
授業での 制作活動	見通しを持って計画的に取り組んでいるか、持ち物の準備、片付けの状況などを、評価します。			○
ワークシート	作品の構想を練る段階でのイメージの豊かさ、発想の転換、自己テーマの深まりを評価します。また、各単元の学習に沿って記入ができているか、振り返り・反省などの状況の評価します。	◎	◎	○
スケッチブック	ワークシートなどプリントの整理や、板書の記入、イメージスケッチやアイデアスケッチ用として使います。			○
小テスト	ペーパーテストや実技テストを必要に応じて行います。	○	○	○

## 3年間でつきたい力

学習の基盤となる資質・能力 ＜言語能力＞	現実的な諸問題に対応し求められる資質・能力 ＜自分づくり＞
＜知識及び技能＞ ○伝え合うことで自分の考えを深化させる力 ○身近な語彙の豊かさ  ＜思考力，判断力，表現力等＞ ○他者に的確にわかりやすく伝える力 ○伝える内容を明確にする  ＜学びに向かう力，人間性等＞ ○相手の思いを受け止めて聞く力	○ 自己肯定感  ○ 他者の考えや思いに対する受容性  ○ 伝え合うことで自分の考えを深化させる力  ○ メタ認知する力  ○ 主体性・積極性



3 観点	目標
知識・技能	○各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身につけるようにする。
思考・判断・表現	○運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
主体的に学習に取り組む態度	○生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。

## 評価資料について

評価資料	説明	資料とする観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
●授業への取組	準備や片づけを含む全ての学習活動の中で学びに向かう姿を評価します。 自他の課題解決につながる発言等の伝え合う場面を評価します。 授業中の練習から基本的な技能を評価します。	◎	◎	◎
●学習カード	自他の課題を発見し、めあてを設定しながら課題解決していく力を評価します。	◎	◎	○
●学習ノート	保健学習において毎時間の学習内容を記録したり、知識理解の問題を解いたりすることによる知識の定着に向けた姿を評価します。	○		◎
●実技テスト	それぞれの運動の特性に応じた基本的な技能や発展的な技能を評価します。	◎		○
●試合、記録会、発表会等への取組	取り組みの姿勢や、それぞれの運動の特性に応じた技能を評価します。	◎		○
●定期試験	体育分野や保健分野についての知識の定着度を評価します。	◎		○

## 3年間でつきたい力

学習の基盤となる資質・能力 ＜言語能力＞	現実的な諸問題に対応し求められる資質・能力 ＜自分づくりに関する力＞
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 考えの妥当性や信頼性を吟味する力</li> <li>○ 他者に的確に分かりやすく伝える力</li> <li>○ 言語で正確に伝える力</li> <li>○ 目的や意図に応じて伝えるべきことを整理する力</li> <li>○ 事実等を正確に理解する力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ よりよい社会を創る態度</li> <li>○ 主体的に社会参画する姿勢</li> <li>○ 共生社会を形成しようとする意識</li> <li>○ 地域に貢献する姿勢</li> <li>○ 様々な情報を活用・選択する力</li> <li>○ 課題に対応する力</li> </ul>



3観点	目標
知識・技能	<p>＜技術分野＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生活や社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深める。</li> </ul> <p>＜家庭分野＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。</li> </ul>
思考・判断・表現	<p>＜技術分野＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を養う。</li> </ul> <p>＜家庭分野＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。</li> </ul>
主体的に学習に取り組む態度	<p>＜技術分野＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。</li> </ul> <p>＜家庭分野＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。</li> </ul>

評価資料について

評価資料	説明	観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業の 取り組み	【技】前時の学習内容を確認する授業内テストの取り組みを評価します。			○
	【家】前時の学習内容を確認する授業内テストの取り組みを評価します。			○
学習カード	【技】学習内容のまとめ（題材）ごとに、授業での学習を振り返り、これからの生活に生かしているとする姿勢を評価します。			○
	【家】学習内容のまとめ（題材）ごとに、授業での学習を振り返り、これからの生活に生かしているとする姿勢を評価します。			○
実習	【技】実習での活動の技能を評価します。また、製作品や製作段階における個人の工夫も評価します。	○		
	【家】実習での工夫や技能の定着度を評価します。	○		
レポート	【技】実習レポートの評価をします。学習内容によってはレポートで実習の技能を評価することもあります。		○	
	【家】レポートの評価をします。		○	
小テスト (1、2年) 定期試験 (3年)	【技】【家】知識・技能の定着度を評価します。	○		

## 3年間でつきたい力

学習の基盤となる資質・能力 <言語能力>	現実的な諸問題に対応し求められる資質・能力 <自分づくり>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 言語の面白さへの気づき</li> <li>○ 事実を解釈し自分の考えを形成する力</li> <li>○ 感じたことを言葉にする力</li> <li>○ 身近な語彙の豊かさ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 夢や目標をもち、生き方を追求する姿勢</li> <li>○ 自己肯定感</li> <li>○ 他者の考えや思いに対する受容性</li> <li>○ 伝え合うことで自分の考えを深化させる力</li> </ul>



3 観点	目標
知識・技能	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。
思考・判断・表現	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。
主体的に学習に取り組む態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。



## 評価資料について

評価資料	説明	資料とする観点		
		知・技	思判表	主体
授業での 言語活動 (*5領域)	日常的な英会話や、単元で身に付けるべき言語材料を使いながら教師とのやり取りや生徒間のペアワークを行い、文法などの正確さや、よく聞き、伝えようとする姿勢などを評価します。	◎	◎	◎
振り返り 感想シート (*5領域)	生徒が記入した授業の振り返り等を参考にし、学びに向かう姿勢、主体的に取り組む態度を評価します。自己の取組を振り返ります。自分の学習を調整する力を評価します。 例) テストの振り返りレポート、表現活動の振り返りシートなど			◎
提出物	新たな言語材料のまとめと、長文読解等の練習として活用します。毎授業後や定期試験前などに提出し、理解度を評価します。 例) ノート、ワーク、単語練習プリント、など	○	○	◎
表現活動 話すこと [発表]	テーマを決め、原稿作成から発表までの流れを評価します。学年の課題に応じて行われます。 例) スピーチ、音読、Show & Tell、プレゼンテーションなど	○	◎	◎
表現活動 話すこと [やり取り]	テーマを決め、コミュニケーションのやり取りを評価します。学年の課題に応じて行われます。 例) AET との対話テスト、ディベート、ディスカッションなど	○	◎	◎
小テスト・定期試験 聞くこと・ 読むこと	語彙力などの到達度を評価します。まとまった英文を聞いたり読んだりし、その内容を正確にとらえる力を評価します。 例) 単語テスト、リスニングテストなど	◎	◎	◎
小テスト・定期試験 書くこと	他者に的確にわかりやすく伝える力や、言語の正確性を筆記試験の形で評価します。 例) 記号問題、英作文問題（資料を読み取り、考えを書く）	◎	◎	◎

※5領域とは

聞くこと、読むこと、話すこと[やり取り]、話すこと[発表]、書くこと、のことです。

3観点の評価はそれぞれの領域ごとに評価していきます。

# 国語科 年間指導計画（1年）

学校で育成を目指す資質・能力	学習の基礎となる資質・能力	現実的な諸課題に対応して求められる資質・能力
	<b>&lt;言語能力&gt;</b>	<b>&lt;自分づくり&gt;</b>
国語科と関連付けた資質・能力	<input type="checkbox"/> 感じたことを言葉にする力 <input type="checkbox"/> 身近な言葉の豊かさ <input type="checkbox"/> 相手の思いを受け止めて聞く力	<input type="checkbox"/> 感情語彙の豊かさ <input type="checkbox"/> 伝え合うことで自分の考えを深化させる力
学習指導要領における目標	知識及び技能	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるように。
	思考力、判断力、表現力等	筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものすることができるように。
	学びに向かう力、人間性等	言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合うとする態度を養う。

月	4月	5月	6月	7月	8-9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	時数合計
朝の リレ ー	野 原 は う た う	情 報 を 整 理 し て 書 く	情 報 を 整 理 し て 書 く	情 報 を 整 理 し て 書 く	情 報 を 整 理 し て 書 く	情 報 を 整 理 し て 書 く	情 報 を 整 理 し て 書 く	情 報 を 整 理 し て 書 く	情 報 を 整 理 し て 書 く	情 報 を 整 理 し て 書 く	情 報 を 整 理 し て 書 く	120

## 1年

配当時間		6	11	16	10	13	15	12	10	11	7	9	120	
知識 及び 技能	(1)ア 音声の働きや仕組みについて、理解を深めること。	○	○	○										
	(1)イ 小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表（以下「学年別漢字配当表」という。）に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むこと。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うこと。				○	○		○				○	○	
	(1)ウ 事象や行為、心情を表す語句の類を増すと同時に、語句の詳しい意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。			○					○			○	○	
	(1)エ 単語の類別について理解するとともに、指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めること。							○				○		
	(1)オ 比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使うこと。						○	○				○	○	
	(2)ア 原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解すること。		○							○	○			
	(2)イ 比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、それらを使うこと。			○	○								○	○
	(3)ア 音読に必要な文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむこと。								○		○			
	(3)イ 古典には様々な種類の作品があることを知る。									○				
	(3)ウ 共通語と方言の果たす役割について理解すること。							○						○
	(3)オ 読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解すること。		○							○	○			
	資質・能力の 三つの柱	A			○									
話すこと・聞くこと						○								
Aア 目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討すること。				○										
Aイ 自分の考えや根拠が明確になるように、話の中心的部分と付加的部分、事実と意見との関係などに注意して、話の構成を考えること。						○								
Aウ 相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。													○	○
Aエ 必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を伝え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめること。				○										
Aオ 話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめること。									○	○				
B				○										
書くこと														
Bア 目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすること。				○										
Bイ 書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えること。										○				
Bウ 根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。							○							
Bエ 読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えること。														
Bオ 根拠の明確さなどについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすこと。												○		
C														
読むこと														
Cア 文章の中心的部分と付加的部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握すること。					○	○								
Cイ 場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えること。			○											
Cウ 目的に応じて必要な情報に着目して要約したり、場面と場面、場面と描写などを結び付けたらして、内容を解釈すること。												○		
Cエ 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること。														
Cオ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする。												○	○	
学びに向かう力、人間性等	言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合うとする。													

言語活動（A 話すこと・聞くこと B 書くこと C 読むこと）				C	A	B			C	C	A			B	B	C			A	A			C	B	B	B		C	B	B	B			C	B			A	C	A	B	C
---------------------------------	--	--	--	---	---	---	--	--	---	---	---	--	--	---	---	---	--	--	---	---	--	--	---	---	---	---	--	---	---	---	---	--	--	---	---	--	--	---	---	---	---	---

書 写	<p>1 楷書で書く</p> <p>（ねらい）○小学校で学習した楷書の基本点画の筆使いを理解して、確認することができる。○小学校で学習した楷書の基本点画の筆使いと字形を理解して書くことができる。○字形の整え方と筆順の原則を理解して書くことができる。○毛筆で学習したことを、硬筆に生かすことができる。</p> <p>2 楷書と仮名を調和させて書く</p> <p>（ねらい）○平仮名の筆使いや筆順、配列を理解して書くことができる。○楷書に調和する仮名の筆使い、字形を理解して書くことができる。○「いろは歌」や五十音表について理解することができる。○漢字と仮名の大きさや行の中心を理解して書くことができる。○メモの取り方やレポートの基本的な書き方と、文字の大きさや配列を理解して書くことができる。</p> <p>3 行書で書いてみよう</p> <p>（ねらい）○残されてきた文字や日常生活の文字から、行書とはどんな書体かを理解することができる。○楷書と行書の違いから、行書の点画の特徴などを理解することができる。○行書の筆使いを確かめることができる。○点画の連続と形の変化を理解して書くことができる。○点画の連続と形の変化を理解して書くことができる。○点画の連続と省略を理解して書くことができる。</p> <p>◇書き初めを書く</p> <p>（ねらい）○文字の大きさや字間、行の中心などを理解して、配列よく書くことができる。○行書の特徴や配列を理解して書くことができる。</p>	書写 20h
-----	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------

# 国語科 年間指導計画 (2年)

学校で育成を目指す資質・能力		学習の基礎となる資質・能力		現実的な諸課題に対応して求められる資質・能力													
国語科と関連付けた資質・能力		<言語能力>		<自分づくり>													
知識及び技能		〇 感じたことを言葉にする力 〇 身近な言葉の豊かさ 〇 相手の思いを受け止めて聞く力		〇 主体性・積極性 〇 他者を理解する態度・自己を理解する姿勢 〇 自分らしさを発揮しようとする姿勢													
学習指導要領における目標		社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。		論理的に考える力や共感したり想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。													
		言葉がもつ価値に認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。															
2年		4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総数合計				
配当時間		6	14	12	11	13	16	11	10	9	13	5	120				
知識及び技能	(1)ア 言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気付くこと。				○									○			
	(1)イ 話し言葉と書き言葉の特徴について理解すること。																
	(1)ウ 第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を扱うこと。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うこと。			○	○					○							
	(1)エ 抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。	○	○				○	○							○		
	(1)オ 単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解するとともに、話や文章の構成や展開について理解を深めること。				○						○						
	(1)カ 敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使うこと。								○	○	○				○		
	(2)ア 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解すること。		○							○	○				○		
	(2)イ 情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使うこと。			○			○					○			○		
	(3)ア 作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむこと。										○	○	○				
	(3)イ 現代語訳や語注などを手がかりに作品を読むことを通して、古典に親しむものの見方や考え方を深めること。		○								○	○					
	(3)エ 本や文章などには、様々な立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かすこと。							○				○	○				
	資質・能力の三つの柱	A ア 目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、異なる立場や考えを想定しながら集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討すること。		○													
Aイ 自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫すること。					○										○		
Aウ 資料や機器を用いるなどして、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。					○												
Aエ 論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。			○												○		
Aオ 互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめること。																	
B ア 目的や場面に応じて、社会生活の中から題材を決め、多様な方法で集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすること。			○	○													
Bイ 伝えたいことが分かりやすく伝わるように、段落相互の関係を明確にし、文章の構成や展開を工夫すること。											○						
Bウ 根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるよう工夫すること。									○						○		
Bエ 読み手の立場に立つて、表現の効果などを確かめて、文章を整えること。										○					○		
Bオ 表現の工夫とその効果などについて、読み手からの反応などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすこと。											○						
C ア 文章全体と部分との関係に注意しながら、主筋と例示との関係や登場人物の設定の仕方などを捉えること。		○			○										○		
Cイ 目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり、登場人物の行動の意味などについて考えたりして、内容を解釈すること。								○									
Cウ 文章と図表などを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈すること。					○												
Cエ 観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えること。						○	○	○						○			
Cオ 文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすること。		○					○				○			○			
学びに向かう力、人間性等	言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。								○								
言語活動 (A 話すこと・聞くこと B 書くこと C 読むこと)		C	A	B	C	B	C	C	C	C	A	B	B	C	A	B	C
書写		<p>1 行書で書くこと (ねらい) 〇点画の省略を理解して書くことができる。〇筆順の変化を理解して書くことができる。〇これまでに学習してきた行書の特徴を理解して書くことができる。</p> <p>2 行書と仮名を調和させて書いてみよう (ねらい) 〇点画の連続と配列を理解して書くことができる。〇行書に調和する仮名の筆使い、字形を理解して書くことができる。〇いろは歌や五十音表について理解することができる。〇行書と行書に調和する仮名の書き方を理解して、速く書くことを意識することができる。〇行書と仮名の調和や配列を理解して書くことができる。</p> <p>3 学習活動や日常生活に生かして書くこと (ねらい) 〇目的や必要に応じた書き方をすることによる注意などについて話し合うことができる。〇文字の大きさや配列を理解して、読みやすく書くことができる。〇目的や必要に応じて、効果的に伝える工夫の仕方を理解することができる。〇読み手を意識して、新聞を書くことができる。〇伝える相手を意識し、書式や配列を理解して、案内状を書くことができる。</p> <p>〇書き初めを書く (ねらい) 〇行書の特徴や配列を理解して書くことができる。</p>														書写 20h	





# 社会科 年間指導計画（1年）

学校で育成を目指す 資質・能力		学習の基盤となる資質・能力					現実的な諸課題に対応して求められる資質・能力					
		<b>&lt;言語能力&gt;</b>					<b>&lt;自分づくり&gt;</b>					
社会科と関連付けた 資質・能力		相手の思いを受け止めて力 他者に的確にわかりやすく伝える力 事実を大まかにとらえる力					地域を愛する気持ち、課題に対応する力、主体性・積極性					
学習指導要 領における目 標	知識及び技能	我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。										
	思考力、判断力、表現力等	社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。										
	学びに向かう力、人間性等	社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。										
月	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	時数合計
<b>1年</b>	世界の姿	日本の姿	世界各地の人々の生活と環境	歴史へのとびら	古代までの日本		世界の諸地域		中世の日本			教科書での 配当時数：100h 評価などの予備時間：5h 標準授業時数：105h
配当時間	8	6	10	7	25		29		15			100
資質・能力の 三つの柱	知識及び技能	<b>【地理的分野】</b> 我が国の国土及び世界の諸地域に関して、地域の諸事象や地域的特色を理解する。調査や諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付ける。 <b>【歴史的分野】</b> 我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解する。諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付ける。										
	思考力、判断力、表現力等	<b>【地理的分野】</b> 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 <b>【歴史的分野】</b> 歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。										
	学びに向かう力、人間性等	<b>【地理的分野】</b> 日本や世界の地域に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。 <b>【歴史的分野】</b> 歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の歴史に対する愛情、国民としての自覚、国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重しようとする大切さについての自覚などを深め、国際協調の精神を養う。										
内容（言語材料）	地球の姿をしてみよう 世界のさまざまな国々 地球上の位置を表そう 地球儀と世界地図	日本の位置 日本の領域の特色 北方領土・竹島と尖 閣諸島 都道府県の特徴	雪と氷の中で暮らす人々 寒暖の差が激しい土地に暮 らす人々 温暖な土地に暮らす人々 乾燥した土地に暮らす人々 常夏の島で暮らす人々 標高の高い土地に暮らす 人々 人々の生活に根付く宗教	時期や年代の表し方 歴史の流れのとらえ方 時代の特色のとらえ方	人類の出現と進化 古代文明のおこりと発展 中国文明の発展 ギリシャ・ローマの文明 宗教のおこりと三大宗教	アジア州 ヨーロッパ州 アフリカ州 北アメリカ州 南アメリカ州 オセアニア州	武士の成長 院政から武士の政権へ 鎌倉幕府の成立と執権政治 武士と民衆の生活 鎌倉時代の文化と宗教					
単元目標・到達目標	・緯度と経度、大陸と海洋の分布、主な国々の名称と位置を基に、世界の地域構成を大観し理解させる。 ・世界の地域構成の特色を、大陸と海洋の分布や主な国の緯度や経度に着目し多面的・多角的に考察、表現させる。	・日本の領域の範囲や変化とその特色などを基に、日本の地域構成を理解させる。 ・日本の地域構成の特色を、多面的・多角的に考察、表現させる。	・生活が営まれる場所の自然及び社会的条件から影響をその場所の自然及び社会的条件に影響を与えることを理解させる。 ・世界各地における人々の生活の特色を、自然及び社会的条件などに着目させ多面的・多角的に考察、表現させる。	・資料から歴史に関わる情報を読みとったり、年表などにまとめる技能を身に付けさせる。 ・私たちと歴史について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとする態度を身に付けさせる。	・日本列島における農耕の広まりと、生活の変化や当時の人々の信仰、大和朝廷による統一の様子と東アジアとの関わりなどを基に、東アジアの文明の影響を受けながら我が国で国家が形成されていったことを理解させる。 ・律令国家の確立に至るまでの過程、摂関政治などを基に、東アジアの文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ、その後、天皇や貴族による政治が展開したことを理解させる。 ・仏教の伝来とその影響、仮名文字の成立を基に国際的な要素をもった文化が栄え基礎となしながら文化の国風化が進んだことを理解させる。 ・古代までの日本について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとする態度を身に付けさせる。	・アジア州、ヨーロッパ州、アフリカ州、北アメリカ州、南アメリカ州、オセアニア州の各州に暮らす人々の生活を基に、各州の地域的特色を大観し理解させる。 ・アジア州、ヨーロッパ州、アフリカ州、北アメリカ州、南アメリカ州、オセアニア州の各州において、地域で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目させて、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察、表現させる。 ・世界の諸地域について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究させる。	・鎌倉幕府の成立、元寇などを基に、武士が台頭して主従の結び付きや武力を背景とした武家政権が成立し、その支配が広まったこと、元寇がユーラシアの変化の中で起こったことを理解させる。 ・南北朝の争乱と室町幕府、日明貿易、琉球の国際的な役割などを基に、武家政治の展開とともに、東アジア世界との密接な関わりが見られたことを理解させる。 ・武士の政治への進出と展開、東アジアにおける交流、農業や商工業の発達などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、武家政治の成立とユーラシアの交流、武家政治の展開と東アジアの動き、民衆の成長と新たな文化の形成について、中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現させる。					

# 社会科 年間指導計画（2年）

学校で育成を目指す 資質・能力		学習の基盤となる資質・能力					現実的な諸課題に対応して求められる資質・能力									
		<b>&lt;言語能力&gt;</b>					<b>&lt;自分づくり&gt;</b>									
社会科と関連付けた 資質・能力		相手の思いを受け止めて力 他者に的確にわかりやすく伝える力 事実を大まかにとらえる力					地域を愛する気持ち、課題に対応する力、主体性・積極性									
学習指導要 領における目 標	知識及び技能	我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。														
	思考力、判断力、表現力等	社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。														
	学びに向かう力、人間性等	社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。														
月	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	時数合計				
<b>2年</b>	地域調査の手法	日本の地域的特色と地域区分		日本の諸地域			地域の在り方		開国と近代日本の歩み			教科書での 配当時数：99h 評価などの予備時間：6h 標準授業時数：105h				
	配当時間	23		6			11		35				5		19	
資質・能力の 三つの柱	知識及び技能	<b>【地理的分野】</b> 我が国の国土及び世界の諸地域に関して、地域の諸事象や地域的特色を理解する。調査や諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付ける。 <b>【歴史的分野】</b> 我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特徴を踏まえて理解する。諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付ける。														
	思考力、判断力、表現力等	<b>【地理的分野】</b> 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 <b>【歴史的分野】</b> 歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。														
	学びに向かう力、人間性等	<b>【地理的分野】</b> 日本や世界の地域に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。 <b>【歴史的分野】</b> 歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の歴史に対する愛情、国民としての自覚、国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重しようとする大切さについての自覚などを深め、国際協調の精神を養う。														
内容（言語材料）	調査の準備 野外観察・聞き取り調査 調査のまとめ	地形から見た日本の特色 気候から見た日本の特色 災害と防災・減災への取り組み 人口から見た日本の特色 資源・エネルギーの特色 産業から見た日本の特色 交通・通信から見た日本の特色			九州地方 中国・四国地方 近畿地方 中部地方 関東地方 東北地方 北海道地方			地域の課題を見つける 課題を調査する 要因を考察する 解決策を構想する 地域の将来を考える		イギリスとアメリカの革命 フランス革命 ヨーロッパにおける国民意識の高まり ロシアの拡大とアメリカの発展 産業革命と資本主義						
単元目標・到達目標	・観察や野外調査、文献調査を行う際の視点や方法、地理的なまとめ方の基礎を理解させる。 ・地域調査の手法について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究させる。	・日本や国内地域に関する各種の主題図や資料を基に、地域区分をする技能を身に付けさせる。 ①自然環境②人口③資源・エネルギー④交通・通信について、それぞれの地域区分を多面的・多角的に考察し、表現させる。 ・日本の地域的特色と地域区分について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究させる。			・幾つかに区分した日本のそれぞれの地域について、その地域的特色や地域の課題を理解させる。①自然環境②人口や都市・村落③産業④交通や通信⑤その他の事象を中核とした考察の仕方を取り上げた特色ある事象とそこで生ずる課題を理解させる。 ・日本の諸地域について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究させる。			・地域的な課題の解決に向けて考察、構想したことを適切に説明、議論する手法について理解させる。 ・地域の在り方を、地域の結び付きや地域の変容、そこで見られる地理的な課題を多面的・多角的に考察、表現させる。		・欧米諸国における産業革命や市民革命、アジア諸国の動きなどを基に、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解させる。 ・自由民権運動、大日本帝国憲法の制定、日清・日露戦争、条約改正などを基に、立憲制の国家が成立して議会政治が始まるとともに、我が国の国際的地位が向上したことを理解させる。 ・工業化の進展と政治や社会の変化、明治維新の諸改革の目的、議会政治や外交の展開、近代化がもたらした文化への影響などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、欧米における近代社会の成立とアジア諸国の動き、明治維新と近代国家の形成、議会政治の始まりと国際社会との関わり、近代産業の発展と近代文化の形成について近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現させる。						



# 社会科 年間指導計画（3年）

学校で育成を目指す 資質・能力		学習の基盤となる資質・能力					現実的な諸課題に対応して求められる資質・能力						
		<b>&lt;言語能力&gt;</b>					<b>&lt;自分づくり&gt;</b>						
社会科と関連付けた 資質・能力		相手の思いを受け止めて力 他者に的確にわかりやすく伝える力 事実を大まかにとらえる力					よりよい社会を創る態度、主体的に社会に参画する姿勢、社会貢献する姿勢						
学習指導要 領における目 標	知識及び技能	我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。											
	思考力、判断力、表現力等	社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。											
	学びに向かう力、人間性等	社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。											
月	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	時数合計	
<b>3年</b> (配当時間)	二度の世界大戦と日本(27)			現代の日本と世界(14)		現代社会と私たち(14)		地球社会と私たち(14)		私たちの暮らしと経済(24)		より良い社会を目指して(4)	教科書での 配当時数：136h 評価などの予備時間：4h 標準授業時数：140h
	個人の尊重と 日本国憲法(16)				現代の民主政治と社会(23)								
資質・能力の 三つの柱	知識及び技能	【歴史的分野】 我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解する。 諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付ける。 【公民的分野】 人の尊厳と人権の尊重の意義、特に自由・権利と責任・義務との関係を広い視野から正しく認識し、民主主義、民主政治の意義、国民の生活の向上と経済活動との関わり、現代の社会生活及び国際関係などについて、個人と社会との関わりを中心に理解を深める。 資料から現代の社会的事象に関する情報を効果的に調べまとめる技能を身に付ける。											
	思考力、判断力、表現力等	【歴史的分野】 歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 【公民的分野】 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を現代の社会生活と関連付けて多面的・多角的に考察したり、現代社会に見られる課題について公正に判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。											
	学びに向かう力、人間性等	【歴史的分野】 歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の歴史に対する愛情、国民としての自覚、国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重しようとする大切さについての自覚などを深め、国際協調の精神を養う。 【公民的分野】 現代の社会的事象について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。											
内容（言語材料）	第一次世界大戦と民族独立の動き・高まるデモクラシー意識・戦争に向かう世論 第二次世界大戦の始まり・太平洋戦争の開始・戦時下の人々・戦争の終結			持続可能な社会に向けて 結び付きを深める世界 変わる人口構成と家族 情報が変える社会の仕組み			私たちの生活と文化の役割 伝統文化と新たな文化の創造 多文化共生を目指して 社会集団の中で生きる私たち 決まりを作る目的と方法・効率と公正			国際社会における国家 地域主義の動き 新興国の台頭と経済格差 地球環境問題・貧困問題 難民問題・世界と協力する日本		持続可能な社会の形成者として 持続可能な社会を実現するために 探究を続ける	
	人権の歴史と憲法・日本国憲法とは 国民主権と私たちの責任 平和主義の意義と日本の役割 基本的人権と個人の尊重			政治と民主主義・政党の役割 行政を監視する国会・行政の仕組みと内閣 裁判の種類と人権 私たちの生活と地方自治・地方自治の仕組み・住民参加の拡大と私たち			私たちの消費生活・契約と消費生活・消費生活を支える流通 生産活動と企業・労働の意義と労働者の権利 貨幣の役割と金融・景気と金融政策 少子高齢化と財政・公害の防止と環境の保全						
単元目標・到達目標	・昭和初期から第二次世界大戦の終結までの我が国の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動き、戦時下の国民の生活などを基に、軍部の台頭から戦争までの経過と、大戦が人類全体に惨禍をもたらしたことを理解させる。 ・近代の日本と世界について、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。			・位置や空間的な広がり、推移や変化などに着目して、少子高齢化、情報化、グローバル化などが現在と将来の政治、経済、国際関係に与える影響について多面的・多角的に考察し、表現させる。 ・現代社会について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習を振り返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとさせる。			・位置や空間的な広がり、推移や変化などに着目して、文化の継承と創造の意義について多面的・多角的に考察し、表現させる。 ・現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習を振り返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとさせる。			・世界平和の実現と人類の福祉の増大のためには、国際協調の観点から、国家間の相互の主権の尊重と協力、各国民の相互理解と協力及び国際連合をはじめとする国際機構などの役割が大切であることを理解させる。 ・地球環境、資源・エネルギー、貧困などの課題の解決のために経済的、技術的な協力などが大切であることを理解させる。 ・世界平和と人類の福祉の増大について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習を振り返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとさせる。		・社会的な見方・考え方を働かせ、私たちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題を多面的・多角的に考察、構想し、自分の考えを説明、論述させる。 ・私たちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習を振り返りながら粘り強く学習に取り組み、主体的に社会に関わろうとさせる。	
	・人間の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に深め、法の意義を理解させる。 ・日本国及び日本国民統合の象徴としての天皇の地位と天皇の国事に関する行為について理解させる。			・議会制民主主義の意義、多数決の原理とその運用の在り方について理解させる。 ・地方公共団体の政治の仕組み、住民の権利や義務について理解させる。 ・民主政治と政治参加について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習を振り返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとさせる。			・勤労の権利と義務、労働組合の意義及び労働基準法の精神について理解させる。 ・市場の働きと経済について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとさせる。 ・社会資本の整備、公害の防止など環境の保全、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、消費者の保護について、それらの意義を理解させる。 ・財政及び租税の意義、国民の納税の義務について理解させる。 ・国民の生活と政府の役割について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習を振り返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとさせる。						



# 数学科 年間指導計画（1年）

学校で育成を目指す資質・能力		学習の基盤となる資質・能力						現実的な諸課題に対応して求められる資質・能力										
		<b>&lt;言語能力&gt;</b>						<b>&lt;自分づくり&gt;</b>										
数学科と関連付けた資質・能力		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 事実等を正確に理解する力</li> <li>○ 数学の語彙の豊かさ</li> </ul>						<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 好奇心をもち、物事を追求する姿勢</li> <li>○ 伝える内容を明確にする力</li> <li>○ 他者の考えや思いに対する受容性</li> <li>○ 伝え合うことで自分の考えを深化させる力</li> </ul>										
学習指導要領における目標	知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や原理・法則などを理解している。</li> <li>・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。</li> <li>・数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形のなどの性質を見出し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。</li> </ul>																
	思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしていたりしている。</li> </ul>																
月	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	時数合計						
<b>1年</b>	0章 算数から 数学へ	1章 数の世界をひろげよう [正負の数]			2章 数のことばを 身につけよう [文字と式]		3章 未知の数の求め方 を考えよう [方程式]		4章 数量の関係を調べて 問題を解決しよう [比例と反比例]		5章 平面図形の見方を ひろげよう [平面図形]		6章 立体の見方をひろげよう [空間図形]		7章 データを活用して 判断しよう [データの分析と活用]		予備時間	教科書での 配当時数：140h  標準授業時数：140h
	配当時間	3	25	18	14	22	17	18	10	13								
資質・能力の三つの柱	知識及び技能	<p>[A数と計算(小)・A数と式(中)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 正の数と負の数の必要性と意味 ● 正の数と負の数を具体的な場面で活用すること ● 自然数を素数の積として表すこと ● 正の数と負の数の四則計算</li> <li>● 1次式の加法と減法 ● 簡単な1次式の加法と減法の計算 ● 方程式の必要性と意味及び方程式中の文字や解の意味 ● 文字を用いた式における乗法と除法の表し方を知ること ● 簡単な1元1次方程式を解くこと</li> <li>● 文字を用いることの必要性と意味 ● 数量の関係や法則などを文字を用いた式に表すこと ● 式を用いて表したり読み取ったりすること</li> </ul> <p>[B図形(小)(中)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 図形の移動についての理解 ● 直線や平面の位置関係についての理解 ● 垂直二等分線や角の二等分線などの基本的な作図 ● 見取り図、展開図、投影図をかくこと</li> <li>● 平面図形の作図や構成の場面で、学習してきたことを根拠にして図形が決定する理由を説明すること ● 扇形の弧の長さや面積の意味を理解し、<math>n</math>を用いて表すこと</li> </ul> <p>[C変化と関係(小4～6年)・(中)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 具体的な二つの数量に着目した関数関係の理解 ● 比例、反比例の関係についての理解(表、式、グラフを相互に関連付けながら、比例、反比例の関係の特徴について理解を深める) ● 座標の意味の理解 ● 比例、反比例を用いた具体的な事象の説明</li> </ul> <p>[Dデータの活用(小)(中)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 目的に応じたデータの収集、整理 ● 度数分布表やヒストグラムを用いて、資料の特徴を分かりやすく表現すること ● 度数分布表やヒストグラムから代表値(平均値、最頻値、中央値)を求めること ● 各階級の相対度数を求めること</li> <li>● コンピュータを用いて大量の資料を処理すること ● 目的に応じた代表値を用いること。また、平均値と資料の分布について考察すること ● 相対度数を用いた異なる集団の階級ごとの比較</li> </ul>												横 浜 版 で の 呼 び 方				
	思考力、判断力、表現力等	<p>[A数と計算(小)・A数と式(中)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 算数で学習した数の四則計算と関連付けて、正の数と負の数の四則計算の方法を考察し表現すること ● 正の数と負の数を具体的な場面で活用すること ● 具体的な場面と関連付けて、1次式の加法と減法の計算の方法を考察し表現すること</li> <li>● 等式の性質を基にして、1元1次方程式を解く方法を考察し表現すること ● 1元1次方程式を具体的な場面で活用すること</li> </ul> <p>[B図形(小)(中)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 図形の性質に着目し、基礎的な作図の方法を考察し表現すること ● 図形の移動に着目し、二つの図形の関係について考察し表現すること ● 基本的な作図や図形の移動を具体的な場面で活用すること</li> <li>● 空間図形を直線や平面図形の運動によって構成されるものと捉えたり、空間図形を平面上に表現して平面上の表現から空間図形の性質を見いだしたりすること ● 立体図形の表面積や体積の求め方を考察し表現すること</li> </ul> <p>[C変化と関係(小4～6年)・(中)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 比例、反比例として捉えられる二つの数量について、表、式、グラフなどを用いて調べ、それらの変化や対応の特徴を見いだすこと ● 比例、反比例を用いて具体的な事象を捉え考察し表現すること</li> </ul> <p>[Dデータの活用(小)(中)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 目的に応じてデータを収集して分析し、そのデータの分析の傾向を読み取り、批判的に考察し判断すること ● 多数の観察や多数回の試行の結果を基にして、不確定な事象の起こりやすさや傾向を読み取り表現すること</li> </ul>																
	学びに向かう力、人間性等	<p>[A数と計算(小)・A数と式(中)] [B図形(小)(中)] [C変化と関係(小4～6年)・(中)] [Dデータの活用(小)(中)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度、多様な考えを認め、よりよく問題解決しようとする態度を養う</li> </ul>																
単元目標・到達目標	<p>正負の数について</p> <p>[知識・技能]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 必要性、大小関係や絶対値の意味を理解している</li> <li>② 四則計算をすることができる</li> <li>③ 具体的な場面で用いて表したり、処理したりすることができる</li> </ol> <p>[思考・判断・表現]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 算数で学習した数の四則計算と関連づけて、四則計算の方法を考察し、表現することができる</li> <li>② 数の集合と四則計算の可能性について捉え直すことができる</li> <li>③ 活用して様々な事象における変化や状況を考察し表現することができる</li> </ol> <p>[主体的に学習に取り組む態度]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 必要性と意味を考えようとしている</li> <li>② 学んだことを生活や学習に生かそうとしている</li> <li>③ 問題解決の過程を振り返って検討しようとしている</li> </ol>	<p>文字を用いた式について</p> <p>[知識・技能]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 必要性と意味を理解している</li> <li>② 積や商の表し方を理解している</li> <li>③ 数を代入し値を求めることができる</li> <li>④ 簡単な1次式の計算をすることができ</li> <li>⑤ 数量の関係を文字を用いた式に表したり、読み取ったりすることができる</li> </ol> <p>[思考・判断・表現]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 具体的な場面と関連付けて、1次式の加法と減法の計算方法を考察し、表現できる</li> <li>② 具体的な事象を考察し、表現することができる</li> </ol> <p>[主体的に学習に取り組む態度]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 必要性と意味を考えようとしている</li> <li>② 学んだことを生活や学習に生かそうとしている</li> <li>③ 問題解決の過程を振り返って検討しようとしている</li> </ol>	<p>方程式(1次方程式)について</p> <p>[知識・技能]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 必要性と意味、解や、等式の性質、移項の意味を理解している</li> <li>② 等式の性質の意味を理解し、等式の性質を用いて解くことができる</li> <li>③ 簡単なものや、比例式を解くことができる</li> <li>④ 事象中の数量や関係に着目し、式をつくることができる</li> <li>⑤ 具体的な問題解決をするときに、解の吟味の意味や必要性を理解している</li> </ol> <p>[思考・判断・表現]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 解く方法を考察し、表現することができる</li> <li>② 移項できる理由を等式の性質をもとに考察し、表現することができる</li> <li>③ 具体的な場面で活用し、問題を解決することができる</li> <li>④ 具体的な場面の問題において、解を吟味し解答としてよいことを判断することができる</li> </ol> <p>[主体的に学習に取り組む態度]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 必要性と意味を考えようとしている</li> <li>② 学んだことを生活や学習に生かそうとしている</li> <li>③ 問題解決の過程を振り返って検討しようとしている</li> </ol>	<p>比例・反比例について</p> <p>[知識・技能]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 関数の意味を理解している</li> <li>② 表、式、グラフなどに表すことができる</li> <li>③ 2つの数量の関係として捉え、表、式、グラフなどを用いて調べ、それらの変化や対応の特徴を見いだすことができる</li> <li>④ 具体的な事象として捉え、考察し、表現することができる</li> </ol> <p>[思考・判断・表現]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 必要性と意味を考えようとしている</li> <li>② 学んだことを生活や学習に生かそうとしている</li> <li>③ 問題解決の過程を振り返って検討しようとしている</li> </ol>	<p>平面図形について</p> <p>[知識・技能]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 移動(平行・対称・回転)について理解している。</li> <li>② 関係する用語や記号の意味と使い方を理解している</li> <li>③ 基本的な作図の方法を理解している</li> <li>④ 扇形の弧の長さや面積を求めることができる</li> </ol> <p>[思考・判断・表現]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 移動に着目し、2つの合同な図形について考察し表現することができる</li> <li>② 線対称な図形の性質を基にして、基本的な作図の方法を考察し表現することができる</li> <li>③ 移動や作図を具体的な場面で活用することができる</li> </ol> <p>[主体的に学習に取り組む態度]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 必要性と意味を考えようとしている</li> <li>② 学んだことを生活や学習に生かそうとしている</li> <li>③ 問題解決の過程を振り返って検討しようとしている</li> </ol>	<p>空間図形について</p> <p>[知識・技能]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 直線や平面の位置関係を理解している</li> <li>② 立体図形の展開図や投影図について理解している</li> <li>③ 柱体や錐体、球の表面積と体積を求めることができる</li> </ol> <p>[思考・判断・表現]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 直線や平面図形の運動によって構成されるものと捉えることができる</li> <li>② 平面上に表現して平面上の表現から空間図形の性質を見いだすことができる</li> <li>③ 立体図形の表面積や体積の求め方を考察し表現することができる</li> </ol> <p>[主体的に学習に取り組む態度]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 必要性と意味を考えようとしている</li> <li>② 学んだことを生活や学習に生かそうとしている</li> <li>③ 問題解決の過程を振り返って検討しようとしている</li> </ol>	<p>データについて</p> <p>[知識・技能]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① ヒストグラムや相対度数などの必要性と意味を理解している</li> <li>② 累積度数、累積相対度数の必要性と意味を理解している</li> <li>③ 代表値や範囲の必要性と意味を理解している</li> <li>④ コンピュータなどの情報手段を用いて、表やグラフに整理することができる</li> <li>⑤ 多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の必要性と意味を理解している</li> </ol> <p>[思考・判断・表現]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 目的に応じて収集して分析し、分布の傾向などを読み取り、批判的に考察し判断することができる</li> <li>② 多数の観察や多数回の試行の結果を基にして、不確定な事象の起こりやすさの傾向を読み取り表現することができる</li> </ol> <p>[主体的に学習に取り組む態度]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 必要性と意味を考えようとしている</li> <li>② 学んだことを生活や学習に生かそうとしている</li> <li>③ 問題解決の過程を振り返って検討しようとしている</li> </ol>											

# 数学科 年間指導計画（2年）

学校で育成を目指す 資質・能力		学習の基盤となる資質・能力							現実的な諸課題に対応して求められる資質・能力						
		＜言語能力＞							＜自分づくり＞						
数学科と関連付けた 資質・能力		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 事実等を正確に理解する力</li> <li>○ 数学の語彙の豊かさ</li> </ul>							<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 好奇心をもち、物事を追求する姿勢</li> <li>○ 伝える内容を明確にする力</li> <li>○ 他者の考えや思いに対する受容性</li> <li>○ 伝え合うことで自分の考えを深化させる力</li> </ul>						
学習指導要領に おける目標	知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や原理・法則などを理解している。</li> <li>・事象を数式化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。</li> <li>・数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形のなどの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。</li> </ul>													
	思考力、判断力、表現力等 学びに向かう力、 人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしていたりしている。</li> </ul>													
月	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	時数合計			
2年	1章 文字式を使って説明しよう [式の計算]	2章 方程式を利用して 問題を解決しよう [連立方程式]	3章 関数を利用して 問題を解決しよう [1次関数]	4章 図形の性質の 調べ方を考えよう [平行と合同]	5章 図形の性質を 見つけて証明しよう [三角形と四角形]	6章 起こりやすさをとらえて 説明しよう [確率]	7章 データを比較して 判断しよう [データの比較]	予備時間				教科書での 配当時数：105h  標準授業時数：105h			
	配当時間	15	12	19	15	21	9	5	13						
資質・能力の三 つの柱	知識及び技能	<p>[A数と計算(小)・A数と式(中)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 簡単な整式の加法と減法の計算 ● 単項式の乗法と除法の計算 ● 目的に応じた式の変形 ● 2元1次方程式とその解の意味 ● 連立2元1次方程式の必要性とその解の意味 ● 連立2元1次方程式を解くこと</li> <li>● 文字を用いた式で数量及び数量の関係を捉え説明できること</li> </ul> <p>[B図形(小)(中)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 平行線や角の性質の理解 ● 多角形の角についての性質の理解 ● 証明で活用するために、同じ条件を満たす全ての図形の代表としての図をかくこと ● 証明で用いる用語についての理解 ● 三角形の合同条件についての理解 ● 平行四辺形の性質、平行四辺形になるための条件</li> </ul> <p>[C変化と関係(小4～6年)・(中)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 具体的な事象の中の1次関数を見だすこと ● 1次関数についての理解(表、式、グラフを相互に関連付けながら、グラフの特徴や変化の割合など関数の理解を深める) ● 1次関数と2元1次方程式との関連を図る ● 1次関数を用いた具体的な事象の説明</li> </ul> <p>[Dデータの活用(小)(中)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 多様な調査や実験などから具体的な観察を通して確率の意味を理解すること ● 起こり得る場合を整理し、表や樹形図にまとめること ● 起こり得る現象が「同様に確からしい」ことから、統計的・数学的確率を求めること</li> <li>● 表や樹形図などを利用して、計算によって確率を求めること ● 不確実な事象について確率を求め、起こりやすさの違いについて考察すること</li> </ul>											横 浜 版 で の 呼 び 方	知識・技能	
	思考力、判断力、表現力等	<p>[A数と計算(小)・A数と式(中)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 具体的な数の計算や既に学習した計算の方法と関連付けて、整式の加法と減法及び単項式の乗法と除法の計算の方法を考察し表現すること ● 文字を用いた式を具体的な場面で活用すること ● 1元1次方程式と関連付けて、連立2元1次方程式を解く方法を考察し表現すること</li> <li>● 連立2元1次方程式を具体的な場面で活用すること</li> </ul> <p>[B図形(小)(中)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 基本的な平面図形の性質を見だし、平行線や角の性質を基にしてそれらを確かめ説明すること ● 三角形の合同条件などを基にして三角形や平行四辺形の基本的な性質を論理的に確かめたり、証明を読んで新たな性質を見いだしたりすること ● 三角形や平行四辺形の基本的な性質などを具体的な場面で活用すること</li> </ul> <p>[C変化と関係(小4～6年)・(中)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 1次関数として捉えられる二つの数量について、変化や対応の特徴を見だし、表、式、グラフを相互に関連付けて考察し表現すること ● 1次関数を用いて具体的な事象を捉え考察し表現すること</li> </ul> <p>[Dデータの活用(小)(中)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 四分位範囲や箱ひげ図を用いてデータの分布の傾向を比較して読み取り、批判的に考察し判断すること ● 同様に確からしいことに着目し、場合の数を基にして得られる確率の求め方を考察し表現すること ● 確率を用いて不確定な事象を捉え考察し表現すること</li> </ul>													思考・判断・表現
	学びに向かう力、 人間性等	<p>[A数と計算(小)・A数と式(中)] [B図形(小)(中)] [C変化と関係(小4～6年)・(中)] [Dデータの活用(小)(中)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度、多様な考えを認め、よりよく問題解決しようとする態度を養う</li> </ul>													主体的に学習に 取り組む態度
単元目標・到達目標	<p>文字を使った式について</p> <p>[知識・技能]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 簡単な整式の加法と減法、単項式の乗法と除法の計算をすることができる</li> <li>② 具体的な事象の中の数量を見つけて表したり、意味を読み取ったりすることができる</li> <li>③ 数量及び数量の関係を捉え説明できることを理解している</li> <li>④ 目的に応じて、式を変形することができる</li> </ol> <p>[思考・判断・表現]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 具体的な数の計算や、既習した計算の方法と関連付けて、整式の加法と減法及び単項式の乗法と除法の計算方法を考察し表現することができる</li> <li>② 活用して具体的な場面で考察し表現することができる</li> </ol> <p>[主体的に学習に取り組む態度]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 必要性和意味を考えようとしている</li> <li>② 学んだことを生活や学習に生かそうとしている</li> <li>③ 問題解決の過程を振り返って検討しようとしている</li> </ol>	<p>連立2元1次方程式について</p> <p>[知識・技能]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 2元1次方程式とその解の意味を理解している</li> <li>② 必要性和意味及びその解の意味を理解している</li> </ol> <p>[思考・判断・表現]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 1元1次方程式と関連付けて、解く方法を考察し表現することができる</li> <li>② 活用して具体的な場面で考察し表現することができる</li> </ol> <p>[主体的に学習に取り組む態度]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 必要性和意味を考えようとしている</li> <li>② 学んだことを生活や学習に生かそうとしている</li> <li>③ 問題解決の過程を振り返って検討しようとしている</li> </ol>	<p>1次関数について</p> <p>[知識・技能]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 理解している</li> <li>② 事象の中でこれと捉えられるものがあることを知っている</li> <li>③ 2元1次方程式を関数を表す式と見ることができる</li> <li>④ 変化の割合やグラフの切片と傾きの意味を理解している</li> </ol> <p>[思考・判断・表現]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 表、式、グラフを用いて表現したり、処理したりすることができる</li> </ol> <p>[思考・判断・表現]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① これと捉えられる2つの数量について、変化や対応の特徴を見出し、表、式、グラフを相互に関連付けて考察し、表現することができる</li> </ol> <p>[主体的に学習に取り組む態度]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 必要性和意味を考えようとしている</li> <li>② 学んだことを生活や学習に生かそうとしている</li> <li>③ 問題解決の過程を振り返って検討しようとしている</li> </ol>	<p>平面図形について</p> <p>[知識・技能]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 多角形の角についての性質を見いだせることを知っている</li> <li>② 平行線や角の性質を理解している</li> <li>③ 平面図形の合同の意味及び三角形の合同条件について理解している</li> <li>④ 証明の必要性和意味及びその方法について理解している</li> </ol> <p>[思考・判断・表現]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 基本的な性質を見だし、平行線や角の性質を基にしてそれらを確かめ、説明することができる</li> </ol> <p>[主体的に学習に取り組む態度]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 必要性和意味を考えようとしている</li> <li>② 学んだことを生活や学習に生かそうとしている</li> <li>③ 問題解決の過程を振り返って検討しようとしている</li> </ol>	<p>平面図形について</p> <p>[知識・技能]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 証明の必要性和意味およびその方法について理解している</li> <li>② 定義や事柄の仮定と結論、逆の意味を理解している</li> <li>③ 凡例の意味を理解している</li> <li>④ 正方形、ひし形、長方形が平行四辺形の特別な形であることを理解している</li> </ol> <p>[思考・判断・表現]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 三角形の合同条件などを基にして三角形や平行四辺形の基本的な性質を論理的に確かめることができる</li> <li>② 証明を読んで新たな性質を見だし、表現することができる</li> <li>③ 三角形や平行四辺形の基本的な性質などを活用して具体的な事象を考察し、表現することができる</li> <li>④ ことがら正しいことを証明するために、反例をあげることができる</li> </ol> <p>[主体的に学習に取り組む態度]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 必要性和意味を考えようとしている</li> <li>② 学んだことを生活や学習に生かそうとしている</li> <li>③ 問題解決の過程を振り返って検討しようとしている</li> </ol>	<p>場合の数をもとにして得られる確率について</p> <p>[知識・技能]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 多数回の試行によって得られる確率と関連付けて、必要性和意味を理解している</li> <li>② 簡単な場合について求めることができる</li> </ol> <p>[思考・判断・表現]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 同様に確からしいことに着目し、求め方を考察し表現することができる</li> <li>② これを用いて不確定な事象を捉え、考察し表現することができる</li> </ol> <p>[主体的に学習に取り組む態度]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 必要性和意味を考えようとしている</li> <li>② 学んだことを生活や学習に生かそうとしている</li> <li>③ 問題解決の過程を振り返って検討しようとしている</li> </ol>	<p>四分位範囲や箱ひげ図について</p> <p>[知識・技能]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 必要性和意味を理解している</li> <li>② コンピュータなどの情報手段を用いるなどしてデータを整理して、これらで表すことができる</li> </ol> <p>[思考・判断・表現]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① データの分布の傾向を比較して読み取り、批判的に考察し判断することができる</li> </ol> <p>[主体的に学習に取り組む態度]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 必要性和意味を考えようとしている</li> <li>② 学んだことを生活や学習に生かそうとしている</li> <li>③ 問題解決の過程を振り返って検討しようとしている</li> </ol>								

# 数学科 年間指導計画（3年）

学校で育成を目指す 資質・能力		学習の基礎となる資質・能力					現実的な諸課題に対応して求められる資質・能力						
		<b>&lt;言語能力&gt;</b>					<b>&lt;自分づくり&gt;</b>						
数学科と関連付けた 資質・能力		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 事実等を正確に理解する力</li> <li>○ 数学の語彙の豊かさ</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 好奇心をもち、物事を追求する姿勢</li> <li>○ 伝える内容を明確にする力</li> <li>○ 他者の考えや思いに対する受容性</li> <li>○ 伝えることでの自分の考えを深化させる力</li> </ul>						
学習指導要領における目標	知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や原理・法則などを理解している。</li> <li>・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。</li> <li>・数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見いだし統一的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。</li> </ul>											
	思考力、判断力、表現力等 学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしていたりしている。</li> </ul>											
月	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	時数合計	
<b>3年</b>	1章 文字式を使って説明しよう [多項式]	2章 数の世界をさらにひろげよう [平方根]	3章 方程式を利用して問題を解決しよう [2次方程式]	4章 関数の世界をひろげよう [ $y=ax^2$ ]	5章 形に注目して図形の性質を調べよう [相似な図形]	6章 円の性質を見つけて証明しよう [円]	7章 三平方の定理を活用しよう [三平方の定理]	8章 集団全体の傾向を推測しよう [標本調査]	予備時間			教科書での 配当時数：140h  標準授業時数：140h	
	配当時間	19	16	15	17	23	10	13	6	21			
資質・能力の三つの柱	知識及び技能	<p>[A数と計算(小)・A数と式(中)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●数の平方根の必要性と意味 ●平方根を具体的な場面で活用すること ●誤差や近似値</li> <li>●数の平方根を含む式の計算 ●単項式の乗法と多項式の乗法及び多項式を単項式で割る除法 ●1次式の乗法、式の展開と因数分解 ●2次方程式の必要性と意味及びその解の意味 ●因数分解したり平方の形に変形したりして解くこと ●解の公式を知り、2次方程式を解くこと</li> </ul> <p>[B図形(小)(中)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●立体について相似の意味の理解 ●相似な図形の相似比、面積比、体積比についての理解 ●相似の図形のイメージを豊かにするために、いろいろな割合で拡大したり縮小したりした図をかくこと ●平行線と線分の比、中点連結定理の理解 ●三角形の相似条件についての理解 ●円周角の定理や三平方の定理の理解 ●三平方の定理が発見された歴史的背景を知ること</li> </ul> <p>[C変化と関係(小4～6年)・(中)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●具体的な事象の中の二つの数量関係が <math>y=ax^2</math> についての理解(表、式、グラフを相互に関連付けながら、グラフの特徴や変化の割合など関数の理解を一層深める) ●関数 <math>y=ax^2</math> の変域についての考察 ●関数 <math>y=ax^2</math> を用いた具体的な事象の説明</li> </ul> <p>[Dデータの活用(小)(中)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●全数調査と比較するなどして、標本調査の必要性と意味の理解を深めること ●標本調査から母集団の傾向を理解すること ●標本調査から母集団の統計量を求めること ●標本調査により母集団の傾向を捉え、説明すること</li> </ul>										横浜版での呼び方	知識・技能
	思考力、判断力、表現力等	<p>[A数と計算(小)・A数と式(中)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●既に学習した計算の方法と関連付けて、数の平方根を含む式の計算の方法を考察し表現すること ●数の平方根を具体的な場面で活用すること ●既に学習した計算の方法と関連付けて、式の展開や因数分解をする方法を考察し表現すること ●因数分解や平方根の考えを基にして、2次方程式を解く方法を考察し表現すること ●2次方程式を具体的な場面で活用すること</li> </ul> <p>[B図形(小)(中)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●三角形の相似条件などを基にして図形の基本的な性質を論理的に確かめること ●平行線と線分の比についての性質を見いだし、それらを確かめること ●相似な図形の性質を具体的な場面で活用すること ●円周角と中心角の関係を基にして ●円周角と中心角の関係を具体的な場面で活用すること ●三平方の定理を見いだすこと ●三平方の定理を具体的な場面で活用すること</li> </ul> <p>[C変化と関係(小4～6年)・(中)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●関数 <math>y=ax^2</math> として捉えられる二つの数量について、変化や対応の特徴を見だし、表、式、グラフを相互に関連付けて考察し表現すること ●関数 <math>y=ax^2</math> を用いて具体的な事象を捉え考察し表現すること</li> </ul> <p>[Dデータの活用(小)(中)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●標本調査の方法や結果を批判的に考察し表現すること ●簡単な場合について標本調査を行い、母集団の傾向を推定し判断すること</li> </ul>											思考・判断・表現
	学びに向かう力、人間性等	<p>[A数と計算(小)・A数と式(中)] [B図形(小)(中)] [C変化と関係(小4～6年)・(中)] [Dデータの活用(小)(中)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度、多様な考えを認め、よりよく問題解決しようとする態度を養う</li> </ul>											主体的に学習に取り組む態度
単元目標・到達目標	<p>展開、因数分解について</p> <p>[知識・技能]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①単項式と多項式の乗法及び多項式を単項式で割る除法の計算をすることができる</li> <li>②簡単な1次式の乗法の計算及び公式を用いることができる</li> </ol> <p>[思考・判断・表現]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①既に学習した計算の方法と関連付けて、方法を考察し表現することができる</li> <li>②文字を用いた式を活用して数量及び数量の関係を捉え説明することができる</li> </ol> <p>[主体的に学習に取り組む態度]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①必要性和意味を考えようとしている</li> <li>②学んだことを生活や学習に生かそうとしている</li> <li>③問題解決の過程を振り返って検討しようとしている</li> </ol>	<p>平方根について</p> <p>[知識・技能]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①必要性和意味を理解している</li> <li>②有理数、無理数の意味を理解している</li> <li>③簡単な式の計算をすることができる</li> <li>④具体的な場面でこれらを用いて表したり処理したりすることができる</li> </ol> <p>[思考・判断・表現]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①これまでに学んだ文字式の計算などと関連付けて、これをむくむ式の計算の方法を考察し表現することができる</li> <li>②具体的な場面で活用することができる</li> </ol> <p>[主体的に学習に取り組む態度]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①必要性和意味を考えようとしている</li> <li>②学んだことを生活や学習に生かそうとしている</li> <li>③問題解決の過程を振り返って検討しようとしている</li> </ol>	<p>2次方程式について</p> <p>[知識・技能]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①必要性和意味及びその解の意味を理解している</li> <li>②平方の形に変形し解くことができる</li> <li>③解の公式の意味を理解し、それを用いて解くことができる</li> <li>④因数分解を利用して解くことができる</li> <li>⑤事象の中の数量やその関係に着目し、式を作ることができる</li> </ol> <p>[思考・判断・表現]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①平方根や因数分解の考えをもとにして、解く方法を考察し表現することができる</li> <li>②具体的な問題の解決に活用し、解が適切であるかどうかを判断することができる</li> </ol> <p>[主体的に学習に取り組む態度]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①必要性和意味を考えようとしている</li> <li>②学んだことを生活や学習に生かそうとしている</li> <li>③問題解決の過程を振り返って検討しようとしている</li> </ol>	<p>関数 <math>y=ax^2</math> について</p> <p>[知識・技能]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①理解している</li> <li>②事象の中にこれとして捉えられるものがあることを知っている</li> </ol> <p>③表、式、グラフを用いて表現したり、処理したりすることができる</p> <p>④いろいろな事象の中に、関数関係があることを理解している</p> <p>[思考・判断・表現]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①これとして捉えられる二つの数量について、変化や対応の特徴を見だし、表、式、グラフを相互に関連付けて考察し表現することができる</li> <li>②具体的な事象を捉え考察し表現することができる</li> </ol> <p>[主体的に学習に取り組む態度]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①必要性和意味を考えようとしている</li> <li>②学んだことを生活や学習に生かそうとしている</li> <li>③問題解決の過程を振り返って検討しようとしている</li> </ol>	<p>平面図形について</p> <p>[知識・技能]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①平面図形の相似の意味及び三角形の相似条件について理解している</li> <li>②相似な平面図形の相似比と面積比の関係について理解している</li> <li>③基本的な立体の相似の意味を理解し、相似な立体の相似比と表面積の比や体積比の関係について理解している</li> <li>④誤差、有効数字の意味を理解し、近似値を <math>a \times 10^n</math> の形に表現することができる</li> </ol> <p>[思考・判断・表現]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①三角形の相似条件などを基にして図形の基本的な性質を論理的に確かめることができる</li> <li>②平行線と線分の比についての性質を見だし、それらを確かめることができる</li> <li>③相似な図形の性質を具体的な場面で活用することができる</li> </ol> <p>[主体的に学習に取り組む態度]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①図形の相似の意味や、相似な図形の相似比と面積比や体積比の関係を考えようとしている</li> <li>②図形の相似について学んだことを生活や学習に生かそうとしている</li> <li>③相似な図形の性質を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている</li> </ol>	<p>円周角と中心角(円)について</p> <p>[知識・技能]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①意味を理解し、それが証明できることを知っている</li> <li>②定理の逆が成り立つことを知っている</li> </ol> <p>[思考・判断・表現]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①関係を見いだすことができる</li> <li>②具体的な場面で活用することができる</li> </ol> <p>[主体的に学習に取り組む態度]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①関係を見いだそうとしている</li> <li>②学んだことを生活や学習に生かそうとしている</li> <li>③問題解決の過程を振り返って検討しようとしている</li> </ol>	<p>三平方の定理について</p> <p>[知識・技能]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①意味を理解し、それが証明できることを知っている</li> <li>②利用して、直角三角形の辺の長さを求めることができる</li> <li>③定理の逆が成り立つことを知っている</li> </ol> <p>[思考・判断・表現]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①見いだすことができる</li> <li>②具体的な場面で活用することができる</li> </ol> <p>[主体的に学習に取り組む態度]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①関係を見いだそうとしている</li> <li>②学んだことを生活や学習に生かそうとしている</li> <li>③問題解決の過程を振り返って検討しようとしている</li> </ol>	<p>標本調査について</p> <p>[知識・技能]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①必要性和意味を理解している</li> <li>②コンピュータなどの情報手段を用いるなどして無作為に標本を取り出し、整理することができる</li> </ol> <p>[思考・判断・表現]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①方法や結果を批判的に考察し表現することができる</li> <li>②簡単な場合に行い、母集団の傾向を推定し判断することができる</li> </ol> <p>[主体的に学習に取り組む態度]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①必要性和意味を考えようとしている</li> <li>②学んだことを生活や学習に生かそうとしている</li> <li>③問題解決の過程を振り返って検討しようとしている</li> </ol>					



# 理科 年間指導計画（1年）

学校で育成を目指す 資質・能力		学習の基盤となる資質・能力					現実的な諸課題に対応して求められる資質・能力					
		<b>&lt;言語能力&gt;</b>					<b>&lt;自分づくり&gt;</b>					
理科と関連付けた 資質・能力		事実を大まかに捉える力					基本的な生活習慣をつくる態度					
学習指導要領 における目標	知識及び技能	自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。										
	思考力、判断力、表現力等	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。										
	学びに向かう力、人間性等	自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。										
月	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	時数合計
<b>1年</b>	自然の中にあふれる生命	いろいろな生物とその共通点【生命】	身のまわりの物質【物質】	光・音・力による現象【エネルギー】			活きている地球【地球】			教科書での 配当時数：105 h  標準授業時数：120 h		
	・身のまわりの生物の観察 ・生物のなかま分け	1章 植物の特徴と分類 ・花のつくり（観察） ・葉と根のつくり（観察）  2章 植物の特徴と分類 ・動物の体のつくりと生活（観察）	1章 いろいろな物質とその性質 2章 いろいろな気体とその性質 3章 水溶液の性質 4章 物質のすがたとその変化	・謎の物質Xの正体（実験） ・密度による物質の区別（実験） ・酸素と二酸化炭素の発生とその性質（実験） ・身のまわりのものから発生する気体（実験） ・水にとけた物質のとり出し（実験） ・エタノールが沸騰する温度（実験） ・水とエタノールの混合物の加熱（実験）			1章 光による現象 ・光が鏡ではね返るときに進み方 ・空気と水の間の光の進み方 ・凸レンズによってできる像 ・音のちがいと振動のようすの関係 ・力の大きさとばねのびの関係 ・2力がつり合うための条件  2章 音による現象 3章 力による現象				1章 身近な大地 2章 ゆれる大地 3章 火をふく大地  4章 語る大地  ・地震のゆれはじめの特徴（実習） ・マグマの性質と火山の形の関係（実験） ・火成岩の観察（観察） ・堆積岩の観察（観察） ・地層の観察（観察）	
配当時間	9	19	28	25			24					
資質・能力の三つの柱	知識及び技能	①校庭や学校周辺の生物の観察を行い、いろいろな生物が様々な場所で生活していることを見いだして理解するとともに、観察器具の操作、観察記録の仕方などの技能を身に付けること。 ②いろいろな生物を比較して見いだした共通点や相違点を基にして分類できることを理解するとともに、分類の仕方の基礎を身に付けること。 ③身近な植物の外部形態の観察を行い、その観察記録などに基づいて、共通点や相違点があることを見いだして、植物の体の基本的なつくりを理解すること。また、その共通点や相違点に基づいて植物が分類できることを見いだして理解すること。 ④身近な動物の外部形態の観察を行い、その観察記録などに基づいて、共通点や相違点があることを見いだして、動物の体の基本的なつくりを理解すること。また、その共通点や相違点に基づいて動物が分類できることを見いだして理解すること。	①身の回りの物質とその性質を様々な方法で調べる実験を行い、物質には密度や加熱したときの変化など固有の性質と共通の性質があることを見いだして理解するとともに、実験器具の操作、記録の仕方などの技能を身に付けること。 ②気体を発生させてその性質を調べる実験を行い、気体の種類による特性を理解するとともに、気体を発生させる方法や捕集法などの技能を身に付けること。 ③水溶液から溶質を取り出す実験を行い、その結果を溶解度と関連付けて理解すること。 ④物質の状態変化についての観察、実験を行い、状態変化によって物質の体積は変化するが質量は変化しないことを見いだして理解すること。 ⑤物質は融点や沸点を境に状態が変化することを知るとともに、混合物を加熱する実験を行い、沸点の違いによって物質の分離ができることを見いだして理解すること。	①光の反射や屈折の実験を行い、光が水やガラスなどの物質の境界面で反射、屈折するときの規則性を見いだして理解すること。 ②凸レンズの働きについての実験を行い、物体の位置と像の向きとの関係を見いだして理解すること。 ③音についての実験を行い、音はものが振動することによって生じ空気中などを伝わること及び音の高さや大きさは発音体の振動の仕方に関係することを見いだして理解すること。 ④物体に力を働かせる実験を行い、物体に力が働くとその物体が変形したり動き始めたり、運動の様子が変わったりすることを見いだして理解するとともに、力は大きさと向きによって表されることを知ること。また物体に働く2力についての実験を行い、力がつり合うときの条件を見いだして理解すること。	①身近な地形や地層、岩石などの観察を通して、土地の成り立ちや広がり、構成物などについて理解するとともに、観察器具の操作、記録の仕方などの技能を身に付けること。 ②地層の様子やその構成物などから地層の向きを考察し、重なり方や広がり方についての規則性を見いだして理解するとともに、地層とその中の化石を手掛かりとして過去の環境と地質年代を推定できることを理解すること。 ③火山の形、活動の様子及びその噴出物調べ、それらを地下のマグマの性質と関連付けて理解するとともに、火山岩と深成岩の観察を行い、それらの組織の違いを成因と関連付けて理解すること。 ④地震の体験や記録を基に、その揺れの大きさや伝わり方の規則性に気付くとともに、地震の原因を地球内部の働きと関連付けて理解し、地震に伴う土地の変化の様子を理解すること。 ⑤自然がもたらす恵み及び火山災害と地震災害について調べ、これらを火山活動や地震発生との仕組みと関連付けて理解すること。	横 浜 版 で の 呼 び 方						
	思考力、判断力、表現力等	身近な生物についての観察、実験などを通して、いろいろな生物の共通点や相違点を見いだすとともに、生物を分類するための観点や基準を見いだして表現すること。	身の回りの物質について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、物質の性質や状態変化における規則性を見いだして表現すること。	身近な物理現象について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、光の反射や屈折、凸レンズの働き、音の性質、力の働きの規則性や関係性を見いだして表現すること。	大地の成り立ちと変化について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、地層の重なり方や広がり方の規則性、地下のマグマの性質と火山の形との関係性などを見いだして表現すること。							
	学びに向かう力、人間性等	身近な生物や動物・植物等に関する事物・現象に対する気付きから問題を見いだして解決しようとする。 身近な生物や動物・植物等に関する事物・現象の理解が深まることによって、新たな問題を見いだそうとする。 小学校で身に付けた問題解決の力などを生かそうとする。	身の回りの物質や水溶液、状態変化等に関する事物・現象に対する気付きから問題を見いだして解決しようとする。 身の回りの物質や水溶液、状態変化等に関する事物・現象の理解が深まることによって、新たな問題を見いだそうとする。 小学校で身に付けた問題解決の力などを生かそうとする。	光や音、力に関する事物・現象に対する気付きから問題を見いだして解決しようとする。 光や音、力に関する事物・現象の理解が深まることによって、新たな問題を見いだそうとする。 小学校で身に付けた問題解決の力などを生かそうとする。	大地の成り立ちや火山、地震等に関する事物・現象に対する気付きから問題を見いだして解決しようとする。 大地の成り立ちや火山、地震等に関する事物・現象の理解が深まることによって、新たな問題を見いだそうとする。 小学校で身に付けた問題解決の力などを生かそうとする。		主体的に学習に取り組む態度					
主に重視する探究の学習過程	自然の事物・現象に進んで関わり、その中から問題を見いだす。											
見方・考え方を働かせている姿	・身近な生物を、多様性と共通性の視点で捉え、様々な環境の中でそれぞれ特徴のある生物が生活していることを見いだしている姿 ・観察した植物や動物を、共通点や相違点に着目して比較し、見いだした共通点や相違点を基にして、植物や動物の分類の仕方について考えている姿。	・物質を同定する方法を小学校で学んだ内容を振り返って計画し、物質がもつ固有の性質を質的・実体的な視点で比較し、整理している姿。 ・未知の物質を定性的な視点で比較し、共通点と相違点に着目して、物質を同定している姿。 ・物質の水への溶解を粒子のモデルを用いて微視的に捉えている姿。 ・水溶液から溶質を取り出すことができることを質的・量的な視点で捉え、溶解度と関連付けて考察している姿。	・光の進み方に関する身近な現象を量的・関係的な視点で捉え、幾何光学的な規則性に気付いている姿。 ・物体と凸レンズの距離を変え、実像や虚像ができる条件を関係的な視点で捉え、像の位置や大きさ、像の向きについての規則性を見いだしている姿。 ・音の大小や高低が変わる現象を量的・関係的な視点で捉え、発音体の振幅と振動数に関係することを見いだしている姿。 ・力に関する基礎的な性質やその働きを量的・関係的な視点で捉え、力の働きやその規則性を見いだしている姿。	・過去から現在にかけて、どのような環境の変化が起こっていたのか時間的・空間的に捉え、地層をつくる構成物を比較することから、問題を見いだしている姿。 ・地層の向きや重なり方の規則性について、時間的・空間的に捉え、モデル実験の結果と関連付けて考察している姿。 ・火山の形や含まれている鉱物の割合などを量的・関係的な視点で捉え、地下にあるマグマの性質と関係付けて表現している姿。 ・自然災害を多面的・総合的に捉え、地震や火山などの発生の仕組みと関係付けながら、どのように備えるか科学的根拠に基づいて考えている姿。	理科における「見方」	「エネルギー」 量的・関係的な視点  「粒子」 質的・実体的な視点  「生命」 多様性と共通性の視点  「地球」 時間的・空間的な視点						

# 理科 年間指導計画（2年）

学校で育成を目指す 資質・能力		学習の基盤となる資質・能力				現実的な諸課題に対応して求められる資質・能力						
		<b>&lt;言語能力&gt;</b>				<b>&lt;自分づくり&gt;</b>						
理科と関連付けた 資質・能力		○事実等を解釈し自分の考えを深化させる力 ○目的や意図に応じて伝えるべきことを整理する力				○主体性・積極性 ○課題に対応する力						
学習指導要領 における目標	知識及び技能	自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験に関する基本的な技能を身に付けるようにする。										
	思考力、判断力、表現力等	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。										
	学びに向かう力、人間性等	自然の事物現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。										
月	4	5	6	7.8	9	10	11	12	1	2	3	時数合計
<b>2年</b>	生物の体のつくりとはたらき  1章 生物の体をつくるもの 2章 植物の体のつくりとはたらき 3章 動物の体のつくりとはたらき 4章 動物の行動のしくみ		・生物の体のつくり(観察) ・植物と動物の細胞のつくり(観察) ・光合成にもなう二酸化炭素の出入り(実験) ・根と茎と葉のつくり(観察) ・唾液のはたらき(実験) ・刺激を受けとってから、反応するまでの時間(実験)	化学変化と原子・分子  1章 物質の成り立ち 2章 物質の表し方 3章 さまざまな化学変化 4章 化学変化と物質の質量		・炭酸水素ナトリウムを加熱したときの変化(実験) ・水に電流を流したときの変化(実験) ・鉄と硫黄の混合物を加熱したときの変化(実験) ・酸化銅から銅をとり出す変化(実験) ・温度が変化する化学変化(実験) ・化学変化の前後の物質全体の質量(実験) ・金属と結びつく酸素の質量(実験)	電流とその利用  1章 電流の性質 2章 電流の正体 3章 電流と磁界		・階段の照明の回路(実習) ・回路に加わる電圧(実験) ・電圧と電流の関係(実験) ・電流による発熱量(実験) ・静電気による力(実験) ・電流がつくる磁界(実験) ・電流が磁界から受ける力(実験) ・発電のしくみ(実験)			教科書での 配当時数：123h  標準授業時数：140h
	地球の大気と天気の変化  1章 地球をとり巻く大気のような		地球の大気と天気の変化  1章 地球をとり巻く大気のような		2章 大気中の水の変化		3章 天気の変化と大気の動き		4章 大気の動きと日本の四季			
配当時間	26		30		34		33					
資質・能力の三 つの柱	知識及び技能	①気象要素として、気温、湿度、気圧、風向などを理解すること。また、気圧を取り上げ、圧力についての実験を行い圧力は力の大きさと面積に関係あることを見いだして理解するとともに、大気圧の実験を行い、その結果を空気の重さと関連付けて理解すること。 ②校庭などで気象観測を継続的に行い、その観測記録などに基づいて、気温、湿度、気圧、風向などの変化と天気との関係を見いだして理解するとともに、観測方法や記録の仕方等を身に付けること。 ③霧や雲の発生についての観察、実験を行い、そのでき方を気圧、気温及び湿度の変化と関連付けて理解すること。 ④前線の通過に伴う天気の変化の観測結果などに基づいて、その変化を暖気、換気と関連付けて理解すること。 ⑤天気図や気象衛星画像などから、日本の天気の特徴を気団と関連付けて理解すること。 ⑥気象衛星画像や調査記録などから、日本の気象を日本付近大気の様子や海洋の影響に関連付けて理解すること。 ⑦気象現象がもたらす恵みと気象災害について調べ、これらを天気の変化や日本の気象と関連付けて理解すること。		①物質を分解する実験を行い、分解して生成した物質は元の物質とは異なることを見いだして理解すること。 ②物質は原子や分子からできていることを理解するとともに、物質を構成する原子の種類は記号であらわされることを知る。 ③2種類の物質を反応させる実験を行い、反応前とは異なる物質が生成することを見いだして理解するとともに、化学変化は原子や分子のモデルで説明できること、化合物の組成は化学式で表されること及び化学変化は化学反応式で表されることを理解すること。 ④酸化や還元の実験を行い、酸化や還元は酸素が関与する反応であることを見いだして理解すること。 ⑤化学変化によって熱を取り出す実験を行い、化学変化には熱の出入りが伴うことを見いだして理解すること。 ⑥化学変化の前後における物質の質量を測定する実験を行い、反応物の質量の総和と生成物の質量の総和が等しいことを見いだして理解すること。 ⑦化学変化に関係する物質の質量を測定する実験を行い、藩する物質の質量の間には一定の関係があることを見いだして理解すること。		①生物の組織などの観察を行い、生物の体が細胞からできていること及び植物と動物の細胞のつくりの特徴を見出して理解するとともに、観察記録の操作、観察記録の仕方などの技能を身に付けること。  ②植物の葉、茎、根のつくりについて観察を行い、それらのつくりと、光合成、呼吸、蒸散の働きに関する実験の結果を関連付けて理解すること。  ③消化や呼吸について観察、実験などを行い、動物の体が必要な物質を取り入れ運搬している仕組みを観察、実験の欠陥度と関連付けて理解すること。また、不要となった物質を排出する仕組みがあることについて理解すること。  ④動物が外界の刺激に適切に反応している様子の観察を行い、その仕組みを感覚器官、神経系および運動器官のつくりと関連付けて理解すること。		①回路を作り、回路の電流や電圧を測定する実験を行い、回路の各点を流れる電流や各部に加わる電圧についての規則性を見いだして理解すること。 ②金属線に加わる電圧と電流を測定する実験を行い、電圧と電流の関係を見いだして理解するとともに、金属線には電気抵抗があることを理解すること。 ③電流によって熱や光などを発生させる実験を行い、熱や光などが取り出せること及び電力の違いによって発生する熱や光などの量に違いがあることを見いだして理解すること。 ④異なる物質同士をこすり合わせると静電気が起こり、帯電した物体間では空間を隔てて力が働くこと及び静電気と電流には関係があることを見いだして理解すること。 ⑤磁石や電流による磁界の観察を行い、磁界を磁力線で表すことを理解するとともに、コイルの周りに磁界ができることを知る。 ⑥磁石とコイルを用いた実験を行い、磁界を磁力線で表すことを見いだして理解すること。 ⑦磁石とコイルを用いた実験を行い、コイルや磁石を動かすことにより電流が得られることを見いだして理解するとともに、直流と交流の違いを理解すること。		横 浜 版 で の 呼 び 方	知識・技能	
	思考力、判断力、表現力等	気象とその変化について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、天気の変化や日本の気象についての規則性や関係性を見出して表現すること。		化学変化について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、原子や分子と関連付けてその結果を分析して解釈し化学変化における物質の変化やその量的な関係を見いだして表現すること。		身近な植物と動物の体のつくりと働きについて、見通しをもって解決する方法を立案し観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、生物の体のつくりと働きについての規則性や関係性を見出して表現すること		電流、磁界に関する現象について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、電流と電圧、電流の働き、静電気、電流と磁界の規則性関係性を見いだすこと。				思考・判断・表現
	学びに向かう力、人間性等	・天気の変化や大気の様子などに関する事象・現象に対する気付きから問題を見出して解決しようとする。 ・天気の変化や大気の様子などに関する事象・現象の理解が深まることによって、新たな問題を見出そうとする。 ・自然を敬い、気象災害を意識して生活しようとする。		・物質の成り立ちや化学変化等に関する事象・現象に対する気付きから問題を見いだして解決しようとする。 ・物質の成り立ちや化学変化等に関する事象・現象の理解が深まることによって、新たな問題を見出そうとする。 ・物質の成り立ちや化学変化等に関する事象・現象について、日常生活との関連や理科を学ぶことの面白さ、有用性に気づくこととする。		・動物・植物の体とつくり等に関する事象・現象に対する気付きから問題を見出して解決しようとする。 ・日常生活との関連や理科を学ぶことの面白さや有用性に気づくこととする。 ・生命現象が精妙な仕組みに支えられていることに気づき、生命を尊重しようとする。		・電流や磁界に関する事象・現象に対する気付きから問題を見いだして解決しようとする。 ・電流と磁界に関する事象・現象の理解が深まることによって、新たな問題を見出そうとする。 ・電流と磁界に関する事象・現象について、日常性かるとの関連や理科を学ぶことの面白さ、有用性に気づくこととする。				
<b>解決する方法を立案し、その結果を分析して解釈する。</b>												
主に重視する探求の学習過程												
見方・考え方を働かせている姿	・気象要素の変化と天気の特徴の関係を見出すために、それぞれの気象要素を時間変化を比較し、どのような変化をしているのか時間的・空間的な視点で考えている姿。  ・前線付近での雲の構造や、暖気・換気の構造を時間的・空間的に捉え、雨の降り方や気象要素の変化と関係付けて分析・解釈している姿。  ・時間的・空間的かつ部分(日本周辺)から全体(アジアや北半球)として気象現象を捉え、気団や地形と関係付けて気象現象を説明している姿。  ・自然を多面的・総合的に捉えながら、科学的な根拠に基づいて気象災害と日本の気象の特徴を関係付けて考えている姿。		・分解によって、1種類の物質から2種類以上の異なる物質が生成することを質的・実体的な視点で、根拠を基に定性的に分析している姿。  ・化学変化で起こる現象を微視的、量的・関係的な視点で捉え、原子の組み合わせと化学変化の前後の粒子の数を関係付けて考察している姿。  ・銅やマグネシウムなどの金属が酸化するときの化学変化を量的・関係的な視点で捉え、グラフから金属と酸素が一定の割合で反応することを原子や分子のモデルと関係付けて微視的に捉えて考察する姿。		・植物と動物の細胞を共通点や相違点に着目して比較し、植物と動物の細胞の特徴を、それぞれの生活と関連付けて考えている姿。  ・植物の体を、つくりと働きの視点で捉え、水などの物質の移動に着目しながら、光合成、呼吸、蒸散などの実験の結果と関係付けて考えている姿。  ・動物の消化・吸収、呼吸、血液循環などの働きを、物質交換押し点で捉え、細胞や器官の働きと関係付けて考えている姿。		・直列回路や並列回路における電流や電圧に関する規則性を量的・関係的な視点で捉え、電流と電圧の働きについて規則性や関係性を見出して表現している姿。  ・電流が磁界との相互作用で受ける力や電磁誘導の現象などを量的・関係的な視点で捉え、電流と磁界の関係性や規則性を見出して表現している姿。		理科 に お け る 「 見 方 」	[エネルギー] 量的・関係的な視点  [粒子] 質的・実体的な視点  [生命] 多様性と共通性の視点  [地球] 時間的・空間的な視点		



# 理科 年間指導計画（3年）

学校で育成を目指す 資質・能力		学習の基盤となる資質・能力		現実的な諸課題に対応して求められる資質・能力	
		<b>&lt;言語能力&gt;</b>		<b>&lt;自分づくり&gt;</b>	
理科と関連付けた 資質・能力		<b>考えの妥当性や信頼性を吟味する力</b> <b>他社に的確にわかりやすく伝える力</b>		<b>夢や目標をもち、生き方を追求する姿勢</b> <b>協働的に行動する姿勢</b>	
学習指導要領 における目標	知識及び技能	自然の事象・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。			
	思考力、判断力、表現力等 学びに向かう力、人間性等	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 自然の事象・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。			
学期		前期		後期	
<b>3年</b>		運動とエネルギー【エネルギー】 1章 力のつり合い 2章 物体の運動 3章 仕事とエネルギー 4章 多様なエネルギーとその移り変わり 5章 エネルギー資源とその利用		化学変化とイオン【物質】 1章 水溶液とイオン 2章 電池とイオン 3章 酸・アルカリと塩	
配当時間		34		20	
資質・能力の三つの柱	知識及び技能	①水圧についての実験を行い、その結果を水の重さと関連付けて理解すること。また、水中にある物体には浮力が働くことを知ることに。 ②力の合成と分解についての実験を行い、合力や分力の規則性を理解すること。 ③物体の運動についての観察、実験を行い、運動には速さと向きがあることを知ることに。 ④物体に力が働く運動及び力が働かない運動についての観察、実験を行い、力が働く運動では運動の向きや時間の経過に伴って物体の速さが変わること及び力が働かない運動では物体は等速直線運動することを見いだして理解すること。 ⑤仕事に関する実験を行い、仕事と仕事率について理解すること。また、衝突の実験を行い、物体のもつ力学的エネルギーは物体が他の物体になしうる仕事で測れることを理解すること。 ⑥力学的エネルギーに関する実験を行い、運動エネルギーと位置エネルギーが相互に移り変わることを見いだして理解するとともに、力学的エネルギーの総量が保存されることを理解すること。	①水溶液に電圧をかけ電流を流す実験を行い、水溶液には電流が流れるものと流れないものがあることを見いだして理解すること。また、電解質水溶液に電圧をかけ電流を流す実験を行い、電極に物質が生成することからイオンの存在を知るとともに、イオンの生成が原子の成り立ちに関係することを知ることに。 ②酸とアルカリの性質を調べる実験を行い、酸とアルカリのそれぞれの特性が水素イオンと水酸化物イオンによることを知ることに。 ③中和反応の実験を行い、酸とアルカリを混ぜると水と塩が生成することを理解すること。 ④金属を電解質水溶液に入れる実験を行い、金属によってイオンへのなりやすさが異なることを見いだして理解すること。 ⑤電解質水溶液と2種類の金属などを用いた実験を行い、電池の基本的な仕組みを理解するとともに、化学エネルギーに変換されていることを知ることに。	①天体の周年運動の観察を行い、その観察記録を地球の自転と関連付けて理解すること。 ②星座の周年運動や太陽の南中高度の変化などの観察を行い、その観察記録を地球の公転や地軸の傾きと関連付けて理解すること。 ③観測資料などを基に、惑星や恒星などの特徴を見いだして理解するとともに、太陽系の構造について理解すること。 ④月の観察を行い、その観察記録や資料に基づいて、月の公転と見え方を関連付けて理解すること。また、金星の観測資料などを基に、金星の公転と見え方を関連付けて理解すること。	
	思考力、判断力、表現力等	運動とエネルギーについて、見直しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、力のつり合い、合成や分解、物体の運動、力学的エネルギーの規則性や関係性を見いだして表現すること。また、探究の過程を振り返ること。	化学変化について、見直しをもって観察、実験などを行い、イオンと関連付けてその結果を分析して解釈し、化学変化における規則性や関係性を見いだして表現すること。また、探究の過程を振り返ること。	地球と宇宙について、天体の観察、実験などを行い、その結果や資料を分析して解釈し、天体の運動と見え方についての特徴や規則性を見いだして表現すること。また、探究の過程を振り返ること。	
	学びに向かう力、人間性等	力と運動、力学的エネルギー等に関する事象・現象に対する気付きから問題を見いだして解決しようとする。 力と運動、力学的エネルギー等に関する事象・現象の理解が深まることによって、新たな問題を見いだそうとする。 科学的な根拠に基づき適切に判断しようとする。	酸・アルカリや電池等に関する事象・現象に対する気付きから問題を見いだして解決しようとする。 酸・アルカリや電池等に関する事象・現象の理解が深まることによって、新たな問題を見いだそうとする。 課題の解決に粘り強く挑戦しようとする。	身近な天体とその運動、太陽系等に関する事象・現象に対する気付きから問題を見いだして解決しようとする。 身近な天体とその運動、太陽系等に関する事象・現象の理解が深まることによって、新たな問題を見いだそうとする。 地球と宇宙に関する事象・現象を日常生活との関連や理科を学ぶことの面白さ、有用性に気付こうとする。	
主に重視する探究の学習過程		<b>自然の事象・現象に進んで関わり、その中から問題を見いだす。</b>			
見方・考え方を働かせる姿		力のつり合い、浮力等を関係的な視点で捉え、台ばかりが示す値を根拠に基づき、判断している姿。 物体の運動に関する現象を質的・関係的な視点で捉え、物体に働く力と物体の運動の様子、物体に力が働いたときの運動と働かないときの運動についての規則性を見いだしている姿。 位置エネルギーや運動エネルギー、力学的エネルギーの保存の実験を振り返り、量的・関係的な視点で比較し、探究の過程における妥当性を検討している姿。	電解質水溶液中で起こっている現象を微視的な視点で捉え、探究の過程を振り返って原子の存在だけでは説明できないことからイオンの存在に気付いている姿。 様々な中和で起こる現象を微視的な視点で捉え、生成する塩を酸・アルカリの種類と関係付けて考えている姿。 金属のイオンへのなりやすさが異なることを質的・関係的に捉え、これまでの学習の過程を踏まえてイオンのモデルと関連付けて考えたり、得られた結果を表にまとめたりして分析している姿。	太陽の一日の動きを継続的に観察したり、モデルを用いた実験で太陽の1日の動きを記録したりすることを通して、太陽の位置の変化を時間的・空間的な視点で考えている姿。 観察に基づいて、地球と月、地球と金星の位置関係を俯瞰し、時間的・空間的に捉え、その位置関係から見え方を関係付けて考えている姿。	
学期		前期		後期	
<b>3年</b>		生命の連続性【生命】 1章 生物のふえ方と成長 2章 遺伝の規則性と遺伝子 3章 生物の種類の多様性と進化		自然と人間 1章 自然界のつり合い 2章 様々な物質の利用と人間 3章 科学技術と人間 4章 人間と環境 5章 持続可能な社会をめざして	
配当時間		20		27	
資質・能力の三つの柱	知識及び技能	①体細胞分裂の観察を行い、その順序性を見いだして理解するとともに、細胞の分裂と生物の成長とを関連付けて理解すること。 ②生物の殖え方を観察し、有性生殖と無性生殖の特徴を見いだして理解するとともに、生物が殖えていくときに親の形質が子に伝わることを見いだして理解すること。 ③交配実験の結果などに基づいて、親の形質が子に伝わる際の規則性を見いだして理解すること。 ④現存の生物及び化石の比較などを通して、現存の多様な生物は過去の生物が長い時間の経過の中で変化して生じたものであることを体のつくりと関連付けて理解すること。	①自然界のつり合いについて基本的な概念や原理・法則などを理解していること ②物質に関する観察、実験などを通して、日常生活や社会では、様々な物質が幅広く利用されていることを理解すること。また、物質の有効な利用が大切であることを理解すること。 ③科学技術の発展の過程を理解すること。 また、科学技術が人間の生活を豊かで便利にしていることを理解すること。 ④自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について科学的に考察することを通して、持続可能な社会をつくることが重要であることを理解すること。		
	思考力、判断力、表現力等	生命の連続性について、観察、実験などを行い、その結果や資料を分析して解釈し、生物の成長と殖え方、遺伝現象、生物の種類の多様性と進化についての特徴や規則性を見いだして表現すること。また、探究の過程を振り返ること。	エネルギーや物質について見直しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈するとともに、自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について、科学的に考察して判断すること。また、探求の過程を振り返ること。		
	学びに向かう力、人間性等	生物の成長や遺伝、進化等に関する事象・現象に対する気付きから問題を見いだして解決しようとする。 生物の成長や遺伝、進化等に関する事象・現象の理解が深まることによって、新たな問題を見いだそうとする。 生命現象が精妙な仕組みに支えられていることに気付き、生命を尊重しようとする。	エネルギーと物質、自然環境の保全と科学技術の利用に対する気付きから問題を見いだして解決しようとする。 エネルギーと物質、自然環境の保全と科学技術の利用の理解が深まることによって、新たな問題を見いだそうとする。 科学技術と自然界に関する事象・現象を日常生活との関連や理科を学ぶことの面白さ、有用性に気付こうとする。		
主に重視する探究の学習過程		<b>自然の事象・現象に進んで関わり、その中から問題を見いだす。</b>			
見方・考え方を働かせる姿		生物の成長を、細胞の数が増える、細胞が伸長、肥大する、などの微視的な視点で捉え、体細胞分裂の過程の順序性と関係付けて考えている姿。 メンデルの交配実験の結果を、形質の表れ方の規則性に着目して、分析し解釈している姿。 生物の間のつながりを時間的な視点で捉え、「地層の重なりと過去の様子」での示準化石などについての学習と関係付けて考えている姿。	生物と周辺の環境に着目して生態系における生物の役割や物質の循環に着目して考察し、関係性を整理している姿。 人間の様々な自然界のつり合いに影響を与えることを見いだすために、収集した情報を比較、検討し考察している姿。 現象をエネルギーの変換という視点から捉え、実験結果を分析し解釈している姿。 科学技術の有用性と活用の在り方に着目して、科学的な根拠に基づいて整理している姿。		

教科書での 配当時間：128 h	標準授業時間数：140 h
横 浜 版 で の 呼 び 方	知識・技能
	思考・判断・表現
	主体的に学習に取り組む態度
理 一 科 見 に 方 お け る	「エネルギー」 量的・関係的な視点 「粒子」 質的・実体的な視点 「生命」 多様性と共通性の視点

# 音楽科 年間指導計画（1年）

学校で育成を目指す 資質・能力		学習の基盤となる資質・能力							現実的な諸課題に対応して求められる資質・能力							
		<言語能力>							<自分づくり>							
音楽科と関連付けた 資質・能力		感じたことを言葉にする力		豊かな表現を工夫する力					主体性・積極性		他者の考えや思いに対する受容性					
		相手の思いを受け止めて聞く力		伝え合うことで集団を発展させる力					自分らしさを発揮しようとする姿勢		自己肯定感					
		伝え合うことで自分の考えを深化させる力							伝え合うことで自分の考えを深化させる力							
学習指導要 領における 目標	知識及び技能	・曲想と音楽の構造や背景などとの関わりおよび音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。														
	思考力、判断力、表現力等 学びに向かう 力、人間性等	・音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。														
		・音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。														
月	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	時数合計				
1年	中学校の音楽の学習について	校歌を覚えよう 思いをこめて歌おう	音楽の特徴に注目しながら情景を思い浮かべよう	曲想を感じ取って、表現を工夫しよう	音のつながりの特徴をとらえよう	日本の民謡やアジアの諸民族の音楽の特徴を感じ取って魅力を味わおう	音のつながりの特徴を生かさそう	曲想やパートの役割を感じ取って、表現を工夫しよう	日本の歌のよさや美しさを感じ取って、歌唱表現を工夫しよう	曲想を感じ取って、表現を工夫しよう	曲想と音楽の構造との関わりを理解し、その魅力を味わおう	日本に古くから伝わる合奏に親しみ、その魅力を味わおう	思いを込めて合唱しよう	曲の構成や曲想の変化を生かして、表現を工夫しよう	イメージと音楽との関わりを感じ取る	標準授業時数：45h
	配当時間	2	2	4	2	2	4	2	6	2	2	3	2	4	4	
資質・能力の 三つの柱	知識及び技能	〔共通事項〕 音楽を形づくっている要素およびそれらに関わる用語や記号などについて、音楽における働きと関わらせて理解すること。 ～知識～ 【歌唱】について理解すること (ア)曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わり (イ)声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わり 【器楽】について理解すること (ア)曲想と音楽の構造との関わり (イ)楽器の音色や響きと奏法との関わり 【音楽づくり・創作】について理解すること (ア)音のつながり方の特徴 (イ)音素材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴 【鑑賞】について理解すること (ア)曲想と音楽の構造との関わり (イ)音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わり (ウ)我が国や郷土の伝統音楽及びアジア地域の諸民族の音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性 ～技能～ 【歌唱】について身に付けること (ア)創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能 (イ)創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能 【器楽】について身に付けること (ア)創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能 (イ)創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の音などを聴きながら他者と合わせて演奏する技能 【音楽づくり・創作】について身に付けること 創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組み合わせなどの技能を身に付けること														
	思考力、判断力、表現力等	〔共通事項〕 ア 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えること 【歌唱】について ・歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現を創意工夫すること 【器楽】について ・器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現を創意工夫すること 【音楽づくり・創作】について ・創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、創作表現を創意工夫すること 【鑑賞】に関わる知識を得たり生かしたりしながら、次の項目について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くこと (ア)曲や演奏に対する評価とその根拠 (イ)生活や社会における音楽の意味や役割 (ウ)音楽表現の共通性や固有性														
	学びに向かう力、人間性等	主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う。														
内容（教材）	オリエンテーション	校歌 We'll Find The Way	和声と創意の試み第1集「四季」	リコーダーについて 喜びの歌	リズムゲーム	日本の民謡 ソーラン節 アジアの諸民族の音楽	旋律をつくらう	橘響祭クラス合唱曲	浜辺の歌 赤とんぼ	聖者の行進 かつこう	魔王	雅楽 平調「越天楽」	朝の風に 君をのせて	主人は冷たい土の中に Edelweiss	映画音楽を聴こう	
主題の目標	学習の目標を確認し、年間の学習内容を把握する。	曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、それらを生かした歌唱表現を創意工夫して歌う。	曲想と音楽の構造との関わりについて理解するとともに曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。	曲想と音楽の構造との関わりについて理解するとともに、それらを生かした器楽表現を創意工夫して演奏する。	音のつながり方の特徴について理解する。	音楽の特徴とその背景となる文化や歴史との関わり、我が国や郷土の伝統音楽及びアジア地域の諸民族の音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性について理解するとともに、音楽のよさや美しさを味わって聴く。	音のつながり方の特徴について理解するとともに、それらを生かした創作表現を工夫する。	曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、それらを生かした歌唱表現を創意工夫して歌う。	曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、それらを生かした歌唱表現を創意工夫して歌う。	曲想と音楽の構造との関わりについて理解するとともに、それらを生かした器楽表現を創意工夫して演奏する。	曲想と音楽の構造との関わりについて理解するとともに、生活や社会における音楽の意味や役割について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。	音楽の特徴とその背景となる文化や歴史について理解するとともに、それらを生かした歌唱表現を創意工夫して歌う。	曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、それらを生かした歌唱表現を創意工夫して歌う。	曲想と音楽の構造や葉子の内容との関わりについて理解するとともに、それらを生かした歌唱表現を創意工夫して歌う。	音楽の特徴とその背景となる文化や他の芸術との関わりについて理解するとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。	



# 音楽科 年間指導計画（2年）

学校で育成を目指す 資質・能力		学習の基盤となる資質・能力 <b>&lt;言語能力&gt;</b>							現実的な諸課題に対応して求められる資質・能力 <b>&lt;自分づくり&gt;</b>						
音楽科と関連付けた 資質・能力		感じたことを言葉にする力 相手の思いを受け止めて聞く力 伝え合うことで自分の考えを深化させる力							豊かな表現を工夫する力 伝え合うことで集団を発展させる力 伝え合うことで自分の考えを深化させる力						
学習指導要 領における 目標	知識及び技能	・曲想と音楽の構造や背景などとの関わりおよび音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けるようにする。													
	思考力、判断力、表現力等 学びに向かう力、人間性等	・曲にふさわしい音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。													
		・音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。													
月		4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	時数合計		
2年		年間の学習を把握しよう 曲想と曲の構成を感じ取って、歌唱表現を工夫しよう	曲想と音楽の構造との関わりを理解して、その魅力を味わおう	曲想と音楽の構造との関わりを理解して、器楽表現を工夫しよう	曲想と曲の構成を感じ取って、表現を工夫しよう	日本の郷土芸能や伝統音楽の特徴を理解して、その魅力を味わおう	音の重なり方や反復、変化を理解して、創作表現を工夫しよう	パートの役割を理解して、歌唱表現を工夫し、仲間とともに表情豊かに合唱しよう	曲想と歌詞の内容との関わりを理解して、歌唱表現を工夫しよう	曲想と音楽の構造との関わりを理解して、器楽表現を工夫しよう	歌舞伎に親しみ、その魅力を味わおう	オペラに親しみ、その魅力を味わおう	曲想と音楽の構造との関わりを理解して、歌唱表現を工夫しよう	標準授業時数：35h	
配当時間		1	3	3	2	1	3	1	5	2	4	3	4	3	35
資質・能力の 三つの柱	知識及び 技能	〔共通事項〕 音楽を形づくっている要素およびそれらに関わる用語や記号などについて、音楽における働きと関わらせて理解すること。 ～知識～ 【歌唱】について理解すること (ア)曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わり (イ)声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わり 【器楽】について理解すること (ア)曲想と音楽の構造や曲の背景との関わり (イ)楽器の音色や響きと奏法との関わり 【音楽づくり・創作】について理解すること (ア)音階や言葉などの特徴及び音のつながり方の特徴 (イ)音楽材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴 【鑑賞】について理解すること (ア)曲想と音楽の構造との関わり (イ)音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わり (ウ)我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性 ～技能～ 【歌唱】について身に付けること (ア)創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能 (イ)創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能 【器楽】について身に付けること (ア)創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能 (イ)創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の音などを聴きながら他者と合わせて演奏する技能 【音楽づくり・創作】について身に付けること 創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組み合わせなどの技能を身に付けること													
	思考力、判断力、表現力等	〔共通事項〕 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えること 【歌唱】について 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫すること 【器楽】について 器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい器楽表現を創意工夫すること 【音楽づくり・創作】について 創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、まとまりのある創作表現を創意工夫すること 【鑑賞】に関わる知識を得たり生かしたりしながら、次の項目について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くこと (ア)曲や演奏に対する評価とその根拠 (イ)生活や社会における音楽の意味や役割 (ウ)音楽表現の共通性や固有性													
	学びに向かう力、人間性等	主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しんでいく態度を養う。													
内容（教材）		オリエンテーション 翼をください 夏の思い出	フーガ ト短調	リコーダーについて 虹の彼方に	リズムゲーム	郷土の祭りや芸能 世界の諸民族の音楽	旋律をつくらう	橘響祭クラス合唱曲	荒城の月 サンタルチア	アンサンブル「美女と野獣」	歌舞伎「勧進帳」	歌劇「アイーダ」	Joyful, Joyful 生活や社会の中の音楽		
主題の目標		学習の目標を確認し、年間学習内容を把握する。	曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、それらを生かした歌唱表現を創意工夫して歌う。	曲想と音楽の構造との関わりについて理解するとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。	曲想と音楽の構造との関わりについて理解するとともに、それらを生かした曲にふさわしい器楽表現を創意工夫して演奏する。	音のつながり方の特徴について理解する。	音楽の特徴とその背景となる文化や歴史との関わりについて理解するとともに、生活や社会における音楽の意味や役割について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。	音楽材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴について理解するとともにそれらを生かして音楽をつくる。	曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、それらを生かした曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫して歌う。	曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、それらを生かした曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫して歌う。	曲想と音楽の構造との関わりについて理解するとともに、それらを生かした器楽表現を創意工夫して演奏する。	音楽の特徴とその背景となる文化や歴史との関わりについて理解するとともに、生活や社会における音楽の意味や役割について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。	音楽の特徴とその背景となる文化や歴史との関わりについて理解するとともに、生活や社会における音楽の意味や役割について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。	曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、それらを生かした曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫して歌う。	

# 音楽科 年間指導計画（3年）

学校で育成を目指す 資質・能力		学習の基盤となる資質・能力							現実的な諸課題に対応して求められる資質・能力						
		<b>&lt;言語能力&gt;</b>							<b>&lt;自分づくり&gt;</b>						
音楽科と関連付けた 資質・能力		感じたことを言葉にする力 豊かな表現を工夫する力 相手の思いを受け止めて聞く力 伝え合うことで集団を発展させる力 伝え合うことで自分の考えを深化させる力							主体性・積極性 他者の考えや思いに対する受容性 自分らしさを発揮しようとする姿勢 自己肯定感 伝え合うことで自分の考えを深化させる力						
学習指導要 領における 目標	知識及び技能	・曲想と音楽の構造や背景などとの関わりおよび音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けるようにする。													
	思考力、判断力、表現力等	・曲にふさわしい音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。													
	学びに向かう力、人間性等	・音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。													
月	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	時数合計			
3年	オリエンテーション	日本の歌のよさや美しさを理解して、歌唱表現を工夫しよう	音楽の特徴や背景を理解し、その魅力を味わおう	曲想と音楽の構造との関わりを理解して、器楽表現を工夫しよう	曲想と曲の構成を感じ取って、歌唱表現を工夫しよう	パートの役割を理解して、歌唱表現を工夫しよう	音階の特徴及び音のつながり方の特徴を生かして、創作表現を工夫しよう	仲間とともに、表情豊かに合唱しよう	音楽の特徴や背景を理解して、その魅力を味わおう	曲種に応じた発声を生かして、歌唱表現を工夫しよう	音楽の特徴や背景を理解して、その魅力を味わおう	ポピュラー音楽の特徴を理解して、その魅力を味わおう	仲間とともに表情豊かに合唱しよう	仲間とともに表情豊かに合唱しよう	標準授業時数：35h
	配当時間	1	3	3	3	1	3	1	5	2	3	3	3	3	
資質・能力の 三つの柱	知識及び技能	【共通事項】 音楽を形づくっている要素およびそれらに関わる用語や記号などについて、音楽における働きと関わらせて理解すること。 ～知識～ 【歌唱】について理解すること (ア)曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わり (イ)声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わり 【器楽】について理解すること (ア)曲想と音楽の構造や曲の背景との関わり (イ)楽器の音色や響きと奏法との関わり 【音楽づくり・創作】について理解すること (ア)音階や言葉などの特徴及び音のつながり方の特徴 (イ)音素材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴 【鑑賞】について理解すること (ア)曲想と音楽の構造との関わり (イ)音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わり (ウ)我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性 ～技能～ 【歌唱】について身に付けること (ア)創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能 (イ)創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能 【器楽】について身に付けること (ア)創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能 (イ)創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の音などを聴きながら他者と合わせて演奏する技能 【音楽づくり・創作】について身に付けること 創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組み合わせなどの技能を身に付けること													
	思考力、判断力、表現力等	【共通事項】 ア 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことから感じたこととの関わりについて考えること 【歌唱】について 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫すること 【器楽】について 器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい器楽表現を創意工夫すること 【音楽づくり・創作】について 創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、まとまりのある創作表現を創意工夫すること 【鑑賞】に関わる知識を得たり生かしたりしながら、次の項目について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くこと (ア)曲や演奏に対する評価とその根拠 (イ)生活や社会における音楽の意味や役割 (ウ)音楽表現の共通性や固有性													
	学びに向かう力、人間性等	主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しんでいく態度を養う。													
内容（教材）	オリエンテーション	花 花の街	組曲「展覧会の絵」	リーダーについて ピアノソナタ第8番	リズムゲーム	大地讃頌	旋律をつくろう	橋響祭クラス合唱曲	ポレロ	Let It Be Amazing Grace	ブルタバ（モルダウ）	ルールを守って音楽を楽しもう ポピュラー音楽を聴こう	旅立ちの日に	卒業式の歌	
主題の目標	学習の目標を確認し、年間の学習内容を把握する。	曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、それらを生かした歌唱表現を創意工夫して歌う。	曲想と音楽の構造との関わりや演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。	曲想と音楽の構造との関わりについて理解するとともに、それらを生かした曲にふさわしい器楽表現を創意工夫して演奏する。	音のつながり方の特徴について理解する。	曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、それらを生かした曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫して歌う。	音素材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴について理解するとともにそれらを生かして音楽をつくる。	曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、それらを生かした曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫して歌う。	音楽の特徴とその背景となる文化や歴史との関わりについて理解するとともに、それらを生かした曲における音楽の意味や役割について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。	曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、生活や社会における音楽の意味や役割について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。	音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わりについて理解するとともに、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。	曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、それらを生かした曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫して歌う。	曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、それらを生かした曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫して歌う。		

# 美術科 年間指導計画（1年）

学校で育成を目指す 資質・能力		学習の基盤となる資質・能力							現実的な諸課題に対応して求められる資質・能力								
		<b>&lt;言語能力&gt;</b>							<b>&lt;自分づくり&gt;</b>								
美術科と関連付けた 資質・能力		事実等を解釈し自分の考えを形成する力 伝え合うことで自分の考えを深化させる力 目的や意図に応じて伝えるべきことを理解する力							豊かな表現を工夫する力 考えの妥当性や信頼性を吟味する力								
学習指導要領における目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>知識及び技能           <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。</li> </ul> </li> <li>思考力、判断力、表現力等           <ul style="list-style-type: none"> <li>・造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。</li> <li>・美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、豊かな情操を培う。</li> </ul> </li> </ul>															
月		4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	時数合計				
<b>1年</b>		美術との出会い P 2-5 中学校美術の世界へようこそ P 6-7	絵や彫刻との出会い あなたらしさを見つけて P 10-11	見つめると見えてくるもの P 12-13 鉛筆で描く/水彩で描く P 60 色彩の基本・仕組み P 70-72	なぜか気になる情景 P 16-17 遠近感を表す P 6 2	鑑賞との出会い 見方や感じ方を広げよう P 26-27	美のタイムトラベル P 28-29	デザインや工芸との出会い 人との暮らしを豊かに P 38-39	印象に残るシンボルマーク P 44-45	自然の美しさから生まれた P 54-55	学びの言葉 松任谷由実 P 5 発想・構想の手立て P 58-59	文字っておもしろい P 42-43 文字の基本 P 63	暮らしに息づく土の造形 P 52-53 焼き物を作る P 67	屏風、美のしかけ P 32-37	広がる模様の世界 P 40-41	材料に命を吹き込む P 20-21	標準授業時数：45h
配当時間		1	1	6	6	1	1	1	4	1	1	4	6	1	5	6	45
知識及び技能		<p>【共通事項】 ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解すること。 イ 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること。</p> <p>【造形遊びをする活動の技能】 制作活動を通して、材料や用具を活用するとともに、過去の経験や技能を総合的に生かしたり方法などを組み合わせたりするなどして、活動を工夫して制作すること。</p> <p>【技能】 ・材料や用具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表すこと。 ・材料や用具の特徴などから制作の順序などを考えながら、見直しをもって表すこと。</p>															
資質・能力の 三つの柱		<p>【共通事項】 ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解すること。 イ 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること。</p> <p>【絵画・彫刻】 ア 対象や事象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出し、全体と部分との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに構想を練ること。</p> <p>【デザイン・工芸】 ア 構成や装飾の目的や条件などを基に、対象の特徴や用いる場面などから主題を生み出し、美的感覚を働かせて調和のとれた美しさなどを考え、表現の構想を練ること。</p> <p>イ 伝える目的や条件などを基に、伝える相手や内容などから、主題を生み出し、わかりやすさと美しさなどの調和を考え、表現の構想を練ること。</p> <p>ウ 使う目的や条件などを基に、使用するものの気持ち、材料などから主題を生み出し、使いやすさや機能と美しさなどの調和を考え、表現の構想を練ること。</p> <p>【美術作品に関する鑑賞】 ア 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて、考えるなどして、見方や感じ方を広げること。</p> <p>イ 目的や機能との調和のとれた美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を<b>広げること</b>。</p> <p>【生活の中の美術や美術文化に関する鑑賞】 ア 身の回りにある自然物や人工物の形や色彩、材料などの造形的な美しさなどを感じ取り、生活を美しく豊かにする美術の働きについて考えるなどして、見方や感じ方を広げること。</p> <p>イ 身近な地域や日本および諸外国の文化遺産などのよさや美しさなどを感じ取り、美術文化について考えるなどして見方や感じ方を<b>広げること</b>。</p>															
学びに向かう 力、人間性等		<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しく美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく態度を養う。</li> </ul>															
内容（キーワード・授業展開の卵）		・見かたを変えて発見する ・3年間の流れの把握	・身近な小さなもの（シャーペン、筆記具、紙切れ）を見つめていないに描く	・写真を撮る 取捨択一 見ながら表現する ・ハッチングなどで質感や明暗を表現 ・水彩で描く パレット・筆・筆洗・技法	・撮影→スナップ→理由（2つの遠近法〈線・空気〉）	・感じたことを言葉で思いを読み取る	・原始表現の迫力と生命力 ・用の美 飾る 伝える 使う	・テーマから発想して整理する	・らせん ハカム 組子 自然の造形美	・学びの姿勢を学ぶ マッピング アイデアスケッチ テーマ決め 方向転換	・デザインの工夫と印象の違い 明朝・ローマン 絵文字とロゴタイプとオノマトペ	・土の特性と作品の手触り ・道具 工程 成形の種類 施釉	・屏風という形と用途を生かしたデザイン 風神雷神図屏風 俵屋宗達 燕子花図 尾形光琳	・模様のルーツ 植物や自然界の物をどのように変化したのか ・単位形と並べ方	・あるがままの形から自由に発想する 特徴を生かす		
単元目標・到達目標		見慣れた作品を鑑賞して、その作家の作風や自然を見つめるまなざしに触れることにより、美術へのオリエンテーションとする	3年間の学びの説明	身近なもの愛着のあるものを見つめ、感じ取った形や色彩、明暗、質感などの特徴や美しさを基に主題を生み出し、表現方法を工夫して絵で表現する。	見慣れた情景の気になる場所やものを見つめ、感じ取った形や色彩の特徴、場所のイメージから主題を生み出し、構図や表現方法を工夫して絵で表現する。	見かたや感じ方を広げ、深めるために、作品から感じ取ること、生活の中の形や色彩から感じ取ること、美術文化や伝統から学ぶことを見方や感じ方を広げる。	形や色彩、模様、材料や場所に着目し、原始美術の造形的なよさや美しさ、人々の思いや作者の意図と工夫について考えるなど見方や感じ方を広げる。	3年間でどのような資質・能力が得られるかが示されている。デザイン・工芸には「飾る」「伝える」「使う」の3つの目的や機能があること。	伝えたい内容やイメージを基に、象徴するものや形、色彩の効果を考え、材料や用具などを工夫してマークをデザインする。	自然物を発想の源としてつくられたものや自然の造形を生かした建築の装飾の工夫や美しさを感じ取り、生活の中での美術の働きを理解する。	イメージや伝えたい内容が、相手にわかりやすく伝わるよう、形や色彩、構成を考え、材料や用具などを工夫して文字をデザインする。	土が持つ素材のよさを生かし、用途や機能と美しさなどを考え、土の生かし方や用具などを工夫し焼き物を作る。	屏風の表現のよさや美しさ、折ることで生まれる立体感や見え方の変化を感じ取るなどして見方や感じ方を広げる。	目的や条件などを基に、自然物や人工物などの形や色彩の特徴を捉えて構成を工夫してデザインする。	材料の形や色彩、質感などからイメージを広げて主題を生み出し、材料の組み合わせ方や用具を工夫して立体で表す。		



# 美術科 年間指導計画（2年）

学校で育成を目指す 資質・能力		学習の基盤となる資質・能力						現実的な諸課題に対応して求められる資質・能力					
		＜言語能力＞						＜自分づくり＞					
美術科に関連付けた 資質・能力		事実等を解釈し自分の考えを形成する力		豊かな表現を工夫する力		自分らしさを発揮しようとする姿勢		夢や目標をもち、生き方を追求する姿勢					
		伝え合うことで自分の考えを深化させる力		考えの妥当性や信頼性を吟味する力		伝え合うことで自分の考えを深化させる力							
		目的や意図に応じて伝えるべきことを理解する力				さまざまな情報を活用・選択する力							
学習指導要 領における目 標	知識及び技能	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。											
	思考力、判断力、表現力等	・造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。											
	学びに向かう力、人間性等	・美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、豊かな情操を培う。											
月	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	時数合計	
2年	学びの実感と広がり 上2-5 あなたの美の見つけて 上6-7 この教科書で学びみなさんへ 上8-9	視点の冒険 上12-13	つくって使って味わう工芸 上42-43 木で作る 上57	手から手へ受け継ぐ 上32-33 受け継ぐ伝統と文化 下53	浮世絵はすごい 上24-29 北斎の大波 上54	文化の出会いがもたらしたものの 上30 日本の美術と世界の美術の出会い 上60-63	ジジジカピカポッポッパッ 上36-37	瞬間の美しさを形に 上10-11 人物を作る 上56	なんでこれが美術なの？ 上22-23 学びの言葉 岡本太郎 上5 岡本太郎「芸術はみんなのもの」 上51	ひと目で伝えるための工夫 上38-39 色彩の特徴を深く知る 上64	水と筆を操る 上20-21 水墨画の表現 上55	暮らしやすさのデザイン 上44-45	標準授業時数：35h
配当時間	1	5	6	1	1	1	3	7	1	6	2	1	35
資質・能力の 三つの柱	知識及び技能	<p>【共通事項】 ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解すること。 イ 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること。</p> <p>【造形遊びをする活動の技能】 制作活動を通して、材料や用具を活用するとともに、過去の経験や技能を総合的に生かしたり方法などを組み合わせたりするなどして、活動を工夫して制作すること。</p> <p>【技能】 材料や用具の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表すこと。 ・材料や用具、表現方法の特性などから制作の順序などを総合的に考えながら、見直しをもって表すこと。</p>											
	思考力、判断力、表現力等	<p>【共通事項】 ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解すること。 イ 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること。</p> <p>【絵画・彫刻】 ア 対象や事象を深く見詰め感じ取ったこと、夢、創造や感情などの心の世界などを基に主題を生み出し、単純化や省略、強調、材料の組み合わせなどを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ること。</p> <p>【デザイン・工芸】 ア 構成や装飾の目的や条件などを基に、用いる場面や環境、社会とのかかわりなどから主題を生み出し、美的感覚を働かせて調和のとれた洗練された美しさなどを総合的に考え、表現の構想を練ること。</p> <p>イ 伝える目的や条件などを基に、伝える相手や内容、社会との関わりなどから、主題を生み出し、わかりやすさと美しさなどの調和を考え、表現の構想を練ること。</p> <p>ウ 使う目的や条件などを基に、使用するもの立場、社会との関わり、機知やユーモアなどから主題を生み出し、使いやすさや機能と美しさなどの調和を総合的に考え、表現の構想を練ること。</p> <p>【美術作品に関する鑑賞】 ア 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めること。</p> <p>イ 目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めること。</p> <p>【生活の中の美術や美術文化に関する鑑賞】 ア 身近な環境の中に見られる造形的な美しさなどを感じ取り、安らぎや自然との共生などの視点から生活や社会を美しく豊かにする美術の働きについて考えるなどして、見方や感じ方を深めること。</p> <p>イ 日本の美術作品や受け継がれてきた表現の特質などから、伝統や文化のよさや美しさを感じ取り愛情を深めるとともに、諸外国の美術や文化との相違点や共通点に気づき、美術を通じた国際理解や美術文化の継承と創造について考えるなどして、見方や感じ方を深めること。</p>											
	学びに向かう力、人間性等	・楽しく美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく態度を養う。											
内容（キーワード授業展開の卵）	・実物大の作品から表現の本質をつかみ取る ・美を発見するよるこび	・視点の変化と印象の違い	・材料や技法の特徴と作品の形や使用方法とのつながり 打ち出して切っ曲げる 風神雷神図屏風 俵屋宗達 紅白梅図屏風 尾形光琳	・伝統工芸の技と心 南部鉄器のアラレ 草木染め 織り ・江戸時代の版画 版元→絵師 →彫り師→摺師	・日本とヨーロッパ	・光の効果、演出 自然の光 人工の光	・動勢の美	・意外さ 新たな価値観 ・パブリックアート ・生き続けることと芸術表現	・サインデザイン ビクトデザイン 視覚伝達	・水墨画の世界観 濃淡 にじみ ほかし かすれ	・使う人の身になって デザインコンセプト（制作意図）とプレゼンテーション（伝達）		
単元目標・到達目標		普段とは違った視点から身近な風景を見つめ、感じ取ったイメージなどから主題を生み出し、構図の工夫や効果などを考え、材料や用具の特性を生かして創造的に絵や写真で表す。	材料の特性や機能性を生かして作ることに関心を持ち、材料のよさや美しさ、使う場面や機能などをとくに主題を生み出し、材料や用具の特性を生かし、見直しを持ってデザインし表す。	工芸作品や技の素晴らしさに関心を持ち、形や色彩、材料、技法、作風や印象などを捉え、人の手による技の素晴らしさや作品の美しさ、作者の意図と創造的な工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を深める。	浮世絵のよさや特性などに関心を持ち、構図や色彩、作風や印象などを捉え、制作者たちの意図と創造的な工夫、美術文化の継承と創造について考えるなどの見方や感じ方を深める。	ジャポニズムの表現の特色や時代背景などに関心を持ち、作品の特徴や日本美術の作風がどのように生かされているかなどを捉えね表現の特色や美しさ、作者の意図と創造的な工夫、美術を通じた国際理解、美術文化の継承と創造について考えるなどの見方や感じ方を深める。	光や影の効果を生かしたデザインに関心を持ち、空間の美しさや使う場面などを基に主題を生み出し、光の形や色彩の変化、空間に与える印象などを捉え、見直しをもってデザインし表す。	瞬間の人の動きに関心を持ち、感じ取ったイメージなどから主題を生み出し、形や重心の効果、動きの感じ、躍動感などを捉え、材料の特性を生かして創造的に立体で表す。	現代美術に関心を持ち、もの場所、大きさ、形や色彩、制作の様子などに着目し、イメージを捉えるなどしながら、作者の心情や表現意図、創造的な工夫などについて考えるなど見方や感じ方を深める。	ピクトグラムのデザインに関心を持ち、伝えたい内容やイメージ、伝える場所などを基に主題を生み出し、形や色彩などによる伝達の効果を考え、見直しを持ってデザインし表す。	墨などで表すことに関心を持ち、表したいもののイメージを基に主題を生み出し、濃淡や線などの効果を考え表現の構想を練り、墨の特性を生かして創造的に絵で表す。	使う人の立場や気持ち考えたデザインに関心を持ち、機能と美しさの調和、使う人や場所などを基に主題を生み出し、材料や用具の特性を生かし、見直しを持ってデザインし、表す。	

# 美術科 年間指導計画（3年）

学校で育成を目指す 資質・能力		学習の基盤となる資質・能力						現実的な諸課題に対応して求められる資質・能力					
		<b>&lt;言語能力&gt;</b>						<b>&lt;自分づくり&gt;</b>					
美術科と関連付けた 資質・能力		事実等を解釈し自分の考えを形成する力 豊かな表現を工夫する力 伝え合うことで自分の考えを深化させる力 考えの妥当性や信頼性を吟味する力 目的や意図に応じて伝えるべきことを理解する力						自分らしさを発揮しようとする姿勢 夢や目標をもち、生き方を追求する姿勢 伝え合うことで自分の考えを深化させる力 さまざまな情報を活用・選択する力					
学習指導要 領における目 標	知識及び技能	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。											
	思考力、判断力、表現力等	・造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。											
	学びに向かう力、人間性等	・美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、豊かな情操を培う。											
月	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	時数合計	
<b>3年</b>	学びの探求と未来 下P2-5 学びの言葉 井浦新 下5 この教科書で学ぶみなさん	あの日を忘れない 下24-29	空想は現実を超えて 下12-13	笑顔が生まれる鉄道デザイン 下46-47 受け継ぐ伝統と文化 下53	仏像に宿る心 下30-31 (仏像の種類/美術文化の継承 下54)	私の色 みんなの色 下36-37 布を染める 下56	日本の世界文化遺産 下52 今を生きる私 下8-11	さまざまなアートに触れよう 下50-51	魅力を伝えるパッケージ 下38-39 色彩の特徴を深く知る 上64	心がほっと なごむもの 下42-43	あなたへ 明日への巣立ち 下60-61	標準授業時数：35h	
	配当時間	1	2	7	1	2	4	1	7	1	3	5	1
資質・能力の 三つの柱	知識及び技能	<p>【共通事項】ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解すること。 イ 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること。</p> <p>【造形遊びをする活動の技能】制作活動を通して、材料や用具を活用するとともに、過去の経験や技能を総合的に生かしたり方法などを組み合わせたりするなどして、活動を工夫して制作すること。</p> <p>【技能】材料や用具の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表すこと。 ・材料や用具、表現方法の特性などから制作の順序などを総合的に考えながら、見直しをもって表すこと。</p>											
	思考力、判断力、表現力等	<p>【共通事項】ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解すること。 イ 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること。</p> <p>【絵画・彫刻】ア 対象や事象を深く見つめ感じ取ったこと、夢、創造や感情などの心の世界などを基に主題を生み出し、単純化や省略、強調、材料の組み合わせなどを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ること。</p> <p>【デザイン・工芸】ア 構成や装飾の目的や条件などを基に、用いる場面や環境、社会とのかかわりなどから主題を生み出し、美的感覚を働かせて調和のとれた洗練された美しさなどを総合的に考え、表現の構想を練ること。</p> <p>イ 伝える目的や条件などを基に、伝える相手や内容、社会との関わりなどから、主題を生み出し、わかりやすさと美しさなどの調和を考え、表現の構想を練ること。</p> <p>ウ 使う目的や条件などを基に、使用するもの立場、社会との関わり、機知やユーモアなどから主題を生み出し、使いやすさや機能と美しさなどの調和を総合的に考え、表現の構想を練ること。</p> <p>【美術作品に関する鑑賞】ア 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めること。</p> <p>イ 目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めること。</p> <p>【生活の中の美術や美術文化に関する鑑賞】ア 身近な環境の中に見られる造形的な美しさなどを感じ取り、安らぎや自然との共生などの視点から生活や社会を美しく豊かにする美術の働きについて考えるなどして、見方や感じ方を深めること。</p> <p>イ 日本の美術作品や受け継がれてきた表現の特質などから、伝統や文化のよさや美しさを感じ取り愛情を深めるとともに、諸外国の美術や文化との相違点や共通点に気づき、美術を通じた国際理解や美術文化の継承と創造について考えるなどして、見方や感じ方を深めること。</p>											
	学びに向かう力、人間性等	・楽しく美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく態度を養う。											
内容（キーワード授業展開の卵）	・サグラダファミリア 美の探求 ・本物を見極める力 ・より自分らしい表現を目指して	・忘れてはいけない出来事を描きとめる	・表したいイメージをアイデアスケッチや言葉を使いまとめる	・列車のデザインは旅の舞台 ・旅は、地方文化との交流 ・その地方の伝統的な材料や技法	・人々の折りの姿 ・様式美	・身にまとうものの色彩効果 ・染色技法 ・絞り ステンシル スタンプ	・社会人として基礎知識 ・誇り	・中3の時間を描きとめる ・自分との対話時間	・空間を共有する美術作品	・包装紙や包装容器を装飾する 商品や中身との関連性 ・色相による配色 トーンによる配色 ほか	・遊び心と温かみ	・学びを次につなげていく	
単元目標・到達目標	絵に込められた作者の訴えたいことなどに関心を持ち、造形的な美しさを感じ取り、社会における美術の力について考えるなどして、見方や感じ方を深める。	空想や夢、心の中の世界などから主題を生み出し、形や色彩、描くものや配置などの効果を考え、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に絵で表現する。	デザイナー・水戸岡鋭治の鉄道デザインを通して、地域の特徴を取り入れたデザインの仕事やその世界観を感じ取り、デザインが社会に果たす役割などについて考えるなどして、見方や感じ方を深める。	顔や手の表情がもたらす効果による全体のイメージなどを捉え、仏像彫刻の特徴よさ美しさに関心を持ち、作者の意図と創造的な工夫、美術文化の継承と創造について考えるなどして、見方や感じ方を深める。	染色の技法を生かして表現することに関心を持ち、使う場面飾る場面から主題を生み出し、形や色彩、染色の技法効果を考えて、材料や用具の特性を生かし自分の表現方法を追求してデザインする。	自分の心の中を見つめ、自分らしさや個性から主題を生み出し、構図や表情などの効果を考え、絵の具や用具などの特性を生かし意図に応じて創意工夫して絵や立体に表現する。	伝える目的や条件、中身のイメージなどから主題を生み出し、意図に応じて表現方法を創意工夫してデザインする。	使う人への気持ちや場面、楽しさなどから主題を生み出し、材料や用具の特性を生かし見直しを持って創造的に表す。					

# 美術科 年間指導計画 (橘中学校)

月	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	時数合計				
<b>1年</b>	美術との出会い P 2-5 中学校美術の世界へようこそ P 6-7	絵や彫刻との出会い あなたらしさを見つけて P 10-11	見つめると見えてくるもの P 12-13 鉛筆で描く/水彩で描く P 60 色彩の基本・仕組み P 70-72	なぜか気になる情景 P 16-17 遠近感を表す P 62	鑑賞との出会い 見方や感じ方を広げよう P 26-27	美のタイムトラベル P 28-29	デザインや工芸との出会い 人との暮らしを豊かに P 38-39	印象に残るシンボルマーク P 44-45	自然の美しさから生まれた P 54-55	学びの言葉 松任谷由実 P 5 発想・構想の手立て P 58-59	文字っておもしろい P 42-43 文字の基本 P 63	暮らしに息づく土の造形 P 52-53 焼き物を作る P 67	屏風、美のしかけ P 32-37	広がる文様の世界 P 40-41	材料に命を吹き込む P 20-21	標準授業時数：45h
	配当時間	1	1	6	6	1	1	1	4	1	4	6	1	5	6	45
<b>2年</b>	学びの実感と広がり 上2-5 あなたの美の見つけて 上6-7 この教科書で学ぶみなさんへ 上8-9	視点の冒険 上12-13	つくって使って味わう工芸 上42-43 木で作る 上57	手から手へ受け継ぐ 上32-33 受け継ぐ伝統と文化 下53	浮世絵はすごい 上24-29 北斎の大波 上54	文化の出会いがもたらしたものの 上30 日本の美術と世界の美術の出会い 上60-63	ジジジチピカ ポッポッパッ 上36-37	瞬間の美しさを形に 上10-11 人物を作る 上56	なんでこれが美術なの？ 上22-23 学びの言葉 岡本太郎 上5 岡本太郎「芸術はみんなのもの」 上51	ひと目で伝えるための工夫 上38-39 色彩の特徴を深く知る 上64	水と筆を操る 上20-21 水墨画の表現 上55	暮らしやすさのデザイン 上44-45				標準授業時数：35h
	配当時間	1	5	6	1	1	1	3	7	1	6	2	1	35		
<b>3年</b>	学びの探求と未来 下P 2-5 学びの言葉 井浦新 下5 この教科書で学ぶみなさんへ	あの日を忘れない 下24-29	空想は現実を超えて 下12-13	笑顔が生まれる鉄道デザイン 下46-47 受け継ぐ伝統と文化 下53	仏像に宿る心 下30-31 (仏像の種類/美術文化の継承 下54)	私の色 みんなの色 下36-37 布を染める 下56	日本の世界文化遺産 下52	今を生きる私へ 下8-11	さまざまなアートに触れよう 下50-51	魅力を伝えるパッケージ 下38-39 色彩の特徴を深く知る 上64	心がほっと なごむもの 下42-43	あなたへ 明日への巣立ち 下60-61				標準授業時数：35h
	配当時間	1	2	7	1	2	4	1	7	1	3	5	1	35		



# 保健体育科 年間指導計画（1年）

学校で育成を目指す 資質・能力		学習の基礎となる資質・能力					現実的な諸課題に対応して求められる資質・能力					
		<b>&lt;言語能力&gt;</b>					<b>&lt;自分づくり&gt;</b>					
保健体育科と関連付けた 資質・能力		伝え合うことで自分の考えを深化させる力 身近な語彙の豊かさ 他者に的確にわかりやすく伝える力					伝える内容を明確にする 相手の思いを受け止めて聞く力 自己肯定感 他者の考えや思いに対する受容性 伝え合うことで自分の考えを深化させる力					
学習指導要 領における目 標	知識及び技能	・各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身につけるようにする。										
	思考力、判断力、表現力等	・運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。										
	学びに向かう力、人間性等	・生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。										
月	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	時数合計
<b>1年</b>	体づくり運動	陸上競技（奇数級） 器械運動（偶数級） 体育理論 【運動やスポーツの多様性】	水泳 保健【心身の機能の発達と心の健康】	器械運動（奇数級） 陸上競技（偶数級） 体づくり運動	ダンス（奇数級） バレーボール（偶数級） 保健【心身の機能の発達と心の健康】	バレーボール（奇数級） ダンス（偶数級） 保健【健康な生活と疾病の予防】	体づくり運動				標準授業時数：105h	
配当時間	7	実技15、体育理論3	実技12、保健5	実技19	実技15、保健5	保健15、保健6	3					
資質・能力の 三つの柱	知識及び技能	<p>「<b>体づくり運動</b>」～次の運動を通して、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体づくり運動の意義と行い方、体の動きを高める方法などを理解し、目的に適した運動を身に付け、組み合わせることができる。</p> <p>ア 体ほぐしの運動では、手軽な運動を行い、心と体との関係や心身の状態に気付き、仲間と積極的に関わり合うことができる。</p> <p>イ 体の動きを高める運動では、ねらいに応じて、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高めるための運動を行うとともに、それらを組み合わせることができる。</p> <p>「<b>陸上競技</b>」～次の運動について、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、各種目特有の技能を身に付けることができる。</p> <p>ア 短距離・リレーでは、中間走へのつなぎを滑らかにして速く走ることやバトンの受け渡して次走者のスピードを十分高めること、長距離走では、自己に適したペースを維持して走ること、ハードル走では、スピードを維持した走りからハードルを低く越すことができる。</p> <p>イ 走り幅跳びでは、スピードに乗った助走から力強く踏み切って跳ぶこと、走り高跳びでは、リズムカルな助走から力強く踏み切り滑らかな空中動作で跳ぶことができる。</p> <p>「<b>器械運動</b>」～次の運動について、技ができる楽しさや喜びを味わい、技の名称や行い方、運動観察の方法、体力の高め方などを理解するとともに、自己に適した技で演技することができる。</p> <p>ア マット運動では、回転系や技巧系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを構成し演技することができる。</p> <p>イ 鉄棒運動では、支持系や懸垂系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを構成し演技することができる。</p> <p>ウ 平均台では、体操系やバランス系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを構成して演技することができる。</p> <p>エ 跳び箱運動では、切り返し系や回転系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うことができる。</p> <p>「<b>球技</b>」～次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高める体力などを理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開することができる。</p> <p>【バレーボール】：ネット型では、ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができる。</p> <p>「<b>水泳</b>」～次の運動について、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、水泳の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高める体力などを理解するとともに、泳法を身に付けることができる。</p> <p>ア クロールでは、手と足の動き、呼吸のバランスをとり泳ぐことができる。イ 平泳ぎでは、手と足の動き、呼吸のバランスをとり泳ぐことができる。ウ 背泳ぎでは、手と足の動き、呼吸のバランスをとり泳ぐことができる。エ バタフライでは、手と足の動き、呼吸のバランスをとり泳ぐことができる。</p> <p>「<b>ダンス</b>」～次の運動について、感じを込めて踊ったりみんなで踊ったりする楽しさや喜びを味わい、ダンスの特性や由来、表現の仕方、その運動に関連して高める体力などを理解するとともに、イメージを捉えた表現や踊りを通じた交流をすること。</p> <p>ア 創作ダンスでは、多様なテーマから表現したいイメージを捉え、動きに変化を付けて即興的に表現したり、変化のあるひとまとまりの表現にしたりして踊ること。</p> <p>イ フォークダンスでは、日本の民謡や外国の踊りから、それらの踊り方の特徴を捉え、音楽に合わせて特徴的なステップや動きで踊ること。</p> <p>ウ 現代的なリズムのダンスでは、リズムの特徴を捉え、変化のある動きを組み合わせ、リズムに乗って全身で踊ること。</p> <p>「<b>体育理論</b>」～運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方について理解することができる。</p> <p>「<b>保健</b>」～傷害の防止について理解を深めるとともに、応急手当をすることができる。健康な生活と疾病の予防について理解を深めることができる。</p>										
	思考力、判断力、表現力等	<p>「<b>体づくり運動</b>」～自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える。</p> <p>「<b>球技</b>」～攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える。</p> <p>「<b>水泳</b>」～泳法などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝える。</p> <p>「<b>ダンス</b>」～表現などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。</p> <p>「<b>体育理論</b>」～運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方について、自己の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し、判断するとともに、他者に伝える。</p> <p>「<b>保健</b>」～傷害の防止について、危険の予測やその回避の方法を考え、それらを表現する。健康な生活と疾病の予防について、課題を発見し、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現する。</p>										
	学びに向かう力、人間性等	<p>「<b>体づくり運動</b>」～体づくり運動に積極的に取り組むとともに、仲間の学習を援助しようとする、一人ひとりの違いに応じた動きなどを認めようとする、話し合いに参加しようとするなどや、健康・安全に気を配る。</p> <p>「<b>球技</b>」～球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守るようとする、作戦などについての話し合いに参加しようとする、一人ひとりの違いに応じたプレイなどを認めようとする、仲間の学習を援助しようとするなどや、健康・安全に気を配る。</p> <p>「<b>水泳</b>」～水泳に積極的に取り組むとともに、勝敗などを認め、ルールやマナーを守るようとする、分担した役割を果たそうとする、一人ひとりの違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどや、水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全に気を配る。</p> <p>「<b>ダンス</b>」～ダンスに積極的に取り組むとともに、仲間の学習を援助しようとする、交流など話し合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じた表現や役割を認めようとするなどや、健康・安全に気を配ること。</p> <p>「<b>体育理論</b>」～運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方についての学習に積極的に取り組むようとする。</p> <p>「<b>保健</b>」～自他の健康に関心をもち、現在だけではなく生涯を通じて健康の保持増進や回復に主体的に取り組もうとしている。</p>										
「見方・考え方」を働かせている姿の例	「見方・考え方」とは・・・		橋中学校の保健体育科 スローガン	『いつでも どこでも 誰とでも』運動に親しめる人になろう ～「する みる 支える 知る」の多様な関わり方を大切にしよう～								
	「体育の見方・考え方」とは・・・ 運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の適性に応じた「する、みる、支える、知る」の多様な関わり方と関連付けること	「保健の見方・考え方」とは・・・ 個人及び社会生活における課題や情報を、健康や安全に関する原則や概念に着目して捉え、疾病等のリスクの軽減や生活の質の向上、健康を支える環境づくりと関連付けること		「器械運動」 ○ 器械運動の特性に着目し、技がよりよくなるための合理的な動きと関連付けている姿。 ○ 技の課題に着目し、自己に適した演技と関連付けている姿。 ○ 安全な運動の行い方に着目し、技の段階的な習得方法と関連付けている姿。 ○ 条件を変えた技、発展的な技の課題に着目し、自己の能力と関連付けている姿。 ○ 運動観察の方法に着目し、互いの多様な関わり合いを踏まえ、自己の取組を改善したり、仲間と適切な助言をしたりしている姿。 ○ 一人ひとりの違いに応じた課題解決への方法に着目し、補助の仕方や場の設定の工夫等と関連付けている姿。 ○ 体力の高め方に着目し、技の習得と体力の高まりを関連付けている姿。	「陸上競技」 ○ 陸上競技の特性に着目し、技能や記録の向上、よりよくなるための合理的な動きと関連付けている姿。 ○ 基本的な動きや効率の良い動きを習得させるとともに、各種目特有の技能や高める体力の違いに着目し、自己に適した課題と関連付けている姿。 ○ 運動観察の方法に着目し、互いの多様な関わり合いを踏まえ、取組方法を工夫している姿。 ○ 自己の状況にあった課題に挑戦したり互いに助け合い教えあったりしながら取り組んでいる姿。	「球技」 ○ 球技の特性に着目し、運動の楽しさや喜びを味わおうとしている姿。 ○ ボール操作やボールを持たないときの動き及び攻防などに着目し、自己に適した課題と関連付けている姿。 ○ 合理的な運動の仕方の理解を自分の課題と関連付け、活用したり、応用したりしている姿。 ○ チームとしての課題や問題を共有し、その解決のために、ゲームの型やチームに適した動き、作戦等を、課題と関連付けている姿。 ○ 運動観察では、ゲームの課題に応じて、ボール操作課題の実現状況を見付け、新たな課題追求につなげようとしている姿。 ○ 一人ひとりが、チームの課題解決に取り組もうとする意欲に着目し、よい動きや頑張りを讃えようとしている姿。	「水泳」 ○ 課題発見のプロセスに着目し、既習した内容から、自己の課題を適切に見出し、合理的な解決に向けた学習計画を立てようとしている姿。 ○ 学習した内容を確実に理解するために、実技書や学習カード等を活用し、動きのポイントを確認しながら繰り返し学習に取り組んでいる姿。 ○ 学習の取り組み方に着目し、仲間と言葉で話し合いをしながら、自己の考えを深めようとしている姿。 ○ 学び合いに着目し、合理的な動きと比較し、成果や改善ポイント等を考え、仲間と伝えている姿。 ○ 仲間との競争や記録測定の場面に着目し、その結果を基に振り返り、課題の実現状況を見付け、新たな課題追求につなげようとしている姿。	「ダンス」 ○ ダンスの特性に着目し、運動の楽しさや喜びを味わおうとしている姿。 ○ 表現や交流、仲間との関わり方に着目し、自己の課題解決への取り組み方と関連付けている姿。 ○ 運動観察の方法に着目し、互いの関わり方を通して、自己の取り組み方と関連付けている姿。 ○ 一人ひとりの違いに応じた学習課題への取り組みに着目し、仲間との関わり方と関連付けてダンスの楽しさを味わおうとしている姿。 ○ ダンスを通して、「する、みる、支える、知る」など多様な関わり方に着目し、自分に合った楽しみ方と関連付けている姿。 ○ 学習の振り返りに着目し、自己やグループの課題を的確に捉え、次時のめあてにつなげようとしている姿。	「体育理論」 ○ 課題解決の方法に着目し、互いの考えを共有しながら、仲間と協力し、よりよい課題解決しようとする姿。 ○ 運動やスポーツの学び方や安全な行い方に着目し、運動の実践や保健分野と関連付けている姿。 「 <b>保健</b> 」 ○ 傷害の発生要因を理解し、自己の生活と照らし合わせながら防止方法について課題を考えている姿。 ○ 応急手当の必要性に着目し、心肺蘇生法などの技能習得を通して、必要な状況と関連付けている姿。 ○ 健康な生活を送ることや、疾病を予防することに着目し、その必要性を理解して課題解決に取り組んでいる姿。 ○ 自他の健康に関心をもち、現在だけでなく生涯を通じて健康の保持増進を目指している姿。			

# 保健体育科 年間指導計画（2年）

学校で育成を目指す 資質・能力		学習の基盤となる資質・能力					現実的な課題に対応して求められる資質・能力						
		<b>&lt;言語能力&gt;</b>					<b>&lt;自分づくり&gt;</b>						
保健体育科と関連付けた 資質・能力		伝え合うことで自分の考えを深化させる力 身近な語彙の豊かさ 他者に的確にわかりやすく伝える力		伝える内容を明確にする 相手の思いを受け止めて聞く力			自己肯定感 他者の考えや思いに対する受容性 伝え合うことで自分の考えを深化させる力		メタ認知する力 主体性・積極性				
学習指導要 領における目 標	知識及び技能	・各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身につけるようにする。											
	思考力、判断力、表現力等	・運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。											
	学びに向かう力、人間性等	・生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。											
月		4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	時数合計
<b>2年</b>	体づくり運動	ソフトボール（奇数級） バドミントン（偶数級） 体育理論 【運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方】		水泳 保健【傷害の防止】		バドミントン（奇数級） ソフトボール（偶数級） 体づくり運動		バスケットボール（奇数級） 柔道（偶数級） 保健【傷害の防止】		柔道（奇数級） バスケットボール（偶数級） 保健【健康な生活と疾病の予防】		体づくり運動	標準授業時数：105h
	配当時間	7	実技15、体育理論3		実技12、保健5		実技19		実技15、保健5		保健15、保健6		3
資質・能力の 三つの柱	知識及び技能	<p>【体づくり運動】～次の運動を通して、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体づくり運動の意義と行い方、体の動きを高める方法などを理解し、目的に適した運動を身に付け、組み合わせることができる。</p> <p>ア 体ほくしの運動では、手軽な運動を行い、心と体との関係や心身の状態に気付き、仲間と積極的に関わり合うことができる。</p> <p>イ 体の動きを高める運動では、ねらいに応じて、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持續する能力を高めるための運動を行うとともに、それらを組み合わせることができる。</p> <p>【球技】～次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開することができる。</p> <p>【ソフトボール】：ベースボール型では、基本的なバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と定位置での守備などによって攻防をすることができる。</p> <p>【バドミントン】：ネット型では、ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができる。</p> <p>【バスケットボール】：ゴール型では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすることができる。</p> <p>【水泳】～次の運動について、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、水泳の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、泳法を身に付けることができる。</p> <p>ア クロールでは、手と足の動き、呼吸のバランスをとり速く泳ぐことができる。イ 平泳ぎでは、手と足の動き、呼吸のバランスをとり長く泳ぐことができる。ウ 背泳ぎでは、手と足の動き、呼吸のバランスをとり泳ぐことができる。エ バタフライでは、手と足の動き、呼吸のバランスをとり泳ぐことができる。</p> <p>【柔道】～次の運動について、技ができる楽しさや喜びを味わい、武道の特性や成り立ち、伝統的な考え方、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本動作や基本となる技を用いて簡易な攻防を展開することができる。</p> <p>柔道では、相手の動きに応じた基本動作や基本となる技を用いて、投げたり抑えたりするなどの簡易な攻防をすることができる。</p> <p>【体育理論】～運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方について理解することができる。</p> <p>【保健】～傷害の防止について理解を深めるとともに、応急手当をすることができる。健康な生活と疾病の予防について理解を深めることができる。</p>											
	思考力、判断力、表現力等	<p>【体づくり運動】～自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える。</p> <p>【球技】～攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える。</p> <p>【水泳】～泳法などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝える。</p> <p>【柔道】～攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝える。</p> <p>【体育理論】～運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方について、自己の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し、判断するとともに、他者に伝える。</p> <p>【保健】～傷害の防止について、危険の予測やその回避の方法を考え、それらを表現する。健康な生活と疾病の予防について、課題を発見し、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現する。</p>											
	学びに向かう力、人間性等	<p>【体づくり運動】～体づくり運動に積極的に取り組むとともに、仲間の学習を援助しようとする、一人ひとりの違いに応じた動きなどを認めようとする、話合いに参加しようとするなどや、健康・安全に気を配る。</p> <p>【球技】～球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとする、作戦などについて話合いに参加しようとする、一人ひとりの違いに応じたプレイなどを認めようとする、仲間の学習を援助しようとするなどや、健康・安全に気を配る。</p> <p>【水泳】～水泳に積極的に取り組むとともに、勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとする、分担した役割を果たそうとする、一人ひとりの違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどや、水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全に気を配る。</p> <p>【柔道】～武道に積極的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとする、分担した役割を果たそうとする、一人ひとりの違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどや、禁止技を用いないなど健康・安全に気を配る。</p> <p>【体育理論】～運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方についての学習に積極的に取り組もうとする。</p> <p>【保健】～自他の健康に関心をもち、現在だけでなく生涯を通じて健康の保持増進や回復に主体的に取り組もうとしている。</p>											
「見方・考え方」を 働かしている姿の例	「見方・考え方」とは・・・		<p>『いつでも どこでも 誰とでも』運動に親しめる人になろう ～「する みる 支える 知る」の多様な関わり方を大切にしよう～</p>										
	「体育の見方・考え方」とは・・・ 運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の適性等に応じた「する、みる、支える、知る」の多様な関わり方と関連付けること	「保健の見方・考え方」とは・・・ 個人及び社会生活における課題や情報を、健康や安全に関する原則や概念に着目して捉え、疾病等のリスクの軽減や生活の質の向上、健康を支える環境づくりと関連付けること											
		「体づくり運動」	「球技」	「水泳」	「柔道」	「体育理論」							
		○ 手軽な運動を通して、心と体の関係に着目し、既習の知識や運動と結び付けている姿。 ○ 手軽な運動を通して、仲間との関わり合いに着目し、課題解決を工夫している姿。 ○ 健康や体力の状況に応じて体力を高める必要性に着目し、課題解決のための適切な運動と関連付けている姿。 ○ ねらいに応じた運動の組み合わせに着目し、体力向上に向けた運動種目を工夫している姿。 ○ 運動観察の方法に着目し、互いの多様な関わり合いを踏まえ、自らの取り組みを改善したり、仲間と適切な助言をしたりしている姿。 ○ 健康の保持増進に着目し、実生活に生かす運動の計画と関連付けている姿。 ○ 心と体の関係に着目し、保健分野の内容と関連付けている姿。	○ 球技の特性に着目し、運動の楽しさや喜びを味わおうとしている姿。 ○ ボール操作やボールを持たないときの動き及び攻防などに着目し、自己に適した課題と関連付けている姿。 ○ 合理的な運動の仕方の理解を自分の課題と関連付け、活用したり、応用したりしている姿。 ○ チームとしての課題や問題を共有し、その解決のために、ゲームの型やチームに適した動き、作戦等を、課題と関連付けている姿。 ○ 運動観察では、ゲームの課題に応じて、ボール操作とボールを持たないときの動きや攻防などに着目し、課題解決に向けて取り組み方を工夫している姿。 ○ 一人ひとりが、チームの課題解決に取り組もうとする意欲に着目し、よい動きや頑張りを見せている姿。	○ 課題発見のプロセスに着目し、既習した内容から、自己の課題を適切に発見し、合理的な解決に向けた学習計画を立てようとしている姿。 ○ 学習した内容を確実に理解するために、実技書や学習カード等を活用し、動きのポイントを確認しながら繰り返し学習に取り組んでいる姿。 ○ 学習の取り組み方に着目し、仲間と言葉で話したり書いたりして、自己の考えを深めようとしている姿。 ○ 学び合いに着目し、合理的な動きと比較し、成果や改善ポイント等を考え、仲間へ伝えていく姿。 ○ 仲間との競争や記録測定の場面に着目し、その結果を基に振り返り、課題の実現状況を見付け、新たな課題追求につなげようとしている姿。 ○ 運動やスポーツの多様な関わり方に着目し、学習したことを他の場面に置きかえて考え、関わり方について考えを深めようとしている姿。	○ 柔道の特性や成り立ちなどに着目し、自ら運動の楽しさや喜びを味わおうとしている姿。 ○ 課題解決に向けた学習過程に着目し、自己の学習状況を適切に判断し、さらに上達するための方法を考えている姿。 ○ 課題解決に向けた学習に着目し、互いに助け合ったり教え合ったりして、自分の考えを深めようとしている姿。 ○ 武道の伝統的な考え方に着目し、礼を重んじ、自分を律するとともに相手を尊重しようとするなどの考え方を大切に、安全に気を付けて、練習を積み重ねようとしている姿。 ○ 柔道を通して、「する、みる、支える、知る」などの多様な関わり方に着目し、自分に合った楽しみ方を見付けようとしている姿。	○ 課題解決の方法に着目し、互いの考えを共有しながら、仲間と協力し、よりよく課題を解決しようとする姿。 ○ 運動やスポーツの学び方や安全な行い方に着目し、運動の実践や保健分野と関連付けている姿。 【保健】 ○ 傷害の発生要因を理解し、自己の生活と照らし合わせながら防止方法について課題を考えている姿。 ○ 応急手当の必要性に着目し、心肺蘇生法などの技能習得を通して、必要な状況と関連付けている姿。 ○ 健康な生活を送ることや、疾病を予防することに着目し、その必要性を理解して課題解決に取り組んでいる姿。 ○ 自他の健康に関心をもち、現在だけでなく生涯を通じて健康の保持増進を目指している姿。							



# 保健体育科 年間指導計画（3年）

学校で育成を目指す 資質・能力		学習の基礎となる資質・能力					現実的な課題に対応して求められる資質・能力					
保健体育科と関連付けた 資質・能力		＜言語能力＞					＜自分づくり＞					
伝え合うことで自分の考えを深化させる力 身近な語彙の豊かさ 他者に的確にわかりやすく伝える力		伝える内容を明確にする 相手の思いを受け止めて聞く力					自己肯定感 他者の考えや思いに対する受容性 伝え合うことで自分の考えを深化させる力					
知識及び技能 思考力、判断力、表現力等 学びに向かう力、人間性等		<ul style="list-style-type: none"> <li>各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身につけるようにする。</li> <li>運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。</li> <li>生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。</li> </ul>										
月	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	時数合計
3年	体づくり運動	選択Ⅰ ソフトボール（ベースボール型） バドミントン（ネット型） ソフトテニス（ネット型） から1領域を選択  体育理論「文化としてのスポーツの意義」	選択Ⅱ 陸上競技 （短距離走・ハートル走から1種目） （走幅跳・走高跳から1種目） 器械運動（マット・跳び箱から1種目） 水泳 （クロール・平泳ぎ・背泳ぎ・バタフライから1種目以上） もしくはダンス から1領域を選択	選択Ⅲ サッカー（ゴール型） バドミントン（ネット型） ソフトテニス（ネット型） から1領域を選択 体づくり運動	選択Ⅳ ハンドボール（ゴール型） バスケットボール（ゴール型） バレーボール（ネット型） から1領域を選択 ※選択Ⅰと選択Ⅲでネット型を選択した生徒は必ずゴール型を選択すること 保健「健康な生活と疾病の予防」	選択Ⅴ サッカー（ゴール型） バスケットボール（ゴール型） バレーボール（ネット型） から1領域を選択 保健「健康な生活と疾病の予防」	体づくり運動					標準授業時数：105h
		実技1 3、体育理論3	実技12、保健5	実技1 5	実技1 3、保健5	保健1 3、保健6	15					
配当時間	5	実技1 3、体育理論3			実技1 5		実技1 3、保健5		保健1 3、保健6		15	
資質・能力 の三つの柱	知識及び技能	<p>「体づくり運動」～次の運動を通して、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解するとともに、健康の保持増進や体力の向上を目指し、目的に適した運動の計画を立て取り組むことができる。</p> <p>ア：体づくりの運動では、手軽な運動を行い、心と体は互いに影響し変化することや心身の状態に気付き、仲間と自主的に関わり合うことができる。</p> <p>イ：実生活に生かす運動の計画では、ねらいに応じて、健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図るための運動の計画を立て取り組むことができる。</p> <p>「球技」～次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができる。</p> <p>【フットボール】：ベースボール型では、安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と連携した守備などによって攻防をすることができる。</p> <p>【バドミントン】：ネット型では、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができる。</p> <p>【バレーボール】：ネット型では、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができる。</p> <p>【サッカーボール】：ゴール型では、安定したボール操作と空間を作りだすなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができる。</p> <p>【ハンドボール】：ゴール型では、安定したボール操作と空間を作りだすなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができる。</p> <p>【バスケットボール】：ゴール型では、安定したボール操作と空間を作りだすなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができる。</p> <p>【ソフトテニス】：ネット型では、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができる。</p> <p>「陸上競技」～次の運動について、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、各種目特有の技能を身に付けることができる。</p> <p>【短距離走】：短距離・ルレーでは、中間走へのつなぎを滑らかにして速く走ることやバンの受け渡して次走者のスピードを十分高めることができる。</p> <p>【ハードル走】：ハードル走では、スピードを維持した走りからハードルを低く越すことができる。</p> <p>【走り幅跳】：走り幅跳びでは、スピードに乗った助走から力強く踏み切り跳ぶことができる。</p> <p>【走り高跳】：走り高跳びでは、リズムカナル助走から力強く踏み切り滑らかな空中動作で跳ぶことができる。</p> <p>「器械運動」～次の運動について、技ができる楽しさや喜びを味わい、技の名称や行い方、運動観察の方法、体力の高め方などを理解するとともに、自己に適した技で演技することができる</p> <p>【マット】：マット運動では、回転系や技巧系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを構成し演技することができる。</p> <p>【跳び箱】：跳び箱運動では、切り返し系や回転系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うことができる。</p> <p>「ダンス」～次の運動について、感じを込めて踊ったり、みんなで自由に踊ったりする楽しさや喜びを味わい、ダンスの名称や用語、踊りの特徴と表現の仕方、交流や発表の仕方、運動観察の方法、体力の高め方などを理解するとともに、イメージを深めた表現や踊りを通じた交流や発表をすることができる。</p> <p>【創作ダンス】：創作ダンスでは、表したいテーマにふさわしいイメージを捉え、個や群で、緩急強弱のある動きや空間の使い方などで変化をつけて即興的に表現したり、簡単な作品にまとまりて踊ることができる。</p> <p>【フォークダンス】：フォークダンスでは、日本の民謡や外国の踊りから、それらの踊り方の特徴を捉え、音楽に合わせて特徴的なステップや動きを組み方で踊ることができる。</p> <p>【現代的なリズムのダンス】：現代的なリズムのダンスでは、リズムの特徴を捉え、変化とまとまりを付けて、リズムに乗って全身で踊ることができる。</p> <p>「水泳」～次の運動について、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、効率的に泳ぐことができる。</p> <p>【クロール】：クロールでは、手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで長く泳いだり速く泳いだりすることができる。</p> <p>【平泳ぎ】：平泳ぎでは、手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで長く泳いだり速く泳いだりすることができる。</p>										知識・技能
	思考力、判断力、表現力等	<p>「体づくり運動」～自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える。</p> <p>「球技」～攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える。</p> <p>「陸上競技」～動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝える。</p> <p>「器械運動」～技などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝える。</p> <p>「ダンス」～表現などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える。</p> <p>「水泳」～泳法などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝える。</p> <p>「体育理論」～文化としてのスポーツの意義について、自己の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える。</p> <p>「保健」～健康と環境、健康な生活と疾病の予防について、課題を発見し、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらに関する情報から課題を発見し、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現する。</p>										思考・判断・表現
	学びに向かう力、人間性等	<p>「体づくり運動」体づくり運動に自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとする。一人ひとりの違いに応じた動きなどを大切にしようとする。話合いに貢献しようとするなどや、健康・安全を確保する。</p> <p>「球技」～球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする。作戦などについて話合いに貢献しようとする。一人ひとりの違いに応じたプレイなどを大切にしようとする。互いに助け合い教え合おうとするなどや、健康・安全を確保する。</p> <p>「陸上競技」～陸上競技に自主的に取り組むとともに勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする。一人ひとりの違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや、健康・安全を確保する。</p> <p>「器械運動」～器械運動に自主的に取り組むとともに、よい演技を講えようとする。互いに助け合い教え合おうとする。一人ひとりの違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや、健康・安全を確保する。</p> <p>「ダンス」～ダンスに自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとする。作品や発表などの話合いに貢献しようとする。一人ひとりの違いに応じた表現や役割を大切にしようとするなどや、健康・安全を確保する。</p> <p>「水泳」～水泳に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする。自己の責任を果たそうとする。一人ひとりの違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや、水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全を確保する。</p> <p>「体育理論」～文化としてのスポーツの意義についての学習に自主的に取り組もうとする。</p> <p>「保健」～自他の健康に関心をもち、現在だけでなく生涯を通じて健康の保持増進や回復に主体的に取り組もうとしている。</p>										主体的に学習に取り組む態度
「見方・考え方」を働かせている姿の例	「見方・考え方」は…		橘中学校の保健体育科スローガン		『いつでも どこでも 誰でも』運動に親しめる人になろう ～「する みる 支える 知る」の多様な関わり方を大切にしよう～							
	「体育の見方・考え方」は… 運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の適性等に応じた「する、みる、支える、知る」の多様な関わり方と関連付け	「保健の見方・考え方」は… 個人及び社会生活における課題や情報を、健康や安全に関する原則や概念に着目して捉え、疾病等のリスクの軽減や生活の質の向上、健康を支える環境づくりと関連付け			「器械運動」	「陸上競技」	「水泳」	「球技」				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>「体づくり運動」○ 手軽な運動を通して、心と体の関係に着目し、既習の知識や運動と結び付けている姿。</li> <li>○ 手軽な運動を通して、仲間との関わり合いに着目し、課題解決を工夫している姿。</li> <li>○ 健康や体力の状況に応じて体力を高める必要性に着目し、課題解決のための適切な運動と関連付けている姿。</li> <li>○ ねらいに応じた運動の組み合わせに着目し、体力向上に向けた運動種目を工夫している姿。</li> <li>○ 運動観察の方法に着目し、互いの多様な関わり合いを踏まえ、自らの取組を改善したり、仲間と適切な助言をしたりしている姿。</li> <li>○ 健康の保持増進に着目し、実生活に生かす運動の計画と関連付けている姿。</li> <li>○ 心と体の関係に着目し、保健分野の内容と関連付けている姿。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「器械運動」○ 器械運動の特性に着目し、技がよりよくなるための合理的な動きと関連付けている姿。</li> <li>○ 技の課題に着目し、自己に適した演技と関連付けている姿。</li> <li>○ 安全な運動の行い方に着目し、技の段階的な習得方法と関連付けている姿。</li> <li>○ 条件を変えた技、発展的な技の課題に着目し、自己の能力と関連付けながら取り組んでいる姿。</li> <li>○ 運動観察の方法に着目し、互いの多様な関わり合いを踏まえ、自己の取組を改善したり、仲間と適切な助言をしたりしている姿。</li> <li>○ 一人ひとりの違いに応じた課題解決への方法に着目し、補助の仕方や場の設定の工夫等と関連付けている姿。</li> <li>○ 体力の高め方に着目し、技の習得と体力の高まりを関連付けながら取り組んでいる姿。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「陸上競技」○ 陸上競技の特性に着目し、技能や記録の向上や、よりよくなるための合理的な動きと関連付けている姿。</li> <li>○ 基本的な動きや効率のよい動きを発展させるとともに、各種目特有の技能が高まる体力の違いなどに着目し、自己に適した課題と関連付けている姿。</li> <li>○ 運動観察の方法に着目し、互いの多様な関わり合いを踏まえ、取組みを工夫している姿。</li> <li>○ 自己の状況に合った課題に挑戦したり互いに助け合い教え合ったりしながら取り組んでいる姿。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「水泳」○ 課題発見のプロセスに着目し、既習した内容から、自己の課題を適切に発見し、合理的な解決に向けた学習計画を立てようとしている姿。</li> <li>○ 学習した内容を確実に理解するために、実技書や学習カード等を活用し、動きのポイントを確認しながら繰り返し学習に取り組んでいる姿。</li> <li>○ 学習の取組みに着目し、仲間と言葉で話したり書いたりして、自己の考えを深めようとしている姿。</li> <li>○ 学び合いに着目し、合理的な動きと比較し、成果や改善ポイント等を考え、仲間に伝えている姿。</li> <li>○ 仲間との競争や記録測定の場面に着目し、その結果を基に振り返り、課題の実現状況を見付け、新たな課題追求につなげようとしている姿。</li> <li>○ チームとしての課題や問題を共有し、その解決のために、ゲームの型やチームに適した動き、作戦等を、課題と関連付けている姿。</li> <li>○ 運動観察では、ゲームの課題に応じて、ボール操作とボールを持たないときの動きや攻防などに着目し、課題解決に向けて取組みを工夫している姿。</li> <li>○ 一人ひとりが、チームの課題解決に取り組もうとする意欲に着目し、よい動きや頑強さを講えようとしている姿。</li> </ul>								

# 技術・家庭科 年間指導計画（橘中学校）

月	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	時数合計
<b>1年技術</b>	技術分野のガイダンス	情報の技術の原理・法則と仕組み【D(1)アイ】	材料と加工の原理・原則と仕組み【A(1)アイ】	材料と加工の技術による問題解決【A(2)アイ】				社会の発展と材料と加工の技術【A(3)アイ】	双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題解決【D(2)アイ】			35
配当時間	5	4	4	14				2	6			
<b>1年家庭</b>	家庭分野のガイダンス 自分の成長と家族・家庭生活【A(1)ア】 家庭生活と地域のかかわり【A(3)ア(ア)(イ)イ】		目的に応じた衣服の選択【B(4)ア(ア)イ】 日常着の手入れと保管【B(4)ア(イ)イ】 生活を豊かにするもの製作【B(5)アイ】 持続可能な衣生活【B(4)、(5)】				住まいのはたらきとこちよさ【B(6)ア(ア)】 安全な住まいで安心な暮らし【B(6)ア(イ)イ】 持続可能な住生活【B(6)】		生活の課題と実践【A(4)、B(7)】		35	
配当時間	7		20				6		2			
<b>2年技術</b>	生物育成の技術の原理・法則と仕組み【B(1)アイ】 生物育成の技術による問題解決【B(2)アイ】	社会の発展と生物育成の技術【B(3)アイ】	エネルギー変換の技術の原理・法則と仕組み【C(1)アイ】		エネルギー変換の技術による問題解決【C(2)アイ】			社会の発展とエネルギー変換の技術【C(3)アイ】	双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題解決【D(2)アイ】			35
配当時間	8	2	8		9			2	6			
<b>2年家庭</b>	食事の役割と食習慣【B(1)ア(ア)イ、(2)ア(ア)】 中学生に必要な栄養を満たす食事【B(1)ア(イ)、(2)ア(イ)】 さまざまな食品とその選択【B(3)ア(ア)】 非常食の調理【B(3)ア(イ)(ウ)イ】				地域の食文化【B(3)ア(エ)】 献立づくり【B(2)ア(イ)】 持続可能な食生活【B(1)、(2)、(3)】			家庭生活と消費【C(1)アイ】 購入支払いと生活情報【C(1)アイ】 消費者被害と自立【C(2)アイ】 持続可能な社会【C(1)、(2)】		生活の課題と実践【B(7)、C(3)】		35
配当時間	22				11			2				
<b>3年技家</b>	情報の技術の原理・法則と仕組み【D(1)アイ、D(2)ア】 双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題解決【D(2)アイ】 幼児の生活と家族【A(2)ア(ア)】 幼児とのかかわり【A(2)ア(イ)】 持続可能な家庭生活を目指して【A(1)、(2)、(3)】						計測・制御のプログラミングによる問題解決【D(3)アイ】 社会の発展と情報の技術【D(4)アイ】 生活の課題と実践【A(4)】			3年間の振り返り		35
配当時間	22						10			3		

# 技術・家庭科 年間指導計画（1年）

学校で育成を目指す 資質・能力		学習の基盤となる資質・能力					現実的な諸課題に対応して求められる資質・能力					
		＜言語能力＞					＜自分づくり＞					
小中で教科と関連付けた 資質・能力		豊かな表現を工夫する力 相手の思いを受け止めて聞く力 伝え合うことで自分の考えを深化させる力		事実等を解釈し自分の考えを形成する力 感じたことを言葉にする力 互いの考えの違いへの気付き			伝え合うことで自分の考えを深化させる力 メタ認知する力 主体性・積極性		意思決定する力 自分らしさを発揮しようとする姿勢 基本的な生活習慣をつくる態度			
技術・家庭科と関連付けた 資質・能力		考えの妥当性や信頼性を吟味する力 言語で正確に伝える力 事実等を正確に理解する力		他者に的確に分かりやすく伝える力 目的や意図に応じて伝えるべきことを整理する力			よりよい社会を創る態度 共生社会を形成しようとする意識 様々な情報を活用・選択する力		主体的に社会参画する姿勢 地域に貢献する姿勢 課題に対応する力			
学習指導要 領における目 標	知識及び技能	(技) 生活や社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深める。 (家) 家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。										
	思考力、判断力、表現力等	(技) 生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を養う。 (家) 家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。										
	学びに向かう力、人間性等	(技) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。 (家) 自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。										
月	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	時数合計
<b>技術分野</b>	技術分野のガイダンス		情報の技術の原理・法則と 仕組み【D(1)アイ】	材料と加工の原理・原則と 仕組み【A(1)アイ】	材料と加工の技術による問題解決【A(2)アイ】			社会の発展と材料と加工の 技術【A(3)アイ】	双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題解決 【D(2)アイ】			<b>35</b>
配当時間	5		4	4	14			2	6			
資質・能力の 三つの柱	知識及び技能	○情報の表現や通信などについての理解 ○情報のデジタル化や情報セキュリティなどに関する基礎的な技術の仕組みの理解		○主な材料や加工についての理解 ○材料の製造方法や成形方法などの基礎的な技術の仕組みの理解	○製作に必要な図を描き、安全・適切な製作や検査・点検等ができる技能			○生活や社会に果たす役割や影響に基づいた材料と加工の技術の概念の理解	○情報通信ネットワークの構成と情報を利用するための基本的な仕組みの理解 ○安全・適切なプログラムの制作や動作の確認ができる技能			知識及び技能
	思考力、判断力、表現力等	○情報の技術に込められた工夫を読み取る力 ○情報の技術の見方・考え方の気付き		○材料と加工の技術に込められた工夫を読み取る力 ○材料と加工の技術の見方・考え方の気付き	○材料と加工の技術の見方・考え方を働かせて課題を設定し解決できる力			○よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて材料と加工の技術の評価・応用などする力	○情報の技術の見方・考え方を働かせて課題を設定し解決できる力			思考力、判断力、表現力等
	学びに向かう力、人間性等	○進んで情報の技術と関わって理解し技能を身に付けようとする態度		○進んで材料と加工の技術と関わって理解し技能を身に付けようとする態度	○自分なりの新しい考え方や捉え方によって解決策を構想しようとする態度 ○自らの問題解決の過程がよりよくなるよう改善・修正しようとする態度			○よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて材料と加工の技術を工夫・創造する力	○自分なりの新しい考え方や捉え方によって解決策を構想しようとする態度 ○自らの問題解決の過程がよりよくなるよう改善・修正しようとする態度			学びに向かう力、人間性等
学習内容		○技術分野の学習の見直し ○学習内容の紹介		○情報の技術とは ○安全に利用するための情報モラル	○身の回りの材料と加工の技術 ○木材・金属・プラスチックの特性 ○材料に適した加工方法 ○丈夫な製品を作るために ○材料と加工の技術の工夫の読み取り	○問題の発見・課題の設定 ○製作品の構想・設計 ○製図 ○製作の計画 ○作業手順を考えた製作 ○問題解決の評価・改善・修正	○材料と加工の技術の最適化 ○これからの材料と加工の技術	○双方向性のあるコンテンツとは			学習内容	
月	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	時数合計
<b>家庭分野</b>	家庭分野のガイダンス 自分の成長と家族・家庭生活【A(1)ア】 家庭生活と地域のかかわり【A(3)ア(ア)(イ)イ】		目的に応じた衣服の選択【B(4)ア(ア)イ】 日常着の手入れと保管【B(4)ア(イ)イ】 生活を豊かにするものの製作【B(5)アイ】 持続可能な衣生活【B(4)、(5)】			住まいのはたらきとこころよさ【B(6)ア(ア)】 安全な住まいで安心な暮らし【B(6)ア(イ)イ】 持続可能な住生活【B(6)】		生活の課題と実践【A(4)、 B(7)】			<b>35</b>	
配当時間	7		20			6			2			
資質・能力の 三つの柱	知識及び技能	○家族・家庭の基本的な機能について理解するとともに、家族や地域の人々と協力・協働して家庭生活を営む必要があることに気付くこと。 ○家庭生活は地域との相互の関わりで成り立っていることが分かり、介護や高齢者との関わり方について理解すること。		○衣服と社会生活との関わりが分かり、目的に応じた着用、個性を生かす着用及び衣服の適切な選択について理解すること。 ○衣服の計画的な活用上の必要性、衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れについて理解し、適切にできること。 ○製作する物に適した材料や縫い方について理解し、用具を安全に取り扱い、製作が適切にできること。			○家族の生活と住空間との関わりが分かり、住居の基本的な機能について理解すること。 ○家庭内の事故の防ぎ方など家族の安全を考えた住空間の整え方について理解すること。		○家族の安全を考えた住空間の整え方について考え、工夫すること。			知識及び技能
	思考力、判断力、表現力等	○家族関係をよりよくなる方法及び高齢者など地域の人々と関わり、協働する方法について考え、工夫すること。		○衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方を考え、工夫すること。 ○資源や環境に配慮し、生活を豊かにするために布を用いた物の製作計画を考え、製作を工夫すること。			○家族の安全を考えた住空間の整え方について考え、工夫すること。		○家族の安全を考えた住空間の整え方について考え、工夫すること。			思考力、判断力、表現力等
	学びに向かう力、人間性等	○家庭生活を工夫し創造しようとする実践的な態度。 ○地域の人々と関わり、協働しようとする態度。		○衣生活を工夫し創造しようとする実践的な態度。 ○衣生活における日本の生活文化を継承しようとする態度。			○住生活を工夫し創造しようとする実践的な態度。 ○住生活における日本の生活文化を継承しようとする態度。		○住生活を工夫し創造しようとする実践的な態度。 ○住生活における日本の生活文化を継承しようとする態度。			学びに向かう力、人間性等
学習内容		○家庭分野のガイダンス ○今の自分とこれまで ○わたしの生活と家族・家庭 ○家庭を支える社会 ○中学生にとっての家族	○家庭生活と地域での活動 ○多様な人びとが暮らす地域 ○地域に暮らす高齢者 ○高齢者とのかかわり	○衣服で伝わるメッセージ ○自分らしくコーディネート ○つなげよう和服の文化 ○上手な衣服の選択 ○まかせて衣服の手入れ	○布の繊維に応じた手入れ ○めざそう洗濯名人 ○補修や収納・保管 ○布による作品で生活を演出・製作の基礎・基本 ○持続可能な衣生活をめざして	○住まいのはたらき ○住まいの空間 ○家庭内事故への備え ○災害への備え ○持続可能な住生活をめざして	○生活の課題と実践			学習内容		



# 技術・家庭科 年間指導計画（2年）

学校で育成を目指す 資質・能力		学習の基盤となる資質・能力					現実的な諸課題に対応して求められる資質・能力					
		＜言語能力＞					＜自分づくり＞					
小中で教科と関連付けた 資質・能力		豊かな表現を工夫する力 相手の思いを受け止めて聞く力 伝え合うことで自分の考えを深化させる力		事実等を解釈し自分の考えを形成する力 感じたことを言葉にする力 互いの考えの違いへの気付き			伝え合うことで自分の考えを深化させる力 メタ認知する力 主体性・積極性		意思決定する力 自分らしさを発揮しようとする姿勢 基本的な生活習慣をつくる態度			
技術・家庭科と関連付けた 資質・能力		考えの妥当性や信頼性を吟味する力 言語で正確に伝える力 事実等を正確に理解する力		他者に的確に分かりやすく伝える力 目的や意図に応じて伝えるべきことを整理する力			よりよい社会を創る態度 共生社会を形成しようとする意識 様々な情報を活用・選択する力		主体的に社会参画する姿勢 地域に貢献する姿勢 課題に対応する力			
学習指導要 領における目 標	知識及び技能	（技）生活や社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深める。 （家）家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。										
	思考力、判断力、表現力等	（技）生活や社会の中から技術に関わる問題を見だして課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を養う。 （家）家族・家庭や地域における生活の中から問題を見だして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。										
	学びに向かう力、人間性等	（技）よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。 （家）自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。										
月	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	時数合計
<b>技術分野</b>	生物育成の技術の原理・法則と仕組み【B(1)アイ】 生物育成の技術による問題解決【B(2)アイ】		社会の発展と生物育成の技術【B(3)アイ】		エネルギー変換の技術の原理・法則と仕組み【C(1)アイ】		エネルギー変換の技術による問題解決【C(2)アイ】		社会の発展とエネルギー変換の技術【C(3)アイ】		双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題解決【D(2)アイ】	<b>35</b>
配当時間	8		2		8		9		2		6	
資質・能力の 三つの柱	知識及び技能	○作物、動物及び水産生物の成長、生態についての科学的な原理・法則の理解 ○生物の育成環境を調整する方法などの基礎的な技術の仕組みの理解		○生活や社会に果たす役割や影響に基づいた生物育成の技術の概念の理解		○電気、運動、熱などについての科学的な原理・法則の理解 ○エネルギーの変換や伝達などに関わる基礎的な技術の仕組みの理解		○安全・適切な制作、実装、点検及び調整等ができる技能		○生活や社会に果たす役割や影響に基づいたエネルギー変換の技術の概念の理解 ○安全・適切なプログラムの制作や動作の確認ができる技能		知識及び技能
	思考力、判断力、表現力等	○生物育成の技術に込められた工夫を読み取る力 ○生物育成の技術の見方・考え方の気付き ○生物育成の技術の見方・考え方を働かせて、問題を見いだして課題を設定し解決できる力		○よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、生物育成の技術の評価し、適切に選択、管理・運用したり、新たな発想に基づいて改		○エネルギー変換の技術に込められた工夫を読み取る力 ○エネルギー変換の技術の見方・考え方の気付き		○エネルギー変換の技術の見方・考え方を働かせて、問題を見いだして課題を設定し解決できる力		○よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、エネルギー変換の技術の評価し、適切に選択、管理・運用したり、新たな発想に基づいて改良、応用したりする力		思考力、判断力、表現力等
	学びに向かう力、人間性等	○進んで生物育成の技術と関わり、主体的に理解し、技能を身に付けようとする態度 ○自分なりの新しい考え方や捉え方によって、解決策を構想しようとする態度 ○自らの問題解決とその過程を振り返り、よりよいものとなるよう改善・修正しようとする態度		○よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、生物育成の技術を工夫し創造してこうとする態度		○進んでエネルギー変換の技術と関わり、主体的に理解し、技能を身に付けようとする態度		○自分なりの新しい考え方や捉え方によって、解決策を構想しようとする態度 ○自らの問題解決とその過程を振り返り、よりよいものとなるよう改善・修正しようとする態度		○よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、エネルギー変換の技術を工夫し創造してこうとする態度		学びに向かう力、人間性等
学習内容	○生物育成の技術とは ○作物の育成環境を調整する技術 ○作物の成長を管理する技術 ○動物を育てる技術 ○水産物を育てる技術		○生物育成の技術の工夫の読み取り ○問題の発見、課題の設定 ○生物の育成計画 ○これからの生物育成の技術		○エネルギー変換の技術とは ○発電の仕組みと特徴 ○電気を供給する仕組み ○電気回路について考えよう		○電気機器を安全に使用するための技術 ○運動エネルギーへの変換と利用 ○回転運動を伝える仕組み ○機械が動く仕組み ○機械の共通部品と保守点検の大切さ ○エネルギー変換の技術の工夫の読み取り		○問題の発見、課題の設定 ○電気回路または機構モデルの設計・制作 ○問題解決の評価、改善・修正		○エネルギー変換の技術の最適化 ○これからのエネルギー変換の技術	学習内容
月	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	時数合計
<b>家庭分野</b>	食事の役割と食習慣【B(1)ア(アイ)、(2)ア(アイ)】 中学生に必要な栄養を満たす食事【B(1)ア(イ)、(2)ア(イ)】 さまざまな食品とその選択【B(3)ア(ア)】 非常食の調理【B(3)ア(イ)(ウ)イ】		地域の食文化【B(3)ア(イ)】 献立づくり【B(2)ア(イ)】 持続可能な食生活【B(1)、(2)、(3)】		家庭生活と消費【C(1)アイ】 購入支払いと生活情報【C(1)アイ】 消費者被害と自立【C(2)アイ】 持続可能な社会【C(1)、(2)】		生活の課題と実践【B(7)、C(3)】	<b>35</b>				
配当時間	22		11		2							
資質・能力の 三つの柱	知識及び技能	○生活の中で食事が果たす役割について理解すること。 ○中学生に必要な栄養の特徴が分かり、健康に良い食習慣について理解すること。 ○栄養素の種類と働きが分かり、食品の栄養的な特質について理解すること。 ○中学生の1日に必要な食品の種類と概量が分かり、1日分の献立作成の方法について理解すること。		○日常生活と関連付け、用途に応じた食品の選択について理解し、適切にできること。 ○食品や調理用具等の安全と衛生に留意した管理について理解し、適切にできること。 ○材料に適した加熱調理の仕方について理解し、基礎的な日常食の調理が適切にできること。 ○地域の食文化について理解し、地域の食材を用いた和食の調理が適切にできること。		○購入方法や支払方法の付随する計画の管理や管理の責任について理解すること。 ○売買契約の仕組み、消費者被害の背景とその対応について理解し、物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理が適切にできること。 ○消費者の基本的な権利と責任、自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解すること。		知識及び技能				
	思考力、判断力、表現力等	○健康に良い食習慣について考え、工夫すること。 ○中学生の1日分の献立について考え、工夫すること。 ○日常の1食分の調理について、食品の選択や調理の仕方、調理計画を考え、工夫すること。		○物資・サービスの選択に必要な情報を活用して購入について考え、工夫すること。 ○身近な消費生活について、自立した消費者としての責任ある消費行動を考え、工夫すること。		○食生活の中から問題を見いだして課題を設定し、その解決に向けてよりよい生活を考え、計画を立てて実践できること。 ○自分や家族の消費生活の中から問題を見いだして課題を設定し、その解決に向けて環境に配慮した消費生活を考え、計画を立てて実践		思考力、判断力、表現力等				
	学びに向かう力、人間性等	○食生活を工夫し創造しようとする実践的な態度。 ○食生活における日本の生活文化を継承しようとする態度。		○身近な消費生活と環境について工夫し創造しようとする実践的な態度。		○身近な消費生活と環境について工夫し創造しようとする実践的な態度。		学びに向かう力、人間性等				
学習内容	○食事の役割 ○健康に良い食習慣 ○中学生の発達に必要な栄養 ○栄養素のはたらきと6つの基礎食品群 ○栄養バランスを目で見て判断 ○生鮮食品の選択と保存		○加工食品の選択 ○食品の安全と情報 ○調理の計画 ○おいしさ調理 ○ますます好きになる肉の調理 ○こんなにおいしい魚の調理		○好きになる野菜の調理 ○地域の食文化 ○1日分の献立 ○持続可能な食生活をめざして		○消費生活のしくみ ○家庭生活における収入と支出 ○いろいろな購入方法 ○購入前に知っておくこと ○いろいろな支払方法 ○情報を活用した上手な購入	○生活の課題と実践	学習内容			

# 技術・家庭科 年間指導計画（3年）

学校で育成を目指す 資質・能力		学習の基盤となる資質・能力					現実的な諸課題に対応して求められる資質・能力							
		＜言語能力＞					＜自分づくり＞							
小中で教科と関連付けた 資質・能力		豊かな表現を工夫する力 相手の思いを受け止めて聞く力 伝え合うことで自分の考えを深化させる力		事実等を解釈し自分の考えを形成する力 感じたことを言葉にする力 互いの考えの違いへの気付き			伝え合うことで自分の考えを深化させる力 メタ認知する力 主体性・積極性		意思決定する力 自分らしさを発揮しようとする姿勢 基本的な生活習慣をつくる態度					
技術・家庭科と関連付けた 資質・能力		考えの妥当性や信頼性を吟味する力 言語で正確に伝える力 事実等を正確に理解する力		他者に的確に分かりやすく伝える力 目的や意図に応じて伝えるべきことを整理する力			よりよい社会を創る態度 共生社会を形成しようとする意識 様々な情報を活用・選択する力		主体的に社会参画する姿勢 地域に貢献する姿勢 課題に対応する力					
学習指導要 領における目 標	知識及び技能	<p>（技）生活や社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深める。</p> <p>（家）家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。</p>												
	思考力、判断力、表現力等	<p>（技）生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を養う。</p> <p>（家）家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。</p>												
	学びに向かう力、人間性等	<p>（技）よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。</p> <p>（家）自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。</p>												
月	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	時数合計		
<b>技術分野</b> <b>家庭分野</b>	<p>情報の技術の原理・法則と仕組み【D(1)アイ、D(2)ア】            双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題解決【D(2)アイ】            幼児の生活と家族【A(2)ア(ア)】            幼児とのかかわり【A(2)ア(イ)】            持続可能な家庭生活を目指して【A(1)、(2)、(3)】</p>						<p>計測・制御のプログラミングによる問題解決【D(3)アイ】            社会の発展と情報の技術【D(4)アイ】            生活の課題と実践【A(4)】</p>			3年間の振り返り		35		
配当時間		22						10			3			
資質・能力の 三つの柱	知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>○情報の表現や通信などについての理解</li> <li>○情報のデジタル化や情報セキュリティなどに関わる基礎的な技術の仕組みの理解</li> <li>○情報通信ネットワークの構成と、情報を利用するための基本的な仕組みの理解</li> <li>○安全・適切なプログラムの制作、動作の確認及びデバック等ができる技能</li> <li>○幼児の発達と生活の特徴が分かり、子どもが育つ環境としての家族の役割について理解すること。</li> <li>○幼児にとっての遊びの意義や幼児との関わり方について理解すること。</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>○計測・制御システムの仕組みの理解</li> <li>○安全・適切なプログラムの制作、動作の確認及びデバック等ができる技術</li> <li>○生活や社会に果たす役割や影響に基づいた情報の技術の概念の理解</li> </ul>					知識及び技能		資質・能力の 三つの柱
	思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○情報の技術に込められた工夫を読み取る力</li> <li>○情報の技術の見方・考え方の気付き</li> <li>○情報の技術の見方・考え方を働かせて、問題を見いだして課題を設定し解決できる力</li> <li>○幼児とのよりよい関わり方について考え、工夫すること。</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>○情報の技術の見方・考え方を働かせて、問題を見いだして課題を設定し解決できる力</li> <li>○よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、情報の技術を評価し、適切に選択、管理・運用したり、新たな発想に基づいて改良、応用したりする力</li> <li>○家族、幼児の生活又は地域の生活の中から問題を見い出して課題を設定し、その解決に向けてよりよい生活を考え、計画を立てて実践できること。</li> </ul>					思考力、判断力、表現力等		
	学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○進んで情報の技術と関わり理解し技能を身に付けようとする態度</li> <li>○自分なりの新しい考え方や捉え方によって、解決策を構想しようとする態度</li> <li>○自らの問題解決とその過程を振り返り、よりよいものとなるよう改善・修正しようとする態度</li> <li>○家庭生活を支える一員として生活をよりよくしようとする態度。</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分なりの新しい考え方や捉え方によって、解決策を構想しようとする態度</li> <li>○自らの問題解決とその過程を振り返り、よりよいものとなるよう改善・修正しようとする態度</li> <li>○よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、情報の技術を工夫し創造していこうとする態度</li> <li>○家庭生活を工夫し創造しようとする実践的な態度。</li> <li>○家庭生活を支える一員として生活をよりよくしようとする態度。</li> <li>○地域の人々と関わり、協働しようとする態度。</li> </ul>					学びに向かう力、人間性等		
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○情報のデジタル化</li> <li>○情報通信ネットワークの仕組み</li> <li>○安全に利用するための情報セキュリティ</li> <li>○情報の技術の工夫の読み取り</li> <li>○問題解決の評価・改善・修正</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○幼児のこころと今の自分</li> <li>○幼児の体の発達</li> <li>○幼児の心の発達</li> <li>○発達にとってのおとなの役割</li> <li>○遊びが必要なわけ</li> <li>○遊びを支える環境</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ふれ合い体験の前に</li> <li>○ドキドキワクワクふれ合い体験</li> <li>○ふれ合い体験は幼児からの贈り物</li> <li>○子どもの成長と地域</li> <li>○持続可能な家庭生活をめざして</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○計測・制御システムとは</li> <li>○問題の発見、課題の設定</li> <li>○計測・制御システムの構想</li> <li>○計測・制御システムのプログラムの制作</li> <li>○問題解決の評価、改善・修正</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○情報の技術の最適化</li> <li>○これからの情報の技術</li> <li>○生活の課題と実践</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○SDGsと技術とのかかわり</li> <li>○学んだことを社会に生かす</li> </ul>		学習内容	



# 英語科 年間指導計画（1年）

学校で育成を目指す 資質・能力		学習の基盤となる資質・能力					現実的な諸課題に対応して求められる資質・能力						
		<b>&lt;言語能力&gt;</b>					<b>&lt;自分づくり&gt;</b>						
英語科と関連付けた 資質・能力		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 言語の面白さへの気づき</li> <li>○ 感じたことを言葉にする力</li> <li>○ 事実を解釈し自分の考えを形成する力</li> <li>○ 身近な語彙の豊かさ</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 夢や目標をもち、生き方を追求する姿勢</li> <li>○ 自己肯定感</li> <li>○ 他者の考えや思いに対する受容性</li> <li>○ 伝え合うことで自分の考えを深化させる力</li> </ul>						
学習指導要 領における目 標	知識及び技能	・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。											
	思考力、判断力、表現力等	・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。											
	学びに向かう力、人間性等	・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。											
月		4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	時数合計
<b>1年</b>		Let's be friends!	Unit1 Here We Go! Daily Life 1 国際郵便	Unit2 Club Activities Unit3 Enjoy the Summer	World Tour 1 世界の中学生 Active Grammer 1 You Can Do It! 1	Unit 4 Our New Friend	Unit 5 This Is Our School Daily Life 2 落とし物 Active Grammer 2	Unit 6 Cheer Up, Tina Active grammer 3 Dairy Life 3 カフェ	Wrold Tour 2 世界の時刻 Active grammer 4 Let's Read 1 What Am I? You Can Do it! 2	Unit 7 New Year Holidays in Japan	Active Grammer 5 Dairy Life 4 ウェブサイト Unit 8Getting Ready for the Party Active Grammer 6 Daily Life 5 ラジオの中継	Let's Read 2 The Lion and the Mouse You Can Do It! 3 Let's Read More My Japanese Lessons	教科書での 配当時数：100h  標準授業時数：140h
配当時間		7	9	16	5	9	11	11	5	10	13	4	
資質・能力の 三つの柱	知識及び技能	<p><b>L R SI SP W</b> 外国語を通じて言語の働きや役割を理解する。</p> <p><b>L</b> 外国語の音声や語彙、表現を「聞くこと」を主とした実際のコミュニケーションの場面において活用できる基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p><b>R</b> 読むことによって、外国語の文字、単語、語順に慣れ親しむことを通じて身に付けるようにする。</p> <p><b>SI</b> 外国語の音声や語彙、表現を「話すこと【やり取り】」を主とした実際のコミュニケーションの場面において活用できる基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p><b>SP</b> 外国語の音声や語彙、表現を「話すこと【発表】」を主とした実際のコミュニケーションの場面において活用できる基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p><b>W</b> 書くことによって、外国語の文字、単語、語順に慣れ親しむことを通じて身に付けるようにする。</p> <p><b>国際理解</b> 自他の文化を理解、尊重し、アイデンティティを育んでいくこと</p>										横 浜 版 で の 呼 び 方	
	思考力、判断力、表現力等	<p><b>L W</b> コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて身近で簡単なことから日常的话题について、相手の考えや気持ちなどを聞くことを主としながら伝え合う基礎的なコミュニケーション力</p> <p><b>L SI</b> 分からない状況であっても相手とのやり取り等を通じ内容を推測する力</p> <p><b>L R SI</b> 推測しながら話や状況の概要をつかむ力</p> <p><b>R</b> コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて文字、単語から簡単な文章などを読み理解する力</p> <p><b>SI</b> コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて身近で簡単なことから日常的话题について、自分の考えや気持ちなどを話すこと【やり取り】を主としながら伝え合う基礎的なコミュニケーション力</p> <p><b>SP</b> コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて身近で簡単なことから日常的话题について、自分の考えや気持ちなどを「話すこと【発表】」を主としながら伝える基礎的なコミュニケーション力</p> <p><b>W</b> コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて語順に気付き意識しながら書いて伝える力</p> <p><b>国際理解</b> 相手との相互理解を深め、協働して物事に取り組む力</p>											
	学びに向かう力、人間性等	<p><b>L R SI SP W</b> 言語やその背景にある文化の多様性を尊重し、他者に配慮しながら外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。</p> <p><b>L R SI SP W</b> 外国語を用いて主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。</p> <p><b>L R SI SP W</b> あいまいさに耐えながらコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。</p> <p><b>国際理解</b> 英語を通して、言語やその背景にある文化を尊重し、共生できる態度</p>											
内容（言語材料）		○気持ちや状態を表す言葉○色を表す言葉○国名○数を表す言葉○日付を表す言葉○月を表す言葉○アルファベットの大文字・小文字○基本的な単語	I am ~ . I like ~ . / I don ' t like ~ . I can ~ . / I can ' t ~ . ローマ字	Are you ~ ? Do you ~ ? Can you ~ ? What do you ~ ? I like dancing. I want to ~ .	How many ~ ? am, are / 一般動詞 / can 既習の表現	He is ~ . / She is ~ . Who is ~ ? Is he ~ ? / He isn ' t ~ .	Where is ~ ? Watch your step. When is ~ ? Whose ~ ? 代名詞	She likes ~ . Does she ~ ? She doesn ' t ~ . is / 3人称単数現在形 Which ~ ? How much ~ ?	What time ~ ? 疑問詞 既習の表現	I went ~ . Did you ~ ? It was ~ .	動詞の過去形 既習の表現 I am baking ~ . Are you baking ~ ? It looks ~ . 現在進行形 既習の表現	既習の表現	<b>【帯活動】</b> Sounds and Letters Story Retelling Let's Talk! Active Words
単元目標・到達目標		第Ⅱ期の連携	<p><b>L</b> 会話から、その人の情報を聞き取ることができる。</p> <p><b>W</b> 自己紹介カードに、自分の情報を書くことができる。</p> <p><b>W</b> 海外宛ての送り状に、宛名や住所を書くことができる。</p>	<p><b>L</b> 会話から、好みや得意なことなどを聞き取ることができる。</p> <p><b>SI</b> 好きなことや得意なことなどについて、たずね合うことができる。</p> <p><b>L</b> インタビューから、したいことなどを聞き取ることができる。</p> <p><b>SI</b> 夏休みにしたいことについて、アンケートを取るることができる。</p>	<p><b>L</b> 世界の挨拶や、中学生の生活の様子を知ろう。</p> <p>自分と相手のことを伝える言い方を整理しよう。</p> <p><b>R SP</b> 自己紹介で共通点・相違点を見つけよう。</p>	<p><b>L</b> 人物紹介から、基本的な情報を聞き取ることができる。</p> <p><b>SP</b> 身近な人などについて、基本的な情報を紹介することができる。</p>	<p><b>R</b> 学校公開の案内状から、時間や場所などを読み取ることができる。</p> <p><b>SI</b> お気に入りの学校の施設について、たずね合うことができる。</p> <p><b>SI</b> 落とし物の持ち主を探すやり取りができる。</p> <p><b>SI</b> 飲食店で、注文をするやり取りができる。</p>	<p><b>R</b> 紹介文から、その人物が誰かを読み取ることができる。</p> <p><b>W</b> 身近な人の基本的な情報を伝える、紹介文を書くことができる。</p> <p>自分と相手以外のことを伝える言い方を整理しよう。</p> <p><b>SI</b> 飲食店で、注文をするやり取りができる。</p>	<p><b>L</b> 日本と世界の時差について知ろう。</p> <p>yesやnoでは答えられない疑問文を整理しよう。</p> <p><b>R</b> 説明文から、“I”についての情報を読み取ることができる。</p> <p><b>L SP</b> 「ドリームファミリー」を紹介しよう。</p>	<p><b>R</b> はがきから、出来事や感想などを読み取ることができる。</p> <p><b>W</b> 冬休みの出来事や感想などを伝える、はがきを書くことができる。</p>	過去の出来事や状態などを伝える言い方を整理しよう。 <b>R</b> ウェブサイトから、必要な情報を読み取ることができる。 <b>L</b> 写真の説明から、その場の状況を聞き取ることができる。 <b>W</b> 写真に、状況を説明するキャプションを書くことができる。 している最中のことを伝える言い方を整理しよう。 <b>L</b> ラジオの中継から、現地の様子を聞き取ることができる。	<p><b>R</b> 物語から、あらすじを読み取ることができる。</p> <p><b>R SP</b> 学校行事の紹介ページを作ろう。</p> <p><b>R</b> レポートから、筆者の体験に基づく感想などを読み取ることができる。</p>	<p><b>R</b> 文字を正しく読むことができる。</p> <p><b>SP</b> ストーリーについて、簡単な語句や文を使い、その場で話すことができる。</p> <p><b>SI</b> 自分や相手のことについて、その場でやり取りすることができる。</p> <p>自分が言いたいことを伝えるための語彙を探して活用しよう。</p>

L: Listening 「聞くこと」 R: Reading 「読むこと」 SI: Spoken interaction 「話すこと(やり取り)」 SP: Spoken production 「話すこと(発表)」 W: Writing 「書くこと」

# 英語科 年間指導計画 (2年)

学校で育成を目指す 資質・能力		学習の基盤となる資質・能力						現実的な諸課題に対応して求められる資質・能力					
		<b>&lt;言語能力&gt;</b>						<b>&lt;自分づくり&gt;</b>					
英語科と関連付けた 資質・能力		○ 言語の面白さへの気づき ○ 感じたことを言葉にする力						○ 夢や目標をもち、生き方を追求する姿勢 ○ 自己肯定感					
○ 事実を解釈し自分の考えを形成する力 ○ 身近な語彙の豊かさ		○ 他者の考えや思いに対する受容性 ○ 伝え合うことで自分の考えを深化させる力											
学習指導要 領における目 標	知識及び技能	・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。											
	思考力、判断力、表現力等	・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。											
	学びに向かう力、人間性等	・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。											
月	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	時数合計	
<b>2年</b>	Unit1 Hajin's Dairy	Active Grammar 1 Unit 2 Basketball Tournament	Active Grammar 2 Daily Life 1電話 Unit 3 Plans for the Summer Active Grammar 3	Daily Life 2 アナウンス Let's Read 1 Sukh 's White Horse World Tour 1 いろいろな単位 You Can Do It! 1	Daily Life 3 レストラン Unit 4 Tour in New York City Daily Life 4 道案内	Active Grammar 4 Unit 5 Earthquake Drill Daily Life 5 イベントのお知らせ Daily Life 6 体調不良	Active Grammar 5 Unit 6 Work Experience Active Grammar 6 Active Grammar 7	Let's Read 2 Meet Hanyu Yuzuru World Tour 2 世界を舞台に働く人 You Can Do It! 2	Unit 7 Amazing Australia	Daily Life 7 観光案内 Active Grammar 8 Unit 8 Staging a Musical Active Grammar 9	Daily Life 8 音声ガイド Let's Read 3 Emojis World Tour 3 世界遺産めぐり You Can Do It! 3	教科書での 配当時数：108h  標準授業時数：140h	
配当時間	9	10	12	7	11	12	12	6	9	12	8		
知識及び技能	L R SI SP W 外国語を通して言語の働きや役割を理解する。 L 外国語の音声や語彙、表現、文法を、「聞くこと」を用いた実際のコミュニケーションの場面において活用できる技能を身に付けるようにする。 R 外国語の音声や語彙、表現を、「読むこと」を主とした実際のコミュニケーションの場面において活用できる基本的な技能を身に付けるようにする。 SI 外国語の音声や語彙、表現、文法を、「話すこと [やり取り]」を用いた実際のコミュニケーションの場面において活用できる技能を身に付けるようにする。 SP 外国語の音声や語彙、表現、文法を、「話すこと [発表]」を用いた実際のコミュニケーションの場面において活用できる技能を身に付けるようにする。 W 外国語の音声や語彙、表現を、「書くこと」を主とした実際のコミュニケーションの場面において活用できる基本的な技能を身に付けるようにする。 国際理解 自他の文化を理解、尊重し、アイデンティティを育てていくこと	L R SI SP W コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的・社会的で具体的な話題について表現し伝え合うことができるコミュニケーション力 L R コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、具体的な話題、簡単な情報や考えなどの概要を理解することができる力 SI W コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、具体的な話題、簡単な情報や考えなどの概要を理解し、それらを活用して表現し伝え合うことができる力 L SI 分からない状況であっても相手とのやり取り等を通じ内容を推測する力 L R SI 推測しながら話や状況の概要をつかむ力 国際理解 相手との相互理解を深め、協働して物事に取り組む力	L R SI SP W 外国語やその背景にある文化の多様性を尊重し、聞き手や話し手に配慮しながら、外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 L R SI SP W 外国語を用いて主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 L R SI SP あいまいさに耐えながらコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 国際理解 英語を通して、言語やその背景にある文化を尊重し、共生できる態度	知識・技能									
					思考力、判断力、表現力等	思考・判断・表現							
					学びに向かう力、人間性等	主体的に学習に取り組む態度							
内容 (言語材料)	I went ~. / How was ~? I was studying ~. When I was ~.	動詞の過去形 / 過去進行形 I don't like playing ~. Hajin wants to ~. I think (that) ~.	動名詞 / 不定詞(名詞的用法) May I ~? Can you ~? I'm going to ~. It will ~. If you are ~. be going to / will	既習の表現	Shall I ~? Will you ~? There is ~. / There are ~. Show me the leaflet. a place to stay Could you ~? How long ~?	目的語 have to / don't have to must / must not should / should not 既習の表現 think you should ~.	助動詞 He's here to help you. ~ because ... I'm glad to hear ~. 不定詞(形容詞的用法・副詞的用法) 接続詞	既習の表現	比較級, 最上級, as ~ as ...	既習の表現 were written by ~ make me nervous want you to do ~ 受け身の文	既習の表現	【帯活動】 Story Retelling Let's Talk! Active Words	
単元目標・到達目標	R 日記から、出来事や感想などを読み取ることができる。 W 日記に、出来事や感想などを書くことができる。	過去の出来事や状況などを伝える言い方を整理しよう。 L インタビューから、好きなことなどを聞き取ることができる。 SI 好きなことやしたいことなどについて、たずね合うことができる。	～することの言い方を整理しよう SI 電話で、何かを頼んだり応じたりすることができる。 R メールから、予定や希望などを読み取ることができる。 W 予定や希望などを伝えるメールを書くことができる。 未来のことを伝える言い方を整理しよう。	L アナウンスから、必要な情報を聞き取ることができる。 R 物語から、出来事の経過を読み取ることができる。 L 日本とは異なる単位について知ろう。 R SP わが町観光プランをおすすめしよう。	SI 飲食店で、注文したり何かを依頼したりすることができる。 R ガイドブックから、施設やできることなどを読み取ることができる。 SP 施設やできることなどについて、場所を紹介することができる。 SI 行き方をたずねたり教えたりする、道案内のやり取りができる。	動詞の後ろにくる言葉を整理しよう L 説明から、どんなものかを聞き取ることができる。 SI 防災バッグに入れるものを決める、話し合いをすることができる。 R 複数の掲示物から、自分が必要とする情報を読み取ることができる。 SI 体調をたずねたり、助言をしたりするやり取りができる。	話し手の考えを動詞に加える言葉を整理しよう。 R レポートから、職場で体験したことや感想などを読み取ることができる。 W 職場で体験したことや感想などを伝える、レポートを書くことができる。 to+動詞の原形が表すいろいろな意味を整理しよう。 文と文をつなぐ言葉を整理しよう	R インタビュー記事から、人物の経歴や思いを読み取ることができる。 S 世界で活躍する人たちについて知ろう。 R SI 職業診断のチャートを作ろう。	R 観光紹介の記事から、名所や特色などを読み取ることができる。 W 町の名所や名物などを伝える、紹介文を書くことができる。 L 音声案内から、おおまかな情報を聞き取ることができる。 R 観光案内情報から、必要な情報を読み取ることができる。	何かを比べて説明する言い方を整理しよう。 R 学級新聞から、作品紹介のおおまかな内容を読み取ることができる。 SP 作者やおおまかな内容などについて知ろう。 L SP 日本のおもしろいものを紹介しよう。	L 音声ガイドから、絵画のおおまかな情報を聞き取ることができる。 R 説明文から、絵文字の概要を読み取ることができる。 L いろいろな国の世界遺産について知ろう。 L SP 日本のおもしろいものを紹介しよう。	SP ストーリーについて、簡単な語句や文を使い、その場で話すことができる。 SI 自分や相手のことについて、その場でやり取りすることができる。 自分が言いたいことを伝えるための語彙を探して活用しよう。	

L: Listening 「聞くこと」 R: Reading 「読むこと」 SI: Spoken interaction 「話すこと(やり取り)」 SP: Spoken production 「話すこと(発表)」 W: Writing 「書くこと」



# 英語科 年間指導計画（3年）

学校で育成を目指す 資質・能力		学習の基盤となる資質・能力 <b>&lt;言語能力&gt;</b>						現実的な諸課題に対応して求められる資質・能力 <b>&lt;自分づくり&gt;</b>						
英語科と関連付けた 資質・能力		○ 言語の面白さへの気づき ○ 感じたことを言葉にする力 ○ 事実を解釈し自分の考えを形成する力 ○ 身近な語彙の豊かさ						○ 夢や目標をもち、生き方を追求する姿勢 ○ 自己肯定感 ○ 他者の考えや思いに対する受容性 ○ 伝え合うことで自分の考えを深化させる力						
学習指導要 領における目 標	知識及び技能	・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。												
	思考力、判断力、表現力等 学びに向かう 力、人間性等	・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。												
		・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。												
月	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	時数合計		
<b>3年</b>	<b>Unit 1</b> School Life Around the World	<b>Daily Life 1</b> ディスカッション <b>Unit 2</b> Our School Trip	<b>Daily Life 2</b> 留守番電話 <b>Unit 3</b> Lessons From Hiroshima <b>Active Grammar 1</b>	<b>Let's Read 1</b> From the Diary of Kawamoto Itsuyoshi <b>World Tour 1</b> Living With Animals <b>You Can Do It! 1</b>	<b>Unit 4</b> AI Technology and Language <b>Let's Read 2</b> Robots Make Dreams Come True <b>Daily Life 3</b> ポスター	<b>Unit 5</b> Plastic Waste <b>Daily Life 4</b> ニュース	<b>Unit 6</b> The Chorus Contest <b>Active Grammar 2</b> <b>You Can Do It! 2</b>	<b>Unit 7</b> Tina's Speech <b>World Tour 2</b> How Do We Live?	<b>Let's Read 3</b> Changing the World <b>Unit 8</b> Goodbye, Tina	<b>You Can Do It! 3</b> <b>Let's Read More</b>	教科書での 配当時数：95h  標準授業時数：140h			
配当時間	9	10	12	7	14	10	13	8	10	2				
資質・能力の 三つの柱	知識及び技能	<b>L R SI SP W</b> 外国語を通して言語の働きや役割を理解する。 <b>L</b> 外国語の音声や語彙、表現、文法を、「聞くこと」を用いた実際のコミュニケーションの場面において活用できる技能を身に付けるようにする。 <b>R</b> 外国語の音声や語彙、表現を、「読むこと」を主とした実際のコミュニケーションの場面において活用できる基本的な技能を身に付けるようにする。 <b>SI</b> 外国語の音声や語彙、表現、文法を、「話すこと [やり取り]」を用いた実際のコミュニケーションの場面において活用できる技能を身に付けるようにする。 <b>SP</b> 外国語の音声や語彙、表現、文法を、「話すこと [発表]」を用いた実際のコミュニケーションの場面において活用できる技能を身に付けるようにする。 <b>W</b> 外国語の音声や語彙、表現を、「書くこと」を主とした実際のコミュニケーションの場面において活用できる基本的な技能を身に付けるようにする。 <b>国際理解</b> 自他の文化を理解、尊重し、アイデンティティを育んでいくこと										横 浜 版 で の 呼 び 方	知識・技能	
	思考力、判断力、表現力等	<b>L R SI SP W</b> コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的・社会的で具体的な話題について表現し伝え合うことができるコミュニケーション力 <b>L R</b> コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、具体的な話題、簡単な情報や考えなどの概要を理解することができる力 <b>SI W</b> コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、具体的な話題、簡単な情報や考えなどの概要を理解し、それらを活用して表現し伝え合うことができる力 <b>L SI</b> 分からない状況であっても相手とのやり取り等を通じ内容を推測する力 <b>L R SI</b> 推測しながら話や状況の概要をつかむ力 <b>国際理解</b> 相手との相互理解を深め、協働して物事に取り組む力												思考・判断・表現
	学びに向かう力、人間性等	<b>L R SI SP W</b> 外国語やその背景にある文化の多様性を尊重し、聞き手や話し手に配慮しながら、外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 <b>L R SI SP W</b> 外国語を用いて主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 <b>L R SI SP</b> あいまいさに耐えながらコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 <b>国際理解</b> 英語を通して、言語やその背景にある文化を尊重し、共生できる態度												主体的に学習に取り組む態度
内容（言語材料）	The classes are taught ~. Let me show you ~. Ms. Brown told us that ~.	既習の表現 現在完了形<完了> 現在完了形<経験>	既習の表現 現在完了形<継続> 現在完了進行形 It is ~ for us to ....	既習の表現	関係代名詞<主格>which, who, that 既習の表現	関係代名詞<目的格> which, that 接触節	two people playing ~ T-shirts designed by ~ Tell us why you are ~. 後置修飾 既習の表現	what to expect ~ If I could ~, I would ~. 既習の表現	I wish you weren't ~. 既習の表現	既習の表現	【帯活動】 Story Retelling Let's Talk! Active Words			
単元目標・到達目標	R 学校紹介の記事から、日本の学校との違いを読み取ることができる。 SP 読んだ記事について、意見を発表することができる。	L 話し合いから、それぞれの意見や最終的な結論を聞き取ることができる。 L 会話から、おすすめの場所やしたことなどを聞き取ることができる。 SI おすすめの場所について、教え合うことができる。	L SI 留守番電話の伝言を聞き、用件に応じたやり取りができる。 R 文章から、人物の経験や心情などを聞き取ることができる。 SP 読んだ文章について、感じたことなどを発表することができる。 過去とつながりのある現在の状態を伝える言い方を整理しよう。	R SI 日記から出来事や気持ちを読み取り、筆者について想像したことを伝え合うことができる。 L 絶滅危惧種の現状やその原因について知ろう。 L SP 「現在」と「過去」の相違点を挙げよう。	R 投稿文から、それぞれの意見の要点を読み取ることができる。 W 読んだ投稿文について、感想や自分の意見を書くことができる。 R SI 説明文の要旨を読み取り、自分の考えを伝え合うことができる。 R ポスターから、必要な情報を読み取ることができる。	R プレゼンテーションから、話の流れを読み取ることができる。 SI 読んだプレゼンテーションについて、感想や考えを伝え合うことができる。 L SP ニュースを聞いて要点を捉え、おおまかな内容を説明することができる。	L 絵の説明から、場面や状況を聞き取ることができる。 SP 絵にふさわしいせりふを考えて、発表することができる。 名詞の後ろに説明を追加する言い方を整理しよう。 R SP 学校に必要なものを考えて意見を伝えよう	L スピーチから、話し手がいざばん伝えたいことを聞き取ることができる。 SP 今の自分の様子を伝え、スピーチをすることができる。 R 世界の現状を知ろう。	L SI スピーチから話し手の主張を読み取り、自分の考えを伝え合うことができる。 R 手紙から、書き手のいざばん伝えたいことを読み取ることができる。 W 自分の気持ちを伝え、手紙を書くことができる。	R W 3年間を締めくくる言葉を考えよう。	SP ストーリーについて、簡単な語句や文を使い、その場で話すことができる。 SI 自分や相手のことについて、その場でやり取りすることができる。 自分が言いたいことを伝えるための語彙を探して活用しよう。			

L: Listening 「聞くこと」 R: Reading 「読むこと」 SI: Spoken interaction 「話すこと(やり取り)」 SP: Spoken production 「話すこと(発表)」 W: Writing 「書くこと」